

堂倉滝 (大杉谷溪谷)

三浦 弘幸

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて32年目

——実績と体験に基づいた旅作り——
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーがお応えいたします。

**カナディアン・ロッキー・パノラマ
ハイキング 10日間 <閑空発着>**

出発日 ●7/20 ●8/3 ●8/17 ●8/31
¥518,000～¥560,000

**マウントロブソンとシャドーレイク
ロッジ 9日間 <閑空発着>**

出発日 ●7/13 ●8/3 ●8/18 ●9/1
¥450,000～¥518,000

**スイスアルプス・ハイキングと氷河急行
(夏休み特別企画) 8日間 <閑空発着>**

出発日 ●8/12 特別価格 ¥375,000

**カコムとバミール高原の旅 12日間
出発日 ●8/17 ¥435,000 <閑空発着>**

**四姑娘山・フラワー・バケーション 7日間
出発日 ●7/19・26 ●8/2 <閑空発着>**

¥262,000～¥278,000

ネパール・ヒマラヤ・トレッキング (チャーター便運行決定) 10/29・11/2・5・9・16発 9日間 閑空発着

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店 / 〒550-0004 大阪市西区鞠本町1-10-22 (新御堂ビル4階)
TEL: 06-6444-3033 / FAX: 06-6444-3032
広島サービスセンター (大阪支店転送) TEL: 082-542-1660

新ハイキングクラブ関西支部
創立10周年記念 海外山行

**マレーシア最高峰
Mt. キナバル登頂 6日間**

10月31日(水)～11月5日(月)

<閑空発着>

旅行代金(特別価格) ¥150,000

募集定員: 20名

※申込方法など詳細は本誌・山行計画
98ページをご覧ください。

**スイスアルプス・サメリックと山上の村、氷河展望
ハイキングと氷河特急8日間 <閑空発着>**

出発日 ●6/30 ●8/18 ●9/8 ●9/22
¥315,000～¥375,000

**パルピャ・アデスの山旅5,300m峰登頂と
チチカカ湖 11日間 <閑空発着>**

出発日 ●7/11 ●8/15 ●9/12
¥398,000～¥470,000

**マレーシア最高峰Mt. キナバル登頂と
ジャングル・クルーズ8日間 <閑空発着>**

出発日 ●9/19 ¥226,000

海外トレッキング <特設説明会>

◆ネパール・ヒマラヤ・トレッキング説明会
<6/28・8/2・9/5・9/27>

会場: 大阪科学技術センター 入場無料
時間: 昼 14:00～16:00 夜 18:30～20:30
(地下鉄四つ橋線本町駅下車・北へ徒歩5分)

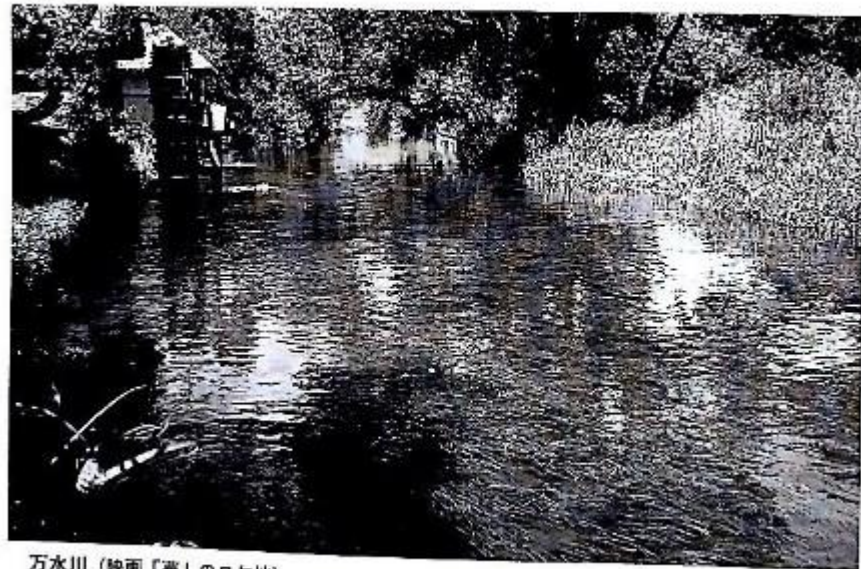
ご購入下さい!

アルパインツアー、総合
ツアーカタログ、
「世界の山旅・辺境の旅」
夏～秋号。海外・国内の
ハイキング・トレッキン
グ・登山コース満載!



道祖神

安曇野には懐かしい風景が残る
 白壁の土蔵 澄み渡る空
 可憐な草花 星のランプ
 真正面に美しい常念岳
 清冽な流れに水藻がゆれ
 村の中心 三叉路 野道に
 伊弉冉 伊弉諾の像がたたずむ
 遠慮がちに寄り添い
 何気なく手を握り
 堂々と腕を組む
 愛をこめてぐっと抱きしめる
 像の周りには松竹梅 菊の花弁
 五穀豊穡 無病息災 子孫繁栄
 柔らかな風景の中に素朴な信仰が
 ひっそりと息づいている



万水川 (映画『夢』のロケ地)

Photo essay

安曇野



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一



ラベンダー畑 (松川村)

剣山(四国)



イヨフクロ (シコクフクロ)



山頂



クガイソウ

にて

盛夏

撮影 武市通治



立枯れ



剣の岩



剣岳八ツ峰 (北アルプス)

榎原 計国



正木ヶ原 (大台ヶ原)

三浦 弘幸



立山 (北アルプス)

榎原 計国



立山 (アイヌ野原より・北海道)

中川 光郎

●目次

表紙：松田敏男「観岳盛夏」(北アルプス)

●表紙プロフィール ●1949年、京都府生まれ。京都市立芸文大学卒。1987年より山岳雑誌、山岳雑誌の編集者として、(98)年山岳雑誌、南アルプス山小屋、東京キャリア(99年、100年) 京都市と野山に親しむ会代表、日本山岳会会員、一級山岳研究員

新時代 別冊 関西の山 1999年7・8月 盛夏 第50号

●グラビエ	安曇野	堀形	由井	収	文	松永	志一					
(口絵) 三浦弘幸	中川光郎	榎原計四	奥田英一郎			武市	通治					
越前(山のエッセイ)	長谷谷(吾生)	にて	近畿のフナ林	「高野」の歴史								
紀行	礼文・利尻(北海道)	出羽三山(東北)	青森山(北アルプス)	白馬山(北アルプス)	別山から白山(白山)	武奈ヶ岳花嫁と西南樓を歩く(比叡)	須磨アルプスの道(六甲)	ラムラム山(マリアナ諸島)	連環(三角点を訪ねて)	わが故郷の山・栗駒山へ(東北)	湯森(比良を歩く)	蓬萊山・ホッケ谷道
●旗振り道徳の研究	三重県北部ルート	●一等三角点(500m以上) 548座完全登の記録(第26回)	●空問の高山(登山)と拾得感	●文学歴史探訪ハイイク(天候の地・笠置山を訪ねて)	●山のレポート(山名の由来について)	コース	ガイド					
沿線ハイキングガイド	サービスマニュアル	せせらぎ	84	84	82	新ハイ関西山行計画と報告	バス時刻表(台高)	編集後記・広告案内	112	110	89	



岩木山(頂)にて



八幡平にて



チングルマの群落(秋田駒ヶ岳にて)

巻頭言

山から帰った後、コースタイムなどの記録を残すことにしましょう。ちょっととした文章と写真があればいい思い出になるでしょう。当会では、山行報告にコースタイムとリーダーの短いコメントを記し、参加者全員が掲載することにしています。

昨今は文章を「書くこと」が大半の人が多いが、高校の新指導要領では「国語表現」を国語教科の必須選択科目とし、特に力を入れていきます。

インターネットで情報を得ることはよくして、自ら情報を発信しようとする人は少ないようです。この雑誌は、編集部が記事を作成することはあえてしていません。すべて読者の寄稿によって編集しています。

あまり知られていない関西の山は、その良さを発表することによって盛り上がり、より魅力的に輝くでしょう。いくつさばさばしい山やコースであっても、だれにも歩かれないで、また紹介されないのではかわいそうです。短い文章で結構です。常に新しい情報が発信できますよう、皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

新ハイキング関西(代表) 村田 智俊



随想 (山のエッセイ)

へメールに寄せて

長治谷(芦生)にて

奥田 英一郎

N君、ごぶさたしました。

駿河路や花柄も茶の匂ひ
芭蕉

こんな句がふと浮かんでくる、
新茶のおいしい季節になりました。

感雪の鹿島楢では、存分に春
山を楽しんで来られたのでしょ
う。

私の方は、過日、K君たちと
テントを持って、由良川の蘆流・
芦生の森をのんびり歩いてきま
した。明えいずる新緑が微妙に
入り混じる小道と、亭々とそび
える樹を仰ぎ見ながら歩いた水
上の爽涼とした気分は、なかなか

かのものでした。が、長治谷の
幕営地で、ちょっとした不思議
さに出合いました。

夕食に季節はずれのきのこの鍋
をいただきました。何種類かの
市販のきのこの豚肉を入れて味
嗜味にした簡単なものでした。
クリタケ・ナラタケ・カラマツ
タケとかいった秋の雑茸などで
はなくて残念でしたが、道端で
摘んできたナズナとか・ニリン
ソウなどを青菜の代わりに入れ
て、お酒もけっこうすすみました。
た。

機嫌よく駄弁っているうちに
すっかり夜も更けたころ、後ろ
の黒々とした山裾に、赤橙色のあ
かりが見えました。思わず、何
だろう！と声をあげると、皆一
様にあかりの方を見やったので
す。星のない暗闇のなかを人が
走るくらい速さで、しかも音
もなく、上下にやや揺れるよう
にして長治谷の奥に吸い込まれ
るように見えなくなりました。

ちょっとと異様な気がしたので
すが、皆はそれほど気にしてい
なかったようでした。ヘッドラ
ンプのあかりにしてははずいぶん
へたつた感じだし、山裾には踏
み跡ほどの小道はあったけれど、
あの速さで移動するにはとても
無理な山道だし、作業所の人
出かけるには不自然な時間では
た。それに、夕暮どきには作業
所の建物と訓練の入口を確かめ
たのですが、がっかりと絶望さ
れていたのです。

長治谷については以前から怪
しげな話を聞いてはいましたが、
それほど、怖がることでもな
いと思つて、皆の話の中に入りま
した。さり気なく話題を変えて、
以前何かの本で読んだことを思
い出して、「そう言えば、この
作業所前の芝生で月夜の晩には
兎が踊るそうなの……」と言つた
のですが、だれもがただ一笑に
ふして本気にしなかつたので
す。

ところが、夜半過ぎに水を飲
みに起きた仲間一人が、テン
トに飛んできて、少々上ずった
声で、「今、見ましたよ！ ヘッ
ドランプのなかに兎が跳んで行
きました」と言うのです。おお
かた、洗ひ残しの野菜か何かを
食べに来たのだらうと思ひなが
ら——「そらみろっ、これで二
匹の兎が芝生の上で跳び遊ぶこ
とだってあるのだ……」と言つ
てやり、「それにしても熊でな
くてよかつたなあ……」と笑つ
たのでした。

翌朝、目を覚ますと、深い霧
でした。近くの山も谷も全く見
えない濃霧のなか、一人起き出
して山の気を味わい、ボンヤリ
テントの前に坐っていたのです。
その時、静かな山間の奥に人声
のような気配がしたのです。思
わず耳を澄ますと、確かに人の
声が近づいて来るのです。一瞬、
この人里遠く離れた山奥で、し

かもついきましたが夜が白みか
けたばかりの時刻だというのに
いったいだれがどこへ行くとい
うのか。

声は次第に大きくなって、何
かうたつてでもいるようでした
が、姿はなかなか見えませんで
した。声のする方をじっと目を
凝らして見えていますと、霧のな
かにボンヤリと姿が浮かんでき
ました。目の前に現れたのは作
業衣姿の五十歳くらいの男性で
した。ザックも背負わず手には
何も持たず……。その瞬間、こ
ちらの存在に気づいてやや驚い
た風でしたが、「オハヨウゴザ
イマス……、寒くはなかつたで
すか」とあいさつをするのです。
起き抜けの予期せぬ人物の出現
にとまどって、私のほうは何か
曖昧な返事をしたようです。ど
こから来てどこへ行くのか訊ね
る間もなく、あつという間に男
は霧のなかに消えてしまったの
です。

気がつくくと、濃霧の奥から再
びあの朗朗とうたう声が続いて
きたのです。
べんせいしくくしくくよる
かわをわたる——
男はあの頼山陽の「不識者の
機山を撃つる國に幽す」という、
有名な信玄と謙信とが川中島で
渡り合う、あの勇壮な戦いの詩
を吟じていたのです。

霧のなかに飄然と現れて、
幻のように消え去り、やがて朗
吟する声だけが、朝霧のなかに
漂う……。あの人間離れした姿
にある種の羨望を感じながらも、
ふとわれにかえって、あれは朝
方に見た、夢の続きだったのか
と思つたくらいでした。
昨夜見たあの異様な鬼火のよ
うなあたり。そしてまた、朝方
の夢かうつつかわからない出来
事は、いったい何だったのでしょ
う。
科学の進歩は日進月歩、めざ



随想 (山のエッセイ)

ましいい発展を遂げ、今や宇宙の謎に迫ろうとしています。が一方、神への冒瀆とも思えることをもやり始めました。原子爆弾がそうですし、クローン人間もそうです。

科学を否定するわけではありませんが、酸素ボンベを使わずに世界の最高峰の頂を十回も踏んだというガイドのアン・リタ(ネパール)は、「エベレストは登山者にとってほろこると氷雪の塊かもしれないが、私にとっては神様なんだ」と言っています。さらに彼は、「山の神にきちんとお祈りさえすれば、何回だって安全に頂上に行ける」と語っていたそうです。

われわれ植人だって山の神を畏れ敬い、供え物をし、お祈りをしてから敬虔な心で山に入っているではありませんか。そんなことを考えてみると、現代の人間は自然に対して畏れ敬う心を次第に失っているような気が

してなりません。

昨夜来の不思議な出来事、あれは、ひょっとすると木霊たちが、自然に対して畏れ敬う心を失った人間どもに送る警鐘のように思えてくるのでした。

少し短絡に通じると叱られそうですが――。芦生の森はそんなことを考えさせる所だったのでした。

6月の始めの土曜日の夜は、A山匠会のケルン祭に招かれています。例年、六甲の蓬莱峡でやるのです。夜を徹しての宴になりそうだけれのですが、近くの谷川で鳴くカジカがすがすがしい声を聞くのが楽しみです。

それではご機嫌よろしゅう!!

(注)
「不誠菴の横山を撃つ図に題す」

「不誠菴」夜河を過る。壁に見る千兵大牙を推すを。追根なり十年「剣を磨き流星光底に長蛇を流す」

横山閣

印ニリンソウはホンボウゲ科に属し、有毒植物となつていますが、普通の食用草として利用されます。若いものはゆでて和えもの、煮もの、ひたしなどに。大きくなつたものはてんぷらで食べます。

ただし、春の新芽は有毒のトリカブトによく似ていますので、採集にはくれぐれも御注意を。同じ仲間イネリンソウは有毒ですが、サンリンソウは食べられます。

(編集室)

近畿のブナ林

尾家 健生

森林生態学者の四手井綱英先生は、日本の森林の中でブナ林が最も好きであると言われている(『森に学ぶ』海鳴社)。ほかにも多くの林学の専門家がブナについて一般向けの本を書いている。

ブナの樹林を綴り綴けるカメラマンも多く、写真集が何冊も出されている。ブナを主人公にした画集や特集もある。

最近ではインターネットの掲示板に、とある女性から「ブナの木が好きなんですか」という投稿があり、けっこう人気のあるサイトになっている。

白神山地の「春秋林道反対運動の一人、藤田孝一」さんの著書『白神山地に生きる』の中の「ブナの林」という東北弁で

語られる詩があつて、ブナとブナ山への深い愛情が痛切に胸に迫ってくる。

このようにブナは日本人に愛されている。私もその一人で二年前から近畿のブナ林の山を歩いている。およそ50回の山行を重ね、ほぼブナのある山を網羅したが、まだ全てに行つたわけではない。山行計画にあたっては本誌もぜひご参考になさせてもらつた。特に岩野さんの「近江刺から登る鈴鹿の山々」シリーズのおかげで、御池岳南のT字尾根や綿向山南尾根に行くことができた。

近畿のブナの植生は但馬・丹後・北山・比良・湖西・湖北・鈴鹿・台高・大峰・葛城・果無・大塔の山域にわたっている。

全体に共通しているのはブナ林は植林帯とのせめぎ合いのなかに残されている、という印象だ。近畿のブナは標高9000m

から見られ、南の大峰では11000m、日本海に近い環境では6000mから見られる所もある。杉や檜の植林は奥山深く入り込んで尾根にまで達し、尾根付近にわずかにブナが残っているというのが、近畿のブナ林の現在の現状だ。

大峰山脈の南部、玉置山の南に大森山という山がある。1078mで、その山名から察すると豊かな樹木と森におおわれた山という感じがするが、現在は全山植林の山だった。尾根にわずか20本ばかりのブナが残っていた。昭和二十、四十年代の伐採のすさまじさを感じさせる光景だった。

それでも美しいブナ林はいくつもあつた。ブナの特徴から雪の多い日本海側の環境に美しいブナが多い。湖西の駒ヶ岳の稜線や黒河越から乗鞍岳への稜線、湖北の横山岳や上蔵岳のブナ林はなかなかのものだ。残雪の時



随想 (山のエッセイ)

期に歩いた土蔵岳の峻険のブナ林はとりわけすばらしく、2日にわたって残されたブナは奇跡でさえあった。

近畿のブナの山のメッカとも言える丹後半島の高山、近畿の尾根大峰山脈と合流の山々、積雪の多い水ノ山、扇ノ山、芦生などブナの山は多い。北山にもブナはある。品谷山の尾根筋、オグロ坂峠から峰床山への尾根、知世路山こもればの森から東の尾根にブナは見られる。比良の武奈ヶ岳はその名の通りブナの山だが、山頂直下のブナ林はあきらかに二次林である。一方、コヤマノ岳にはブナの原生林がある。原生林(あるいは原生林に近い)か二次林かは見ればわかるが、ブナの幹周りを測定することによってより明瞭になる。

例えば、朽木村の白倉岳の峻険のブナは幹周55号から270号までまんべんなくあり、一方、吉里ヶ岳では幹周75号から16

念場原は中世、清次という者が水田開発し、民戸繁栄して念場千軒ともいわれたが、のちに焼村になった。「甲陽軍鑑」には「根場原」と載り、天文八年(1539)武田晴信(のちの信玄)が信濃の武将村上義清方を敗つた古戦場でもあった。「おぼ」は「お」で、楠原佐介氏等による「動作がのろく鈍い」の意で、「緩傾斜地」という(地名用語辞典)。

長野・新潟県境の妙高高原はスキー場が最も古くから開け、温泉でも知られる観光地である。中世は修験者の山岳修行の場で、現在も妙高山(2448m)へ信仰登山が行われている。妙高は、もとは「越の中山」と言われたが、中山の中を「名香」と書き替えてミョウコウと音読し、さらに妙高という佳字に改めた。新潟県名香山村は昭和三十年(1955)妙高高原村、翌年妙高高原町となった。

7号で分布が狭く、百年、二百年前に人の手が入っているのではないかと想像される。芦生の杉尾峠では幹周40号から519号、大峰の大台辻では73号から326号、扇ノ山中国自然歩道では58号から393号と原生林に限りなく近いと推察される。ちなみに最大のブナ林は扇ノ山の393号であった。

ブナは里山でなく奥山の樹木である。奥山ではあるが木地師炭焼きなど、人との関わり合いの歴史があったことであろう。人との関わり合い以上に、ブナの森の恵みを求めてリスや熊など多くの動物が関わり、豊かな自然をもたらししてきた。

昭和時代には近畿のブナ林の九割が失われたという。

志賀高原は、志賀山(2086号)を中心とした溶岩台地で、溶岩が流れ出て凹凸面をつくり、大小の湖沼と温泉・溪谷を形成した。幕末、信州松代藩の佐久間象山は高冷地稲作の調査・研究に入り、また鉢山は象山の「巻野日記」によると、テレピン油をつくるため、このあたりでシラビソやオオシラビソの樹脂を採取したという。大沼池は横堀川の源頭にあたり、古くから下流の集落の灌漑用水として利用された。池尻には堰堤を築いた吉田忠石新門の理がある。草津に近い田代原は戦後の開拓地で乳牛飼育や野菜栽培を営んでいる。

志賀高原の名は、初朝の観光開発者である長野電鉄の社長神津嘉平が、昭和二年(1927)、出身地の北佐久郡志賀村の名をとって付けたといわれる。しかし、地理学者の市川健夫氏によるとすでに、大正九年(1923

「高原」の歴史

綱本 逸雄

ハイカーにとって「高原」という言葉は、新緑や秋の散策、避暑など、心を浮き立たせる響きがある。有名な高原となると妙高・志賀・清里など、信州や山梨などに多い。その歴史をたどってみると、いくつかの共通点がある。厳しい自然の土地利用の後に観光地化が進み、地名が改められたり、下に「高原」が付けられていったものが多い。

八ヶ岳山麓にある山梨県念場原は、戦後、甲府や京浜地区からの戦災者や海外引揚者などの入植が相次ぎ、高冷地農業開拓地として開発された。やがて避暑地としても利用され、新しい町並が出現し、いまでは清里高原と呼ばれている。

〇)の下高井郡会議長から長野県知事宛の文書に、志賀高原という地名を使っている(ワイールドワーク入門)。

岐阜県冠ヶ野高原は、中央部が軍地帯でミスバシコウの群衆で知られる。冠ヶ野は大池があった経が多く残っていたからという地名伝承がある。昔は一面の湿原で経がたくさんおり、旅人を悩ました。冬は積雪が多く、旅人が避難できるお助け小屋が一軒建てられているだけの荒涼たる原野だった。戦後の昭和二十一年(1946)、復興者、引揚者、戦災者らからなる大日開拓団が入植し、酪農、高冷地野菜栽培で成功している。同三十八年(1963)以降スキー場・キャンプ場・別荘地として観光開発された。

西北部の大日ヶ岳(1770.9号)は、白山を開いた泰澄が大日如来の夢告で、頂上に尊像をまつたからと言われる。山麓



の長滝寺(白鳥町)は泰澄の創建で、白山信仰の中心地として繁栄した修験道場。南の毘沙門岳(1385m)も白山信仰に關連し、「菅が山岳宗教の地だ」とある。石徹白は今も白山の登山口である。

奈良県の曾爾高原は三重県境にあり、秋はススキが一面をおおいハイカーが多い。12月にはススキ刈り取られて、曾爾村の採草場で茅葺き屋根の材料になる。昭和十五年(1940)国立曾爾少年自然の家が設立され、お蔭池には茶店もでき、今では観光バスが運行されている。ただ、昭和十六年(1941)発行の『近畿の山と谷』(住友山岳会)には曾爾高原の文字はなく、「ひろびろとした草の平」とある。東隣の三重奥池ノ平は戦前から戦後にかけて入植者が開拓した。両高原とも東海自然歩道のコースとなっている。

鳥取・岡山両県にまたがる森

は高原も、戦後開拓団が入植し、山飼育と大根栽培が定着した。もともと赤山原と云い、明治時代は軍馬育成場、第二次大戦中は陸軍演習地だった。赤山には上・中・下赤山の三座があり、中赤山に日留神社が鎮座、地名由来は一説にこの神社名によるとされる。昭和三十八年(1963)大山隠岐国立公園に編入され、同四十五年(1970)には赤山大山有対道路が開通。スキー場やキャンプ場が開けて観光地化し、かつて称された「岡山のチベット」は一西の怪井沢」に変わった。

高原という言葉は近代以前はなかった。「島崎藤村が『千曲川のスケッチ』ではじめて高原という普通名詞を使い大正期にはいると、軽井沢などで高原を地名として用いるようになった」と市川健夫氏は言う。そうである。ただ藤村はその五年前の明治三十九年(1906)に発

表した「版皮」でも、「北極久の高原に散布する新平民の種族」と書いている。

植原氏等は「高原 近代の地理用語。漢語として『粟摩秘抄』などにも見えるが、明治以後、英語の High plateau に対応する訳語として使用が定着した」と言う(前掲書)。「広野苑」も「plateau-land」の訳語。

明治三十二年刊『英華字典』所載」とある。いくつか例を並べてみて思うのは、やはり「高原」は訳語として成立したのだが、地名の語彙に広く使われたのは比較的新しく、多くは戦後のことだろう。

遙かなる

礼文・利尻

「最果ての花の浮島」というキャッチコピーは、見事に女ごころをとらえる。女ばかりでなく、花好きな男たちもひそかに心動かされているだろう。しかし遠い。比良や鈴鹿のように気軽に出かけられない。心にかけてながら何年も過ぎてゆく。

そんなもやもやを会員の中西さんがボンと背中を押してくれた。押されついでに絶対一人で行こうと決めていたのに、花好きなFもいつの間にか同行することになっていった。

7月10日の午後、稚内からの船で香深港を最後に下船すると、民宿のお姉さんがフリースを着て迎えに立っていた。連

妻鹿弘子

北海道

絡もしないでやって来ない不心得な客もいて、また、すっぱかされたかと、ずいぶんやきもきして待たらしい。

「フリースを着るほど寒いですか?」

「きのうは真夏、きょうは冬、あすは雨ですね。漁師の天気予報は当たります」と無情なことをサラリと言う。

民宿で一服後、カラナイ岬の方に散歩に出た。海上に利尻富士が大きい。カモメに混じって海鷗も飛んでいる。磯にはハマナスが赤く咲き、風化の激しい頭上の崖は一面のエゾカンゾウで、所どころ巨岩が転げ落ちそうに迫り出している。黒雲の切れ目から白い夕陽が射し、海はセピアに暮れてゆく。岩に動った小角が

シルエットになり、夕闇にとけてゆく。映画のワンカットのように美しい日暮れに見とれていたが、肌を刺す寒さに耐えられずに引き返した。

「朝はどんなに早くても大丈夫」と言う民宿のお姉さんの頼もしい言葉で、翌朝は6時に朝食をとり、早々に出発した。

妹岩展望台から林道コース。礼文の滝をおりて元地海岸に出て、14時過ぎのフェリーで利尻に渡るという欲深いコースを考えていた。空は降ろうか降るまいか迷っているような湿っぽいガスに包まれて視界はきかない。ゲートが閉まっていて車は入れないが、靴の残る林道がゆるゆると草原を登ってゆく。シシウドの蕾が爆発したように咲き始め、エゾカンゾウ・インキトラノオが群落をつくっている。レブンソウやリシリソウ・チシマゲンゲ・チシママンテマなど礼文ならではの花も咲いている。「レブンハナシノブは終わった」と民宿のお姉さんは言っていたが、大好きなミヤマハナシノブとどこがどう違うのか確かめたくて探していると、ようやく数株咲いているのを見つけた。少し丈が低いような、少し色が濃いような

気もするが、私には全く見分けがつかない。

元地灯台あたりから空は晴のようになり、細道が断崖の縁をぬってゆく。真下には崖まで突き通った海が籠絡ジワを寄せ、ゴマ粒を掃いたように無数のカモメが飛び交う。斜面は海までイブキトラノオの群落がなだれ落ちていて、Fは遥かかたにいます。私もマイペースで歩いて行く。とびきり美しい花や風景を見つけた時だけ歩み寄り、共感し合い、またそれそれぞれのペースに返ってゆく。理想的な同行者だ。会う人もない花野は静寂の別天地で、カモメの声だけが潮騒のよう



元地灯台より
林道コースから分かれる礼文大滝への下りは滑りやすい急坂で、やや難路である。ミヤマオダマキがたくさん

種をつけていた。こぼれ始めた種をFが手のひらに受ける。黒く細い種である。礼文大滝は滝と言うのも恥ずかしいような落差で拍子抜けしたが、滝口には真水を求めてたくさんの海鳥たちが翹っている。

荒磯におりると、「海岸線崩壊のため通行禁止」の立札があり、観光客はそこで引き返してしまおう。べつに危険はなさそうなので、そのまま地蔵岩に向かった。岩の間に架けられた機織が朽ち落ちていたり、風化した固定ロープがあったりする。放置された魚網が破れて広がって、ガラスの浮玉が転がっている。海鳥が手の届きそうな岩に留まり、こちらを無視して置物のように動かない。潮溜りを覗いたり貝殻を拾ったりしてブラブラ歩いてると、観光コースになっていて、喧嘩の地蔵岩に着いた。大型バスが何台も駐車し、ガイドさんを先頭に大勢の人が右に左に忙しそうに通り返る。昼食代わり

に茶店でトドの串焼きやカボチャや芋の焼餅(特に芋がおいしい)を買い、バス停を尋ねた。しかし、日曜でバスは運休。タクシーは予約の島内観光用のみで港への足は全くない。何の当てもないが、気

分はすっかりのんびりモードに入っている。慌てる気にもならず、バス停脇の堤防でボンヤリと海やハマベンケイソウを眺めていた。観光バスが次々に出発し、あたりはたちまち閑散としてきた。

駐車場のバイトのお兄さんが20分待たば港まで送ってくれると言った。ありがたく待っていると、茶店のおばさんが車を停めて「乗ってかない？」と声をかけてくれる。礼文は人も景色も格好しい。

船は利尻の沓形港に15時前に入港した。宿に行くにはまだ早い。港の溶岩台地にあるピジターセンターの、木の香も新しいテラスで日向ぼっこして時を過ごした。Fはぐっすり眠っている。私は足を按げ出してハマナスの向こうに広がる紺青の海を眺めていた。利尻でいちばん心に残るひとときだった。

翌朝、タクシーの営業時間が7時からなので、沓形登山口からの出発がやや遅れた。

登山口にはすでに何台も駐車していて、入山者は多そうである。17時のフェリーで難内に渡りたい私たちは気が焦ったが、登り始めてみるとあっけなく七合目避難小屋に着いた。この小屋は味もない緊急

用で、ちょっと入る気もしない。礼文岩、夜明しの坂も早いペースで過ぎ、八合目付近でリシリリンドウを見つけた。イイデリンドウの変種ということによく似ているが、説明しがたい不思議な色をしている。乱暴に言えば、赤紫のベンキにとどまり浸したような濃厚な光を湛えている。それなのにリンドウ特有の毅然とした美しさは少しも損なわれていない。日本の花色離れしたなんとも濃い美しい色である。

九合目の三蔵山から眺める頂上は、見馴れた写真とは全く違う荒々しさで眼前に迫る。崩壊著しい仙法志様の岩肌が頭上へのしかかって息苦しいほどだ。道は崩壊した崖をトラバースして登治コースに合流するが、岩屑の足元はバラバラと崩れて緊張する。合流点から山頂までは30分程だが、ここからが正念場だった。胸突く急登は非常に滑りやすく、二重登って二歩滑る状態なのでなるべく山側を歩く。バランスのよいFはお構いなしに歩いて崖端を滑り、ヒヤリとさせられた。もっと内側を歩くよう声をかける。

最後の一步を這うように登ると、赤いエゾツツジが海をバックに風に揺れている。

た。その小広場が一目で気に入った。ここでお昼とザックを置き、まず山頂のお社に参拝した。速るもののない頂は海風をまともに受けて寒い。風に気を取られていたか、ここからの眺望はどうなっていたのか全く覚えていない。

霧泊コースの下山は長いうえに単調で、登山者があふれる五合目の小屋周りは野天トイレと化し、ペーパーが散乱して異臭を放っていた。しかし、谷はボタンキンバイの花盛り。涼やかな風に揺れる黄金の花の波を見ていると、そこに熊の一面でも歩いていたらビツタリと絵になるように思えてきた。

「利尻にも一頭ぐらい熊がいてもよいんじゃないかしら? 熊になってこの谷に棲みついていたら気持ちよいだろうな——。生まれ変わったら熊になってこの谷に棲みたいな——」と、独り言を言っていた。Fは付き合っちゃいられない、という聲をしてそっぽを向いた。

9月に入り、久しぶりに比良でFに会う。ミヤマオダマキが全部発芽した。冬にはいったん枯れるが、春に芽吹けばもう大丈夫。花の咲くまで4、5年かな——「すばらしいね。咲いたら一鉢頂戴ね。貰うまではお友達、枯れたら友達付き合ってもそれまでよ」と冗談を言いながら、礼文のオダマキが私の窓辺に咲く目を夢見た。

翌月、Fは友人たちと黒部の下の廊下に出かけ、あの平らな水平歩道から200mを墜落死した。雨上がりで滑ったのだらうと言われているが、グループの最後尾を歩いていたので確かなことはわからない。

なまじバランス感覚に自信があるので、不用意に谷側を歩いていたのだらうか。いっしょに行っていたらタイミングがずれて落ちずに済んだかも? と繰り返すように考える。

窓辺で揺れるミヤマオダマキは灯の花になった。あの濃紫の花は心癒む追悼の花になった。

(平成11年7月10(13日歩く))

出羽三山に行く

日野節雄

東北

月山五重塔



簡単に登れそうでなかなか行けなかった月山。昨年から鈴木さんと、肘折温泉へくだらうと話合っていて、春には「今年は雪が多いから7月下旬にしよう」とまで決まったが、鈴木さんが体調を崩し、行けなくなりました。

私は、家族と単独行は駄目だしという約束で山行をしているので、はたと困った。山伏姿を見せ、地図で簡単な山という話を話してやっと許された。「60歳からの日本百名山登頂」のうち、乗鞍岳と月山の二座のみ単独行となった。

東京は便利な街で、夜行バスがあり、帰りにはもう一山やって夜行で帰る手もあったが、それはやめて昼帰りとしたが、

羽黒山・月山・湯殿山と、出羽三山・三神を一日でお参りできた。

池袋を出たバスは、翌朝、鶴岡の東京第一ホテル前に着く。ホテルの裏側が「庄内交通バスターミナル」(現在は鶴岡庄交モールと改称している)になっている。

7時発の月山八合目行きに乗り、羽黒センターで下車する。3人降り、他の人は八合目へ直行らしい。50分発の羽黒山頂の霊気に当たったか。これなしには羽黒山はないだろうと思う。

朱塗りの隨身門を入ると、八百万神とでもいいたいような小さな社が並んでいる階段を百段ほどくだる。橋を渡ると

三山神社とも呼ばれている。本殿は三神合祭殿という豪壮な木造建築で、厚さ2尺もある茅葺屋根は正面部分を葺き替え中で、写真にならない。中は塗漆塗。境内は広く、神仏習合時代の名残だろう、1200年代につくられたという大鐘楼もある。一度は訪れたい羽黒山である。一廻りして羽黒山頂駅に行くと、何台もバスが来ていて白装束姿が多い。

ここからバスは1時間で月山八合目、弥陀ヶ原に着く。うどん・そばなどが食べられるレストハウスがあり、水洗トイレは立派。使用料を支払ってゆこう。登山道に入るとニッコウキスゲの最盛期で、今年は雪が多く、花の咲く時期が遅れて

いるとみえて、上の方ではショウジョウバカマやチングルマも咲いていた。ハクナンチドリ・コバイケイソウ・ヨツバシオガマなど、百数十種の花が咲くと書かれているから、花好きにはたまらない山だ。花の所は両側にロープが張られ、濃霧でも山頂近くまでは歩けそう。この濃霧を一番心配していたが、きょうは念仏ヶ原の方までうすうす見え、白装束の登降者が多い。山頂近くまでというのは、雪渓の関係で山頂近くには三重にも四重にも踏み跡ができていないからだ。

仏生池小屋は道の正面にある。本誌(47号98年7・8月号)で松田敏男さんがよく言われなかったので来通りし、パン

右手に滝が架かり、左手に注連縄の張られた、差し渡し1・5尺にもなる「御杉」が高い。「御杉」は枯れたという。あたりも老杉がいっぱいだ。少し行くと圓宝五重塔がある。京都・奈良で見ると神しく感じた。高さ30尺、平安時代の創建とある。ここからいよいよ階段だ。一段の高さは10寸ほどだから歩きやすいが、苦むした石段を標高差約3000尺登る。雨で崩れるのだろうか、石段の修理をしている人に出会う。中間に茶店があり、かき氷・自家製トコロン・おみやげを完っている。愛想がよいのでついトコロンを食べる。うまい。少し平坦な道を行くと、二ノ段、三ノ段と続き、もうひとふんばりで羽黒山頂に着く。

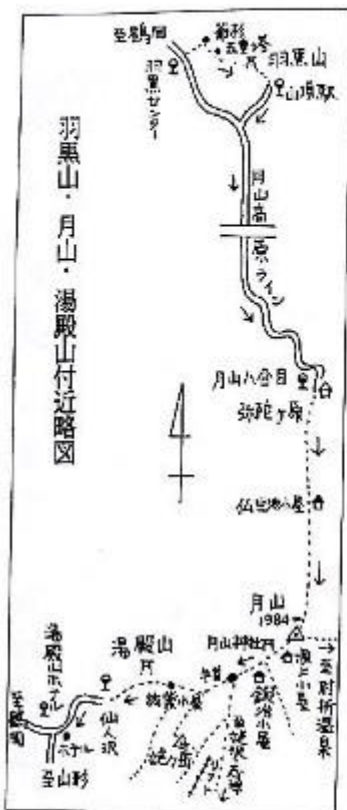
山頂には出羽神社があり、ここには月山と湯殿山の神もまつられていて、出羽

をかじりながら先を急いだ。頂上手前に30尺ばかりの急登があり、そこから20分ほどの所、右手尾根上に数人がいるので、ここが1等三角点だと思い直登したら、きれいな標石があり触ることができた。幸運だった。

月山神社はその先50尺ぐらいで、山門の中は人がいっぱい。御祓料500円をとられ、御祓を受けずに一廻りしただけのことだった。しかし、ここからホテルに電話をする約束があり、入らないわけにはいかなかったし、中にいた若者はここからの道を詳しく教えてくれた。

山門を出てまっすぐにくだと新築の頂上小屋で(3食付き7800円とか)、次は飯治小屋だ。大勢の人と急坂をくだりきると牛首で、姥沢・志津方面に行く人がほとんどだ。リフトの上あたりではスノーボードやスキーをしている。ここから姥ヶ岳分岐までは石段風のゆるい階段で、まるで公園の道である。

分岐からは尾根道の道となり、ポツ！ポツ！ときたらドンシャ降りになった。木陰もないのでレインスーツを着る間もなかった。辛い風がなかったので傘でしのげたが、50分ぐらい降られて道は沢状に



夏山シーズンいよいよ到来!

北海道おすすすめツアー

大雪山縦走と愛山溪 4日間
出発日7/12(水)～9/13(木) 代金129,000円

大雪山・北嶺岳とコマクサ平
期間7/13(金)～16(月) 代金129,000円

利尻山と礼文島花ハイク 4日間
期間7/15(日)～18(水) 代金148,000円

大雪山縦走と十勝岳縦走 4日間
出発日7/25(水)～8/1(日) 代金135,000円

扇白岳・斜里岳・雌阿寒岳 4日間
出発日8/7(土)～10(月) 代金152,000円

トムラウシ登山 3日間
期間8/30(木)～9/1(土) 代金108,000円

羊蹄山・ニセコアンヌプリ・樽前山
期間9/23(金)～26(日) 代金89,000円

夏の大雪山フラワーウォッチング
期間7/28(土)～31(月) 代金177,000円

東北の山おすすすめツアー

鳥海山と月山 2泊3日フラン
期間8/3(金)～5(日) 代金98,000円

岩手山と八幡平
期間9/14(金)～16(日) 代金99,000円

格安フラン 磐梯山と安達太良山
期間9/22(土)～24(月) 代金34,800円

格安フラン 蔵王山と月山
期間9/1(土)～2(日) 代金68,000円

ポーター付き 寝袋フラン

大雪山 旭岳～トムラウシ
コップル、ガス等と共同装備と個人装備の両方はスタッフが運びます。重い荷物が持てない方も!
期間8/16(木)～20(日) 代金238,000円

上信越・関東のおすすすめツアー

富士山ゆっくり登山 3日間
出発日7/19(木)～7/28(土)～8/4(日) 代金57,000円

夜行バスで行く 富士山登山
期間8/17(金)～19(日) 代金39,000円

格安フラン 赤城山と日光白根山
期間8/18(土)～19(日) 代金55,800円

～～～日帰りから海外までの総合カタログがあります。ご購入下さい。(送料別)～～～
お問い合わせ・お申し込みは、国土交通大臣登録旅行業第1346号(社)日本旅行業協会 ボンド保証会員

アルプスおすすすめツアー

大雪山～白馬岳
期間7/27(金)～29(日) 代金49,000円

五色ヶ原～薬師岳縦走
期間7/14(土)～18(水) 代金84,000円

ゆったりフラン 薬師岳
期間8/17(金)～20(日) 代金55,000円

南島嶺ヶ岳～新ヶ岳
期間8/24(金)～26(日) 代金62,000円

乗鞍岳と西穂高高原
期間9/1(土)～2(日) 代金43,000円

コマクサ味く 燕岳
期間8/11(土)～13(月) 代金48,000円

蝶ヶ岳～常念岳縦走
期間8/17(金)～19(日) 代金65,000円

日本第2の高峰 北岳
期間7/27(金)～29(日) 代金67,000円

夜行バスで行く 北岳
期間8/24(金)～26(日) 代金46,000円

垣見岳
期間8/24(金)～26(日) 代金67,000円

木曾駒ヶ岳～空木岳
期間8/10(金)～12(日) 代金69,000円

南ハッ岳縦走
期間8/31(金)～9/2(日) 代金63,000円

アルプスおすすすめツアー

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

池袋23・10(バス) 鶴岡6・50・7・00
(バス) 羽黒センター7・35・40・羽黒山神社8・40・10・00(バス) 月山八合目11・00・10・10 仏生池小屋12・30 月山

アミューストラベル(株) 06-6456-3366
〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前第3ビル7F FAX06-6456-3377



月山1等三角点

なった。若者が教えてくれたように道標もなく、ひとりだから心細くなったところ、小さなミズパシヨウを見て、新築の小屋が二軒現れる。左はトイン。右は板の間六畳、土間三畳の施業小屋だった。
ひと休みしている間に雨も上がり、NJKテレビで驚かされた椅子に向かうが、先週歩いたハッ岳では産現舌の、ゆうに30分はある垂直の一本梯子をくだった身には少しも怖くはなかったし、山歩きをしている人ならば何でもない所だった。
急坂が終わる、妙防ダムに替くとすぐ吊り橋が見え、手前が湯殿山神社だった。
一見の価値はあると聞いていたので入ると、深足にされ、御飯料500円で30秒ばかりの祝詞にお祓を受け、人形の紙

を流れに浮かべた。奥に進んでお湯が流れている坂を登る。湯が巨大な岩からと左手にも湧き出していて、飲むと海水より塩辛い。雑草に訳くと塩分だというが、岩に白く乾いた塩が付着していないのが不思議だ。この茶褐色の岩が御神体で、出羽三山の奥の院とされている。仙人沢まで道がないころは、羽黒山から遠く険しく、神秘的な現象にさぞかしと思う。
バスが見えると、もうこの山行も終わって感じる。バスはピストン運行をしていて、鉄筋コンクリート製の巨大な赤い鳥居と、ホテル風の参籠所のある仙人沢まで5分だ。迎えに来てくれたホテルの車は、10分で広い駐車場のある湯殿山ホテルに着いた。簡素だが、心ばりのきいた接客は気持ちのよい一夜だった。
翌日は路線バスで山形に出て、高速バスで東京駅に帰ったひとりで旅だった。
(平成12年7月28・29日歩く)

1等三角点13・25 月山神社13・55 牛首14・30 柳葉小屋15・35 湯殿山神社16・25 45(バス) 仙人沢16・50 17・05(車) 湯殿山ホテル17・15(泊) 9・33(バス) 山形山交ビル前11・00 30(バス) 東京駅16・45	池袋 鶴岡(バス) 7 5 4 0 円	鶴岡 羽黒センター(バス) 6 8 0 円	羽黒山頂 月山八合目(バス) 1 2 4 0 円	湯殿山神社 仙人沢(バス) 1 0 0 円	湯殿山ホテル(1泊2食付+入湯税) 1 0 6 5 0 円	湯殿山ホテル 山交ビル前(バス) 8 2 0 円	山交ビル前 東京駅(バス) 6 4 2 0 円	△地図▽昭文社「朝日・出羽三山」	△連絡先▽	国際興業高速バス	庄内交通 0 3 (5 9 1 7) 8 5 1 0	0 2 3 5 (2 2) 2 6 0 0	東北急行バス 0 3 (3 5 2 9) 0 3 2 1	湯殿山ホテル 0 2 3 5 (5 4) 6 2 3 1	出羽神社事務所 0 2 3 5 (6 2) 2 3 5 5
---	---------------------	-----------------------	--------------------------	-----------------------	-------------------------------	--------------------------	-------------------------	------------------	-------	----------	----------------------------	-----------------------	------------------------------	------------------------------	-------------------------------

静かに大展望を味わう

青 薙 山

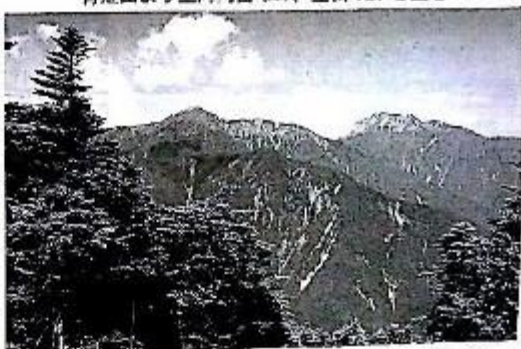
松 田 敏 男

南アルプス

白峰三山から南下する尾根、いわゆる白峰南嶺が、いったん奈良田越や帳付峠で2000m付近まで高度を下けたあと再び盛り返し、最高峰の筑ヶ岳を越えてまた徐々に低くなっていく。そして最後に大きく高度を上げる山が青薙山である。

標高は2406・0m。すぐ西に大井川を隔てて3000m級の南アルプス南部の山々が居並んでいるので、ほとんどの人の目はそちらに向いてしまうわけだ。そんな位置関係が幸いしてか、十分な高度を持っているにもかかわらず人目につかない山としての魅力を放って、私の心に働きかけていた。

青薙山より上河内岳(左)、聖岳(右)を望む



大井川から聖岳の高度差は2000m、聖岳を展望する青薙山との高度差は600mということを考えれば、その迫力はいかばかりかと想像するだけで、もう心は完全に青薙山の頂上にあっただ。3000m級の山々に朝の光が差すときこそ、この頂上の真価が問われるはずだ。幸いにも登山道のちよと真ん中あたりには池ノ平という水場のあるキャンプ地がある。名前から推察して池のある所は樹林が切れているのだから、キャンプ地からも3000m級の山々の展望があるのではという期待もあった。

燧燧第一ダムはかなり奥である。静岡駅からバスで3時間以上もかかる山奥で

ある。そのバス終点の燧燧第一ダムはもちろんのこと、大井川沿いに北へ北へと遡る谷間、いわゆる3000m級の主稜線と白峰南嶺との間は、最悪滝部の間ノ岳まですべて静岡市である。これは京都市左京区の比ではない。面積はもとより3000m級の山が七座もある日本一の山岳都市なのである。しかし、国立公園の影に注目していた

だきたい。山梨県側は広く公園に指定されていて、長野県も県境より水平距離にして約5kmの幅で公園の枠がとってあるのだが、静岡側、つまり静岡市側はほとんど県境まで国立公園ではないのである。林道が2000m前後の高さまで数本のびており、山肌は荒れている。どうして国立公園化できなかったのかと思うと、くやしくてまた悲しい。

前日に静岡まで行き、ビジネスホテルに泊まって早朝のバスに乗る。それでも燧燧第一ダムのバス終点から歩き始めたのは9時15分。沼平までの20分間程は県道なので舗装されていた。一般的には舗装より地道のほうが固くなくて歩きやすいのだが、その先の地道ときたら関係者以外通行禁止なのに、たくさんの方が

すさまじいほこりをあげて追い越して行く。制限速度20kmなんておかないしだ。沿道の水々の葉はほこりをかぶり続けて白くなっていくものさえある。リムジンバスという、東海フォレスト経営の小屋に泊まる者だけを乗せた送迎バスも、すさまじいほこりを立てて追い越して行く。大吊橋を過ぎてやっと燧燧湖が見えなくなったあと、右手に登山口があった。

しっかりとした道である。森のなかに入ってほっと息をついた。標高はちよと1000mほどだが、真夏の暑さだ。テント場の池ノ平までそんなに時間はかからないので、ゆっくりゆっくりと汗があまり出ないように登った。山又ヶのザレ場をトラバースしたのち、少しずつ気持ちのよい樹相に変わってゆく。道に露岩



池ノ平のテント場

が荒っぽい敷石状になっている所を通過し、運り込むように登ると池ノ平に出た。右手の谷の音が急に大きくなって樹間より流が見えた。鬱蒼とした森だった。流の音が絶え間なく聞こえるせいで、そう静かな感じがあった。真昼の木もれ日は涼しかった。清潔しかった。池はななく、ただ大きな木の根の下から湧くかたがた水が幅広く流れ出ている、小さな池のように広がっていた。地下から初めて地上に流れ出した浅い水面に森の緑が投影されて、心が癒される広場だった。

まず缶ビールを流に浸け、少し上の平地にテントを設営した。ゆったりとした時間の流れに身をまかせながら夜を迎えた。

昼間の木もれ日の清静しさは、夜になれば少々気味の悪いほどの暗闇に変わった。晴天だと思いが星が見えない。新月に近いころだったので完璧な闇だった。滝の音がうんと大きく山間に木霊した。ここは予想に反して山が展望できる所ではなかった。吾むした古木にとり囲まれ、森羅な雰囲気にも心も吞み込まれてしまふような心境で、夢のなかにわけ入っ



赤崩と青羅山

次の日はワンディハイクだ。とは言っても、絵の道具やコンロ・食料など、もう軽くない荷物を背負って出発した。裏山を少し登るという感じで乗越のような所に出た。

眼前に赤崩の凄絶な光景が待っていた。カラカラと石が落ちていく乾いた音が響く。その音を聞き込むように、時々少し

草むらの方へ逃げないように、小径は続いていく。しっかりと道なので危険なことではない。赤崩の上をめざす青羅山が見え、その左奥には沢ヶ岳も姿を現している。左には大井川から一気に立ち上がっている聖岳や赤石岳が望まれる。爽快な眺めだ。ガレの縁から離れ、チクタク刺されるのを避けながら背丈以上のアザミの間を進むと、大きなシダのなかの道となった。少しかぶさり気味の所もあるが道はしっかりしていた。ニアリアマップの迷いマークはもう過去のことだと思っただ。シダに混じってカニコウモリがたくさん咲いていた。これは池ノ平より下方にも咲いていたが、ここでは群落をなしている、地味な白い花だが寄生しているのでなかなか見応えがあった。

群生地の上には大きな木が亭亭と、シダのなかからそびえ立つように枝を広げていた。朝の光線が葉の重なる淡い緑色の縁を輝かせていた。夢見心地の登りを続けていくと、黒根の上に出た。

針葉樹が主体となって深めの緑色の景色に変わる。太い根が張り出している所をまたいだり、広葉樹の割合の多い所は明るかったり、根元に動物の糞処ではと

思えるような洞穴のある木が見えたり、二重山稜の向こう側の山稜のけもの道のほうが、今歩いてる道よりは、きりしっていたり……。人の往來の少ない道ならでは味わい深い道が続いた。実際に一度だけ、ガサガサと大きな動物が走り去って行く音もした。

左側は、所どころ木が切れていてガレの上を歩くこともあり、光岳とか上河内岳や聖岳方面など、場所によって見える山が少しずつ違ったりした。道の端には青紫色のトリカブトの花の斜面や、センジュガンピの白い花などの小さな群落が入れ替わり現れ、楽しい様相だった。

苔むした大きい岩がゴロゴロしている樹林帯を抜けると、針葉樹に囲まれた小さな草原に出た。ちよつとめずらしいメルヘンチックな光景だった。また深い樹林のなかに入り、次に青天井の下に出た所が頂上だった。

二角点の所から西の麓へ出ると、大井川を隔てて南アルプスの山々が下からまともに見えた。悪沢岳の右奥には白峰三山も遠望できた。聖岳の山腹には、悪沢大滝の白い瀑布が真正面に望まれた。

レギュラーコーヒーを入れ、絵を一枚

描いた。3時間たらず頂上にいた。だれも来なかった。青い空と緑の大きな山々、少し大脚をさえるように針葉樹が育っていて、高山の雰囲気はあまりないが、心やすらぐひとときだった。充分満足して下山にかかる。

赤崩は朝見た時とは打って変わり、西日をまともに受けて赤茶色の断面が克明に見えて恐ろしく陰鬱な光景だった。

また暗闇の夜を迎えた。ザックの整理をしていると絵の道具がないのに気がついた。途中で休憩した地点の記憶をたどるが、どこにもそれを出した覚えがない。ひょつとしたら頂上に置き忘れたか。あすは下山日だが、その忘れ物を取りに行くことに決めた。

翌日も幸い晴れていた。食料を少し持っでもう一度登る。きのう登ったので時間配分など熟知していたから、早いペースで歩けた。聖岳や赤石岳はきのうほどすっきりと見えなかった。ゆっくり休むということにはせず、しかしもう一度山を楽しむという気持ちにはすっかり持ちながら二度目の頂上に向かった。

絵具や筆などが少し広げたままの状態。頂上の草むらの上で私を待っていた。

<http://www.h2.dion.ne.jp/~sobezac>

KOBEの登山専門店

風を背中で感じます

●スナックザック……汗対策のザックです。



●ウォーキングスナックタイプ

ベンチレーションサポートパットにより背中は常に快適。バックパネル部がワンタッチで取りはずし可能。新案マグネットを装備、アルミフレーム内蔵。日帰りから一泊山行きに最適、かつぎ易さで定評のアタックタイプです。

●カラー：レッド×ブラック・ブルー×ブラック
グリーン×ブラック

●容量：28ℓ ●重量：1,450g

●素材：ナイロンUSコーデュラ

●価格：¥14,000(※新ハイキング価格)

イモック山遊くらぶ
7月15日、兵庫の名山
奥赤尾山に登り、米井の
大カツラの木を訪ねます。
詳細はお問い合わせ下さい。



神戸ザック

〒653-0038 神戸西兵庫区日本町3-1-30

TEL (078) 621-5851

FAX 621-3528

雲がおおいかけている3000坪の山々をしばらく眺めた。

その日は土曜日だったせいか、池ノ平に戻った時に、1人の登山者が登ってきた。テントを撤収し林道の登山口へおりた。4人程のグループに行き交い、また夏夏のはこりまみれの林道をバス停に向かって歩いた。

(平成12年8月10日(土)12日歩く)

△コースタイム▽

湖遊第一ダム(4時間30分)池ノ平(5時間)青羅山往復(3時間30分)湖遊第一ダム

△地図▽

昭文社「塩見・赤石・聖岳」

松田敏男 山の版画展

7月17日(火)～29日(日)
正午～午後8時
23日(月) 休展

平安画廊

京都市中京区寺町通三条上る
電話 075 (231) 0684

花の名山をめざして

白馬岳

杉本 高

北アルプス

関西の梅雨明けを待って、念願の白馬岳に出かけた。

コースは、登りは最も標高差の少ない白馬自然園―白馬大池―白馬岳とし、下山は白馬大池から蓮華温泉にくだることにした。

前日のうちに、白馬自然園まで入っておくことにし、白馬高原からゴンドラ・ロープウェイと乗り継ぎ、自然園駅からは指導標に従い、村宮樹池山荘をめざす。徒歩5分位で鉄筋コンクリート二階建てのドラックスな宿舎に到着する。

宿泊手続きを済ませ、部屋に荷物を置き、さっそく白馬自然園へと向かう。

あいにく、白馬岳などの山々は霧に隠

れて姿が見えないが、湿原にはヒオウギアヤメやワタスゲ・ミヤマキンポウゲなどが咲いていた。

自然園の中には、赤い屋根の樹池ヒュッテが建っており、周囲の緑とマッチして美しい景観を醸し出しているが、今年10月末で廃業し、樹池山荘の横に移転することになっている。

ピジターセンターであす登るコースを確認し、宿舎へ戻り、入浴(温泉が引かれている)と夕食を済ませ、就寝する。

夜中に目を覚まし、外へ出てみると空には星がまたたき、白馬岳の稜線がうっすらと見えていた。

翌朝4時30分に起床し、宿舎の前へ出

ものだそうで、今回の山行でいちばんの悪い出になっていく。

朝食を済ませ、6時50分に背後の白馬乗鞍岳へ向けて出発する。最初から急な登りで尾根へ出る。このあたりから昨日見た自然園や樹池ヒュッテの赤い屋根が見え、高度を稼いだことが実感できる。やがて銀溜水に着き、ザックを置いて冷たい水でひと息入れる。

銀溜水からは一登りで天狗原の温泉(といっても水が湧れており、木道だけが浮き上がっていた)に出る。

木道で湿原を渡ると、きょう最初の難所、白馬乗鞍岳の登りとなる。安山岩のゴロゴロとした道で非常に歩きづらい登りである。

息をあげて一歩一歩登って行くと、30分程度で雪田の登り口へ取りつく。雪田の上は今までと違って涼しく、汗が引いてゆくのわかる。

5分程で雪田を登り、再び安山岩のゴロゴロとした道を行くと、傾斜がゆるくなり、だだっ広い広場のような所に出る。ここが白馬乗鞍岳の頂上である。ケルンの横あたりに三角点がある。ここまで来ると、これからくだる白馬大池や、登って行く小連華山が見える。

ここで10分間休養し、白馬大池へ向けて歩き

船越の頭から白馬岳



て見ると、白馬岳の斜面が徐々に赤みを増してきており、やがてバラ色に輝き始めた。モルゲンロートだ。この美しさは白馬自然園で泊まった者しか味わえない

始める。相変わらず安山岩のゴロゴロした道で、白馬岳を早朝に出発した下山者と出会い始め、行き違いに時間がかかるようになってきた。大池に映る残雪が美しいコントラストを見せるようになってくると、白馬大池小屋はもう目の前にある。小屋で冷たい飲み物を買い求め大休止する。

小屋の前の広場からは、これから登る船越の頭から小連華山にかけての稜線がくっきりとスカイラインを描いており、小連華山にある鉄剣を望むことができた。蓮華温泉へとくだる道を右に分け、稜線への登りが始まる。周辺は高山植物が豊かで、登山道にコマクサが咲いていた。左手には先程歩いて来た白馬乗鞍岳から白馬大池が見渡せ、ぐんぐんと大池が下に見えるようになり、高度を稼いでいるのがわかる。

50分程で船越の頭に到着した。行く手には白馬三山から所松岳・五岳岳が姿を見せ、荒々しい岩肌をさらしている。すると、どこからともなく雲が湧き始め、あっという間に、これらの山々の姿を隠してしまった。

小連華山は、午後になると落雷が多い



白馬大池へ向けて歩き

とガイドブックにも書かれている。何と
しても正午には到着したいと頑張っていたので、船越の頭での休憩もそこそこに
小蓮華山へ向けて稜線を歩いていたら、
二つ目のピーク手前で雷鳥に出会った。
ハイマツの実をつつきながら、悠然と登
山道を歩いている。登山者にも馴れている
のか、カメラを向けても特に驚く様子
もなく、5分位姿を見せられた。

ちょうど正午に念願の小蓮華山の頂上
に着いた。鉄剣に触れ、三角点を確認し
て昼食にした。このころから天候が崩れ、
風が冷たくなりだした。ガスがかかり、
今まで見えていた雪岳岳の姿もガスに消
えた。雷鳥を見ると天気が崩れるという
山のジンクスは本当だと実感した。
昼食を終え、二国境に向けてくだる
ころには、雨もポツポツ降り始め、気は
急ぐもの何ともならず、鞍部まで一気
にくぐりおりた。

ガイドブックのコースタイムでは、小
蓮華山から30分で二国境となっており、
ちょうどこのあたりかと思ひ、標線を深
すが見当たらない。この鞍部から10
分余り坂を登った、雪倉岳への登山道の
分岐点が三国境だった。

三国境を過ぎたころから本降りになっ
て雨具を着た。やがて速くから雷鳴が聞
こえ始めた。万事休すである。

他のグループとともに、猛崖に身を休
めて雷鳴の遠ざかるのを待っていたが、
近くで聞こえては速くなり、遠くなつて
は近くなり繰り返してある。とうやうや
高い所で鳴っている雷のようで稲光りが
見えないのが唯一の救いであった。

15分程で小降りになり、雷鳴もおさま
たので再び歩き始めた。20分程登ると、
少しなだらかな所へボンと飛び出した。
ガスのため見通しがきかないが、展望標
示撤らしきものを見つけて近寄ってみる
と、三角点や頂上を示す案内板もあり、
白馬岳の頂上へ登っていることがわかっ
た。何ともあつけない到着だった。

今夜の宿は、頂上から30分余りくだ
つた村宮頂上宿舎にする。白馬山荘は登山
客が集中し、昨夜は廊下だけでなく階段
にまで寝たという下山者の話があったし、
本誌41号の田中一誠氏の紀行文を読ん
でも混んでいそうなので、村宮宿舎を選
んだ。

ただ、グルメ雑誌等でも紹介されてい
る、白馬山荘の展望レストラン「スカイ

プラザ白馬」だけはバスでできず、人気の
コーヒーとチーズケーキを味わう。
村宮宿舎では予想どおり混雑もなく
宿舎のスタッフが「空いてますよ」と宿舎の
前で客引きをしていた、ゆっくりに眠れ
た。

21時の消灯前に宿舎の庭に出てみると、
ガスはいつの間にか消えており、白馬の
街の夜景が美しく輝いていた。

翌日、朝食を済ませて午前5時30分に
出発する。白馬大池までは昨日の逆コー
スになる。きのうとは打って変わって、
すっきりと晴れ上がった稜線を白馬岳頂
上へと向かう。

頂上では360度のパノラマが広がり、
剣岳・立山・鹿島槍・五竜と北アルプス
北部の名峰が指呼の間に望まれ、遠くには
槍ヶ岳がその鋭い先を天に向けている。
東を見れば戸隠の山々、八ヶ岳。そして
富士山が遠くに姿を現している。立山の
向こうには富山湾がくっきりと見えてお
り、近さが実感できた。昨日は霧のため
見えなかったが、頂上の信州側はすっぱ
りと切れ落ちており、非対称山被りはっ
きりと理解できた。

頂上をあとに三国境へくだる。左手前

方には雪倉岳から朝日岳へと続く稜線が
残雪を抱いて美しく横たわっており、朝
日小屋が赤い屋根を見せている。

三国境から小蓮華山への登り返しでは
チシマギキョウやコバイケイソウが花を
咲かせており、小蓮華山では飽きもせず
雪倉岳の緑と白のコントラストに見とれ
ていた。

ここで、カメラにトラブルが発生した。
今朝から撮影したフィルムが、巻き戻し
の際に他のスイッチが押されたのか、巻
き戻せていなかったのである。そうとは
知らず、フィルム入れ替えのため裏布タ
を開けたからたまらない。泣く泣くフィ
ルム一本をオンキヤカにし、新しいフィ
ルムを装填し、気を取り直して撮影する。

船越の頭へ登り返し、これで今回の山
行の登りはすべて終わり、あとは蓮華温
泉へ一直線にくだるのみとなった。

白馬大池で大休止し、冷たい飲み物を
飲んだあと、蓮華温泉への道に入る。
メインルートは樹池コースと異なり、
登山者の数もぐっと少なくなり、白馬大
池のすぐ下が森林限界のため木陰があっ
て日射しから守ってくれる。
水害の影響だろうか、大きな石が登山

道に転がり落ちており、少し歩みにくい
所があるが、よく踏み込まれたゆるやか
な下り坂が続いている。ひと息入れたく
なるころ、天狗の窟という、松が風にな
ぎ倒されたような所へ出る。ここから少
しくくだると、待望の蓮華温泉ロッジの赤
い屋根が見えてくる。

ところがこれが曲者で、くだれどもく
だれどもいっこうにロッジが近づいてこ
ない。いい加減くだり疲れたところに川の
瀬音が聞こえだし、木橋で沢を渡るとやっ
と蓮華温泉に着いた。

最初に見つけた黄金の湯に、服を脱ぐ
のももどかしく飛び込む。極楽極楽。こ
の楽しみのため、下山を蓮華温泉にした
のだが、正解だった。

ただ、この露天風呂には強いや脱衣場
のようなものは何もなく、女性が入浴す
るには少し勇気が必要かもしれない。

露天風呂から上がり、10分位歩いてロッ
ジへ行き、内湯(男女別)で頭と身体を
洗い、昼食を済ませて、平岩駅行きのバ
スの客となった。皆がバスに乗る時にっ
ぶやいた言葉、「ああ、これで暑い都会
へ戻らなければならぬのか」。夏山山
行の終わりにいつも感じることである。

バスの後方には、朝日岳が残雪を抱い
て輝いていた。
(平成11年7月25日〜26日歩く)

▲参考タイム▼
「一日目」樹池山荘6・50―銀嶺水7・
25―天狗原7・50―白馬乗鞍岳9・00―
15―白馬大池9・50―船越の頭10・50―
小蓮華山12・00―35―三國境13・15―白
馬岳14・20―白馬山荘14・40―15・10―
村宮頂上宿舎15・25(泊)

「二日目」村宮頂上宿舎5・35―白馬岳
6・15―25―三國境6・55―小蓮華山7・
50―船越の頭8・40―白馬大池9・15―
25―天狗の窟10・10―蓮華温泉11・20―
12・45(バス)JR平岩駅13・50
△地図▽昭文社『「白馬岳」

○樹池自然園内にあった極池ヒュッテは、
平成12年6月に村宮樹池山荘横に新築
移転した。コンクリート造二階建ての
立派な宿舎だ。
○樹池自然園から見る白馬岳のモルゲン
ロートは一見の価値がある。日程に余
裕があれば、夜行ではなく前夜泊をお
すすめする。

新ハイ例会・自然観察山行

別山から白山

鷺見守康

白山

新ハイの夏の例会山行として白山を歩くなら、ルートは、まず千振尾根を登って行こうと決めていた。自然観察をかねたハイキングであれば、千振の森をぜひ紹介したいと思っていたからだ。

ルートは確定しているのだが、日程で迷っていた。千振尾根から別山を越え、南登山荘までの行程はかなりの時間を要するので、登山口の市ノ瀬を早朝に出発する必要がある。

夜行で市ノ瀬まで入ろうとも考えたが、私たち中高年者にとって夜行は正直のところつらい。できれば避けたい。そもそも睡眠不足のまま千振尾根を登るなど、無謀のそしりを免れないことになりかね

ない。そんなことで、現地泊という方法をとって、1日目は加越山地の取立山で遊んだ。

千振尾根を登る

盆を過ぎ、季節ははや秋になろうとしているのだが、白峰温泉の旅館からバスで乗り込んだ市ノ瀬には、早朝から登山者の賑わいがあった。メンバーの体調が気になる。昨日の取立山で脚を痛めた人もいた。

宿で用意してもらったにぎり飯の朝食を済ませ、6時15分、市ノ瀬登山センターを出発。しばらく林道を進む。道沿い

ク科)やヤゲルマンソウ(ユキノシタ科)など、典型的な日本海型の野草たちが群落をつくっているが、盛夏を過ぎて精彩を欠き、初夏の生き生きとした姿はもはや見られない。

水場ですと休み。上部のブナ林から湧き出す滑らかな水は、登山者の身も心も潤してくる。ブナの森の恵みである。

ブナ林を抜けるころから、私は吐き気を覚えるようになった。どうもバテがきたようなのだ。今夏は7月の真鍮座でもバテしており、体力が落ちてしまったのだろうか、いささか寂しくなる。

10時前に避難小屋到着。見上げる別山



には黒雲がかかっている。隊列後方のメンバーが遅れがちになっている。やはり標高差1500メートルというのは、なかなかのものなのだ。

避難小屋から先は、ジグザグの急登が続く。御舍利山直下で急にゆるい登りとなり、低木がハイマツ(マツ科)に変化した。「ここから高山帯ですよ」と後ろに声をかける。

千振尾根からの別山は、登り口付近はトチノキ・サワグルミ・カツラの溪谷林その上部にブナ(ブナ科)の純林が広がっており、標高1600メートルあたりからはダケカシバ(カバノキ科)が出現、避難小屋からはオオシラビ

シラビソ(アオモリトドマツ・マツ科)純林の林相を見せるなど、植物の垂直分布が大

要鮮やかに展開するのだが、御舍利山間近の、亜高山帯から高山帯へ

室堂付近から別山を望む



天下の猛毒植物、ドクウツギ(ドクウツギ科)の群生がある。厚みがあり、特異な三行脈が目立つ葉をさっそくメンバーに説明する。

登山口は猿壁堰付近にあり、登山道は広い溪谷林のなかを行く。サワグルミ(クルミ科)・トチノキ(トチノキ科)・カツラ(カツラ科)の巨木たちが生きる森だ。この森の林床には、タイムミンガサ(キ

の変化はとりわけ印象的だ。まるで山に線を引き、その線から一歩踏み込むや突如として高山帯に入る、まさにそんな感じなのである。

ツツジ科の低木、コケモモ・シラタマノキ・ガンコウラン・クロウソクなどの実を見つけ、黙々として登ってきた隊列は、各々にその実を味わい、にわかに騒々しくなる。やっと高山帯の稜線に立ち、高山植物にも迎えられて、パーティーは喜びに包まれた。

正午前に御舍利山に到着。私は食欲がほとんどなくなっていた。別山への往復は30分もあればいいのだけれど、私は休息の必要を感じていた。そのためデジレしたザックの留守番役と大きく遅れているメンバーの世話役を一方的に宣言し、とまどうパーティーを急ぎ立て、別山への道へと送り出した。

南電ヶ馬場へくだる

別山登頂組の帰りを待ち、御舍利山の山頂で昼食後、南電ヶ馬場をめざして再出発。全体に下りの被験者少くメンバーの気持ちも足どりが軽くなったようだ。しかし、私たち中高年者には下りはとり

わけ危険である。さらに、コースには岐阜県側に落ちる急傾斜や、大扉風・小扉風のピーク越えも控えているのだから油断はできない。

14時に天池に到着。疲れも蓄積しているようなので、ここで大休止とする。天池はお花畑のなかの池で、縦走路上の絶好の休憩地だ。

軽快な稜線歩きもそろそろ終盤にさしかかり、ジグザグの急な油坂となる。登りに使うにはかなりつらいポイントだが、下りもけっこうしんどい。乾いた稜線を歩いて来て、そろそろ水も尽きかけている人もあり、赤谷の流れを心待ちにしていた。

ところが、赤谷に先着していたパーティが用心深く水を沸かしてから使用していた。しかも、ここは赤谷ではないかもしれない、とも言うのだ。仕方なくメンバーを励まし、南竜山荘へと道を登り返して進んだ。

南竜山荘は柳谷の源流部にあり、水が豊富でトイレも水洗式である。山で水を心おきなく使えるのはとてもありがたいことで、ゆったりとくつろげる。小屋に到着するや宿泊手続きもそこに浴び

るほど水を飲んだ。

私たちパーティは、一部屋をあてがわれた。40人以上が入れる部屋に21人だから、余裕たっぷりで快適だ。他の部屋は時間が経つにつれ、予約客でけっこう満員になってきたが、私たちの部屋には他の登山者の予約を入れてないようだ。団体の客の利点というべきかもしれない。

夜、部屋のベランダで音聞の訪れを待た。山中での宿泊の大きな楽しみの一つは、満天の星を仰ぐことである。天の川にしる、普段の生活ではほとんど見ることもできなくなってしまうから、星降る夜を過ごせるなどというのは贅沢にちがいない。しかし、この夜、晴れてはいても空いっばいの星というわけにはいかなかった。

御前峰からお池巡り

翌日、南竜山荘の朝食は遅く、出発は7時頃になった。朝の清涼しい日差しを浴びてエコーラインを登ると、ニッコウキスゲ(ユリ科)やハクサンフウロ(フウロ科)などの出迎えを受けた。

やがて周遊道沿いの棚の向こう側遠くの湿地に、ピンク色に染まった一帯を見

い。賑やかなカメラタイムの様子を眺めながら、せっかくな機会だからルートにお池巡りも加えようと、予定を変更する。御前峰から北への下り道では、岩の間にイワヒゲ(ツツジ科)なども見ることができからだ。

紅葉ヶ池から油ヶ池、翠ヶ池、そして血ノ池、千蛇ヶ池へ歩く。血ノ池・千蛇ヶ池付近は白い砂礫に巨岩が散在する平坦地で、遠足気分のようなのかさだ。



御前峰山頂

そのどかさを満喫しようと、先頭切って万年雪の千蛇ヶ池におり、カップに雪を集めて練乳をかけて恒例(?)のかき水をつくった。リーダーがすっかりくろいでもしまったせいか、続いてかき水をつくる人など、メンバーは思い思いの時間を過ごした。

観光新道をくだる

室堂に戻ったのは10時半前。仮設のブレハブ休憩所でティータムをとり、下山を開始した。

黒ボコ岩から砂防新道を分け、観光新道を通む。「馬のたてがみ」と呼ばれる急坂あたりを中心に、カンチコウゾリナ(キク科)・ハクサンシャジン(キキョウ科)・タカネマツムシソウ(マツムシソウ科)・ニッコウキスゲなどが咲き乱れる高茎草原のお花畑となる。観光新道のお花畑は

《第19巻新発売》 —山の随想集— 山との出会い

日8判 320頁/定価1380円(税込)
新ハイキング誌常連寄稿家
55名が書下した山の随想集
山との出会い、花鳥とのであい、いであい、人びとのであい、さまざまであい、その他、55編
発行所 新ハイキング社
〒114-0023 東京都海野117-6-13
☎(FAX共用) 03-3915-9110

つける。ハクサンコザクラ(セクラソウ科)だ。盆過ぎの時期だから、ハクサンコザクラに面会できるとは考えていなかった。やはり、今夏の花期はかなり遅れていたのだろうか。

弥陀ヶ原を過ぎて室堂に着くと、さすがに登山者が多い。食堂センターは食堂棟改築中である。改築は食堂棟のみの予定だったが、できれば宿泊棟やトイレ棟も改築してほしいと思うのは、私ばかりではないだろう。

休憩後、御前峰をめざした。9時に山頂に立つ。雲が広がり、展望は得られな

かなりの長さで続き、たいそう見事な風景を誇っている。

このお花畑とともに、観光新道のもう一つの魅力は、白山連峰の雄大な景観を楽しむことだろう。別山・南竜ヶ馬場・御前峰・大汝峰・白山釈迦窟などが絵巻のように展開する。

殿ヶ池避難小屋で昼食休憩をとり、別当出合に下山したのは、14時であった。

(平成12年8月26日〜27日歩く)

▲コースタイム▼

- 8月26日(日)晴れ時どき曇り
- 白峰温泉5・30(バス)市ノ瀬登山口5・50(朝食)8・15(猿壁取堤6・40)千振尾根避難小屋9・55(御合利山11・50(昼食。この間別山往復)13・00)天池14・00(南竜山荘15・15(泊)
- 8月27日(月)晴れ時どき曇り
- 南竜山荘6・55(室堂平8・10)30(御前峰9・00)お池巡り(室堂平10・20)40(観光新道)殿ヶ池避難小屋11・40(昼食)12・00(別当出合14・00(バス)白峰温泉14・30(入浴)15・10(バス)この間湯沸あり)岐阜駅19・35(解散)

△地形図▽ 昭文社『白山』

棚田の畑集落から

武奈ヶ岳北稜と西南稜を歩く

比良

小林 稔

山歩きをしていると、何度歩いていても、またいつかもう一度歩いてみたいと思う山道の一つや二つがあるものである。私にとってその一つが、武奈ヶ岳北稜の道である。

昨年7月16日の日曜日、たまたまこの山へ行く予定がなかったので、足がこの武奈ヶ岳北稜に自然と向かった。

登山口の高島町畑集落は、私が初めてリトル比良を北小松から高島町に向かつて歩いたとき、オーム岩から西に見た、まるで古代ローマのコロッセウムのように棚田が円形に広がっている集落である。

この集落を遠望したとき、私はここに

桃源郷があると思った。大袈裟な言い方に聞こえるだろうが、私はそれくらい棚田が好きなのである。もちろん、棚田での労働がどのくらい苛酷なものであるか、私も大津市御木の農家で生まれ育ち、幼い日に当然のことのように棚田で両親の手伝いをしたことがあるので、身にしみ

て知っている。一日働くためのエネルギーの半分近くが、棚田の坂を上り下りするために費やされてしまう、それが私の幼い日の実感だった。同じ滋賀県でも、湖東の、あくまでも平らで広い水田をうらやましくさえ思ったものだ。

そんな棚田だが、しかしそれも昔。御木の棚田は農業の機械化に伴う区画整理

心があるように思う。能登の千枚田には、あの苛酷な生活条件のなかで生き続けようとする人々のエネルギーが感じられ、そして御木の棚田には、自然と一体になった人々の生活風景が感じられた。そういった棚田が残されている高島町畑の集落は、私にはなぜか桃源郷のように思えたのであった。畑の棚田がいつまで残っていて

くれるのか、私にはわからない。しかし、畑から地蔵峠に向かう林道を歩いていて畑の集落を見下ろすと、心がほっと休まるのである。いつまでも残っていてほしい理想郷、私は畑の集落にそう思ったのを感じた。

畑集落への訪問は今度で四回目になる。一回目は1998年の12月、二回目は翌年の建国記念の日、三回目は昨年(2000年)の1月、すべて冬だった。

一回目は、初冬の薄曇りの日であったことを覚えている。朽木村村井から北稜に通じるコメカイ道が北稜と合

流する地点付近から、ふと北を振り返った時の霧にけむる稜線の美しさを今も覚えている。

二回目の訪問では、「輪かんじき」のありがたさを身にしみて感じた。畑の集落から一歩山に入ると、膝まで没する新雪があたりをおおっていて、だれもそこを歩いていない。輪かんじきを着けて、だれも歩いていない新雪のなかを歩き続けたのだが、正午になってようやく地蔵山に達する始末。新雪が降った後の冬晴れのすばらしい日で、地蔵山の山頂から見た畑の集落と琵琶湖の美しさが今も脳裏に焼きついている。その日は、そこからも米た道を引き返した。

三回目は曇りの日。天気予報で雪は降



武奈ヶ岳北稜から西南稜に近づく図

北摂の山(上) 東部編

慶佐次盛一 著

四六判・二〇〇〇円

新刊

盲から口掃り、家族連れで親しまれてきた北摂の山々を写真・地図と共に案内。道標の有無や交通機関を示し、寺社や史跡等も紹介したハイキングガイド。

深山・芦生・越美 低山趣味

広谷良昭 著

四六判・一八〇〇円

北摂の深山北南、森深き芦生、豊かな広葉樹林の広がる越美国境。地元の人からの聞きとりも取り入れた郷土の山研究。写真、地図、参考コースタイム付ガイド。

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

釣瓶岳付近から武奈ヶ岳



らないという話だったが、それは下界の
話。北稜の中程、ちょうどコメカイ道が
合流する地点から雪が降り出し、霧にお
おわれてまわりが何も見えないなかを、
西南稜から坊村にくだった。

そしてまようが四回目。JR湖西線雄
琴駅を午前6時54分の普通電車に乗り、
近江高島駅に向かう。近江高島駅7時22
分到着。駅前から7時35分発のバスで畑
に向かう。いつもの私のパターンである。
畑バス停には8時に到着。今までは平
日に行くことが多かったのに、8時にバ
スが着くと、私たち乗客と入れ替りに畑
の小学生たちが数人、高島小学校に通う
ためバスに乗り込んできたのだったが、
きょうは日曜日。

畑の集落は、いつ来ても静かである。
最近農林水産省が指定した「日本の棚田
百選」に滋賀県から唯一選ばれた。少し
前の新聞記事で知っていたが、バス停か
ら少し歩いた所に、そのことを知らせる
掲示板が立っていた。

この掲示板によると、2000年現在、
畑集落の人口は142人。戸数39戸、面
積3.4平方メートル、農家戸数32戸、
農家一戸当たりの平均水田耕作面積は5



山葉と遠く西南稜から武奈ヶ岳
山葉の下を歩くと心地よく、山歩きの
上によかったなと思ふのは、こ
んなときなのではないだろうか。
自然との一体感。何よりも、生き
ていることを感じて

岳の山頂は雲におおわれていたが、少し
待つと雲が消え、釣瓶岳山頂を写真にお
さめることができた。

10時44分、釣瓶岳山頂に着いた。ここ
に来るまでにあつた汗をかいてしま
ったが、山頂の杉の下に坐ると涼風が
吹き抜け、生き返る心地がした。

釣瓶岳山頂は、あたりを樹林におおわ
れ、眺望は良くないが、それはそれなりに
に風情があつてとてもよい所である。何
より静かである。

私は一番好きで
ある。標高とし
た広葉樹の下を
歩くと心地よく、
山歩きの上によ
かったなと思ふ
のは、こんな時
代ではないか。

私には、武奈ヶ岳山頂を後にし、少
し行つて、西南稜を見下ろす所で写真
を撮った。その時の西南稜の美しさに改
めて感動した。太陽の光に照らされて輝
く草木の緑のあざやかさ。そのなかを歩
くハイカーの群れ。武奈ヶ岳付近はいつ
来ても必ず何人かの人がある。まさに武
奈ヶ岳は、人と一体となった山である。

12時15分、武奈ヶ岳山頂を後にし、少
し行つて、西南稜を見下ろす所で写真
を撮った。その時の西南稜の美しさに改
めて感動した。太陽の光に照らされて輝
く草木の緑のあざやかさ。そのなかを歩
くハイカーの群れ。武奈ヶ岳付近はいつ
来ても必ず何人かの人がある。まさに武
奈ヶ岳は、人と一体となった山である。

13時40分ワサビ峠、12時48分御殿山を
通過。13時20分、坊村にくだる急坂にか

反(釣瓶アール)とのことだった。

バス停から山に向かう道は二本ある。
谷川沿いではないほうの道、八幡神社と
いう大きな神木が見えるアスファルトの
急坂を登る左手の道を歩く。しばらく集
落の中を歩くと、道は左に曲がり、道も
急坂から平坦になる。リトル比良の山々
も、このあたりから見えず。アスファ
ルトが切れる所まで歩くと、集落の終わ
りに地蔵峠への標高板がある。この標高
板に従って行つてもよいのだが、疲念な
がらここから先の道は、倒木があつたり
道が崩れていたり、草でおおわれていた
りと、歩みにくい所があるので、標高板
のある少し手前の、軽トラクックな通れ
そうなコンクリート道を右に登つて行つ
たほうがよいようだ。

畑集落から離れて山道を行くとすぐに、
またもアスファルトで舗装された広い道
に出る。この道は、最近出来た、畑から
横谷トンネルをくぐって朽木村の村井に
抜ける道である。この道をしばらく歩くと、
トンネルの入口手前に地蔵峠の方向
を示す標高板が現れるので、この標高板
を見落とさず歩けば地蔵峠に登ることが
できる。今回はこのアスファルト道に出

11時14分、細川越に到着。武奈ヶ岳に向
かって歩き出すと、一人また一人と武奈
ヶ岳からくたつてくる人に出会うようにな
った。きょうは日曜日。しかも梅雨明け
付近の晴天の口とあつては、武奈ヶ岳
山頂はさぞにぎわっていることだろう。

11時40分、武奈ヶ岳山頂に着いた。20
〜30人くらいの人々が思い思いの場所で
昼食をとっている。次々と八雲ヶ原方面
から人がやってくる。私もここで昼食を
とることにした。きょうも、私の好きな
コヤマノ岳や朽木の白倉岳を眺めること
ができた。白倉岳と鎌倉山の間の谷沿い
には、久多の集落が見えている。その向
こうには京都北山の峰々が曇々と続い
ている。

12時15分、武奈ヶ岳山頂を後にし、少
し行つて、西南稜を見下ろす所で写真
を撮った。その時の西南稜の美しさに改
めて感動した。太陽の光に照らされて輝
く草木の緑のあざやかさ。そのなかを歩
くハイカーの群れ。武奈ヶ岳付近はいつ
来ても必ず何人かの人がある。まさに武
奈ヶ岳は、人と一体となった山である。

13時40分ワサビ峠、12時48分御殿山を
通過。13時20分、坊村にくだる急坂にか

た途端、左手に牛のように大きな雄鹿が
草を食んでいる姿が目に見え込んだ。
雄鹿は私の姿を見ると驚いて林のなかへ
飛び込んで行ったが、これも畑ならではの
出来事なのであろう。

アスファルト道から地蔵峠に向かう道
は、さすがに昔からの生活道として使わ
れていたらしく、踏み跡がしっかりと
いる。しかし、7月ということもあつて、
あたりをササがおおっており、ササを分
けての登りとなった。

北稜の道に出ると、いよいよ快適な稜
線歩きとなり、すぐ地蔵峠に着いた。右
上が少し欠けたお地蔵さまがまつられて
いる所で手を合わせ、山行の無事を願
った。

ここからの武奈ヶ岳北稜線の道はほと
んどが樹林におおわれた道である。しか
も人と出会ったことは、今までの山行を
通じて一度もなかった。まさに道通を
心ゆくまで楽しむことができる道である。
樹林は夏の日射しをやわらげてくれ、吹
く風はさわやかだった。心身が洗われる
というのはこういうことなのであろう。

10時6分、釣瓶岳の山頂が見えるコメ
カイ道と北稜との出合で休憩した。釣瓶

10時6分、釣瓶岳の山頂が見えるコメ
カイ道と北稜との出合で休憩した。釣瓶

10時6分、釣瓶岳の山頂が見えるコメ
カイ道と北稜との出合で休憩した。釣瓶

10時6分、釣瓶岳の山頂が見えるコメ
カイ道と北稜との出合で休憩した。釣瓶

10時6分、釣瓶岳の山頂が見えるコメ
カイ道と北稜との出合で休憩した。釣瓶

10時6分、釣瓶岳の山頂が見えるコメ
カイ道と北稜との出合で休憩した。釣瓶

10時6分、釣瓶岳の山頂が見えるコメ
カイ道と北稜との出合で休憩した。釣瓶

10時6分、釣瓶岳の山頂が見えるコメ
カイ道と北稜との出合で休憩した。釣瓶

10時6分、釣瓶岳の山頂が見えるコメ
カイ道と北稜との出合で休憩した。釣瓶

△参考タイム▼
JR近江今津駅7・39(バス)畑8・00
一 地蔵峠9・26一 コメカイ道出合10・06
一 釣瓶岳10・44一 細川越11・14一 武奈ヶ
岳11・49(昼食)12・15一 ワサビ峠12・
40一 御殿山12・48一 明王院14・06一 坊村
14・15一 15・45(バス)堅田駅
△地図▽昭文社「比良山系」

(平成12年7月16日歩く)

須磨アルプスの道

六甲

木村 太郎

「万葉集」巻十七には、平群女郎という乙女から大伴家持へ贈られた相聞歌十二首が収録されている。越中国守として赴任していた大伴家持へ、平群女郎は矢継ぎ早に幾度も、恋する思いを便使に託して届けていた。

その平群女郎の恋歌に、須磨の浦を詠んだ歌がある。

須磨人の海辺常去らず眺く塩の
辛き恋を我はするかも

(巻十七之三九三二)

その当時、須磨の浦では藻塩を煮沸して塩を採っていた。塩焼きの煙の立つ荒涼たる海辺の風景は、乙女の小さな胸を悲しみに染めた。遠い地方に離れて住む

恋人に、思いを寄せることは辛い恋にちがいがなかった。

JR須磨駅を南側へ降りると、そこはもう須磨海岸。この場所が戦の浜と呼ばれる源平時代の故事を、現代の若者たちは知らない。若者たちはこの海浜を占拠し、夏が来れば人魚のカーニバルを繰り広げる。しかし、まだ春浅いま、乾いた白い砂浜が続いていた。海辺では魚釣りや没頭する人たちがいた。

春眼をむさぼる須磨の浦の背後には、西六甲の山々が連なる。須磨アルプスは六甲山地の西南部に位置し、海に面した須磨塩屋の陸地から立ち上がっている。風化し続ける花崗岩の尾根道はアルプスの

の雰囲気を感じ起こさせるのか、ハイカーに人気がある。

一般には鉢伏山のある須磨浦公園駅から歩かれていて、道を変えて史跡散歩しながらに、須磨アルプスへ登るのも一興だろう。

山陽須磨駅の北側に出ると関守稲荷神社がある。赤い鳥居のかたわらに須磨の関跡の石神が立ち、石段を登った境内に源兼昌の歌碑を見る。

あはぢしまかよふちどりの鳴く声に
いくよねざめぬ須磨のせきま

(源兼昌「金葉集」より)

この地は「小倉百人一首」の和歌に伝わる須磨関の古跡である。紫式部の「源氏物語」に、主人公の光源氏が己之日被をしたという話があり、関守稲荷は己之日被社と呼ばれたこともある。東へ少し下がった現光寺は、光源氏が侘び暮らした場所とされている。



松風村雨堂

紫式部は近江の石山寺にこもって源氏物語の須磨明石の巻を書き上げた。万葉時代に荒れさびれていた須磨の地は、風雅な印象を持たれるようになった。須磨を背景にした光源氏のモデルは、須磨の地に満ちさせられていた在原行平と言われている。須磨の巻には「行平の中納言の関吹き越ゆるといひけむ浦波」という、行平の歌の一節を引用した紫式部の文章がある。

須磨寺駅を過ぎて月見山駅へ向かう。難宮道踏切そばの小高い庭地に、松風村雨堂の史跡を訪ねる。光孝天皇の勳氣に



ふれ須磨へ流罪となつた在原行平ゆかりの場所である。

わくらばに問ふ人あらば須磨の浦に
藻塩たれつつわぶと答へよ

(在原行平「古今集」より)

私のことを尋ねる人がいれば、侘び暮らしていると伝えてほしいと、都落ちを詠嘆した歌が残されている。

須磨の海辺を散策していた行平は、潮汲みに来ていた美しい二人の乙女と知り合う。松風と村雨と名づけて召し使っていたが、二年後に都へ帰る日が来る。二人が悲しむ涙を見るに忍びない行平は、観音堂のそばの松の枝に形見として烏帽子と狩衣を掛け、歌一首を残し黙って別離を告げる。世阿弥元清作の謡曲「松風」として劇化もされた。松風村雨姉妹の悲しい恋は、万葉集の平群女郎の辛い恋に一脈通じるものがある。

たちわかれいなきの山の峰におふる
松とききかば今帰る来む

(在原行平「古今集」より)

お堂のそばには、百人一首にも選定された行平の歌の碑が立つ。その歌碑と衣掛け松の切り株に、おぼろげな物語の残滓を見て、松風村雨堂を後にした。

歌に詠まれた須磨の稲葉山とはどのあたりなのだろうか。行平が都を思い無聊を患めて月見をしたという、月見山の古き山名なのだろうか。おそらくは現在須磨アルプスと呼ばれている山の、海側に近い前山だったのではなからうか。

須磨難宮公園に続く松並木と石畳の坂道を登る。途中で離れて北西に斜行する。須磨大池とも呼ばれる堂谷池から、須磨寺と呼ばれる上野山稲荷寺へ立ち寄る。平朝盛若武者像の立つ源平の庭、光源氏が植えたといわれる若木の榎など見所は多い。

広い境内に、松尾芭蕉の「須磨寺や吹かぬ笛聞く木下聞」の句碑を見る。芭蕉の「友の小文」の旅を思い、敏盛の「青葉の笛」の幸薄かった生涯を思う。木陰に点在している文学碑を見て通り気持ちは豊かになる。灘泊の俳人尾崎放哉の句碑は、本堂が修復中で見ることができなかった。

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| *1 利尻・霧峰・剣山・阿蘇 | *35 白馬岳 |
| *2 ニセコ・羊蹄山 | *36 奥多摩・黒鷲山 |
| *3 大雪山・十勝岳・城崎山 | *37 駒ヶ岳・立山 |
| *4 十和田湖・八甲田・磐梯山 | *38 上高地・信濃高原 |
| *5 八幡平・妙高・妙高高原 | *39 乗鞍高原 |
| *6 奥羽・早池峠 | 40 武蔵山 |
| *7 蔵王・御山・蔵王 | 41 中央・南アルプス群 |
| 8 黒部山 | 42 木曽野・蔵木岳 |
| 9 朝日・出羽三山 | *43 甲斐駒・北岳 |
| *10 飯盛山 | *44 塩見・赤石・聖岳 |
| *11 磐梯・吾妻・安達太良 | 45 白石 |
| *12 那須・塩原 | 46 奥山・伊吹・藤原 |
| 13 日光 奥日光・日光 | 47 御在所・鎌ヶ岳 |
| *14 尾瀬 | 48 比叡山系 |
| 15 冠後三山 奥山・日光 | 49 奥北山 1 |
| *16 谷川岳 奥山・日光 | 50 奥北山 2 |
| *17 赤倉高原・草津 | 51 奥北山 3 |
| 18 妙高・戸隠 | 52 北岳の山々 |
| 19 磐梯・湯沢・真田 | 53 六甲・摩耶・奥 |
| *20 赤城・奥野・真田 | 54 冠峰高原・二上山 |
| *21 那須・妙高 | 55 金剛山・岩手山 |
| 22 奥羽・秋田 | 56 奥羽山系 |
| *23 奥多摩 | *57 大塚山系 |
| 24 大宮群峰 | *58 大台ヶ原 大宮・奥多摩 |
| 25 奥秩父 1 奥山・日光 | 59 赤岳・奥多摩 |
| 26 奥秩父 2 奥山・日光 | *60 赤山 奥多摩 |
| *27 高尾・練馬 | *61 大山・神山系 |
| 28 月夜 | 62 四国山系 |
| *29 妙高 | 63 石見山 |
| *30 伊豆 | *64 奥多摩の山々 |
| *31 富士・富士五湖 | *65 阿蘇・九重 |
| *32 ハッポウ資料 | 66 相模・箱 |
| 33 奥ヶ原・霧ヶ峰 | 67 奥久良 奥多摩 |
| *34 北アルプス群 | *68 霧島・阿蘇系 |

(★印は新刊の地図です)

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年百冊発行します。この山行の情報はなるべく最新版をご利用下さいませようお願ひ申し上げます。
 ※2000年度版より「大雪山」「甲斐駒・北岳」「奥山・赤石・聖岳」阿蘇・九重」を全年度版とし、新刊として「奥山・奥多摩」を刊行しました。

昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1
 電話03(3556)8111(代) 〒102-8238
 支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
 電話06(6303)5721(代) 〒532-0011

〈インターネットで情報発信中〉
<http://www.nacpis.co.jp/>

扱山への直登路を選んで進む。鉄扱山頂では眺望は得られない。この山にその昔鉄扱仙という仙人が降り立ち、しばらく人間界に留まったという。鉄扱山という山名にまつわる伝承である。

芭蕉の「笈の小文」には、須磨を訪れた時に、鉄扱ヶ峯へ登ったことが書かれている。「羊腸・險阻の岩根をほひ、つづね根ざざにとりつき、息をきらし汗をひたして雲門に入こそ」したという。さらには「後の方に山を隔てて多井の畑といふ所、松風村雨ふるさとといへり」とも記述している。

鉄扱山頂からの急坂をくだり、旗坂山からの縦走路に出合う。鉄扱山の奥北、奥須磨公園のそばの多井畑には、いまでも松風村雨の墓が残る。芭蕉がいう「後に隔てている山」とは、高倉山を指したものであるか。その高倉山はいま、削られて公園に化した。高倉台の新しい街並を抜けて梅尾山へと進む。長い階段道が、山を越えるための試金石のように眼前にのびている。振り返ると明石大橋が見える。

梅尾山の展望台上がり、芭蕉が見たという、「淡路島手にとるやうに見えて、

では、アルプスの緩線に続く高みを歩いていると想定し、馬の背を渡り終える。アルプス縦走の疑似体験の後には、だれもが幸せな感情に満たされる。東山にたどり着いて、山端から現しみをこめて馬の背を振り返る。

須磨アルプスの掃路は、妙法寺もしくは神昌寺から高取山へ分岐する道を分けて、板宿八幡神社へくだる。この八幡社は菅原道真公を鎮守神としている。道真公が都を出て、太宰権帥として九州への旅の途中、この地に板張りの宿をつくらせた。板宿の由来である。社の境内には、道真公ゆかりの飛び松の切り株が残る、



板宿八幡神社

飛松天神もまつられて
 いる。
 東屋にの
 せて梅の花
 は香りをと
 どけて慰め
 てくれるの
 に、つれな
 い松の木は
 何もしてく
 れない。都

落ちの身を嘆いた道真公の言葉を聞いた松は、京都から板宿の道真公のもとに飛んで来たという。鞍馬の浦の西端にあつたという和山岬に、道真一行は船を停泊して板宿の宿泊地に向かった。途中真野の雑橋を越える時に、川岸で花開いた一本の梅を見て、都の邸で愛でた梅を懐かしんだ。

その時道真は、一風寒み雪にまがへて咲く花の袖にぞうつけいふ梅の香」と詠んでいる。阪神高速神戸線の淡川出入口近くに、道真の足跡を地名にした菅原町がある。その西隣は真野町という地である。この地は真野の雑橋とか、真野の雑原という表裏で、万葉集の中に歌われた歌の地でもある。

いざ子ども大和へ早く白雪の
 真野の橋原手折りて行かむ

(巻三二一八〇)

子どもや妻や家族が心待ちしている故郷へ急いで帰ろう。せめてもの旅士隊に、真野の橋原の橋を手折って行くことしよう。高市黒人が、都に残した妻に贈った相聞歌である。

名著「単独行」で知られる加藤文太郎も、須磨アルプスを愛した一人である。

ある日のこと、和田田の三菱造船所の合宿を出て、須磨浦公園の敷盛塚の場所から須磨アルプスを歩いた。その時は宝塚までの六甲全山を縦走しても歩き足りず、西宮に出て神戸に入り街道を和山岬へ戻った。一日で100kmの長距離を踏破しても平気であった。

加藤文太郎がその時歩いた須磨アルプスへの道は、まわりの様子は変わり果てていても、津の國の万葉集の道であった。鞍馬の浦内の和山岬、高市黒人夫妻が相聞歌を和した真野の橋原、平群女郎が通わぬ恋に泣いた須磨の海辺。須磨アルプスの道の魅力を述べるならば、山歩きの楽しみのほかに、はるかな昔の物語を歩く喜びをあげておきたい。

(平成13年2月11日歩く)

コースタイム

JR須磨駅・須磨海岸(10分) 関守稲荷(15分) 松風村雨堂(15分) 須磨寺(20分) 一の谷橋(25分) 鉄扱山(35分) 梅尾山(15分) 横尾山・馬の背(20分) 東山(30分) 板宿八幡神社(15分) 山陽電鉄板宿駅

ラムラム山

グアム島へ旅行することになった。グアム島といえばマリンスポーツになるが私にはあまり興味がない。付き合いで行かざるを得ないのだが、何か私に合うものはないかとグアム島の旅行案内書を図書館で借りて調べてみると、あった。

「グアム島最高峰・ラムラム山（4063）は、世界最深のマリアナ海溝（1万1030m）から測ればチョモランマより高い」とグアム島の人々は自慢する。と載っているのではないかと、これで決まりだ。

旅行スタイルはトレッキング・シュノーケルにサブゼックにする。初日はホテルの海岸でのバーベキューとマイクロネシアンダンスの激しい腰振りダンスに圧倒さ

れた。

二日目は一日観光で、恋人岬・スベイン広場・ラッテストーン・アブガン岩・数年前まで銃声巨人軍がキャンプしていたバセオ球場・自由の女神など見学し、それに買物ツアーも入っていた。三日目は各自オプションで自由だ。ゴルフ・イルカウォッチングやトロリーリングに出かけるのだと、ほかの仲間が喜々としてい

る。私は一人で行動した。

朝7時にニッサンエクセルで迎えに来てくれたのは、退役軍人のジョー氏（88）であった。約束ではラムラム山の麓まで行き、私一人で登ってくる間、そこで待機してもらおうことになっていたが、私一人

山です」

めざすラムラムの山は扇形で山頂には十字架が見える。山側の民家の横に車を乗り入れる。ここが登山口で十字架が目印だ。現在8時、9時30分にここに戻ってくることを約束して、彼の息子と二人で登り始めた。

山道はしっかり付いていて、十字架が所どころ出てくるのが道標代わりだ。密林のうっとうしい登りだとはかり想像していたが、尾根通しの登りで、常にラムラム山を右に眺めながら、おだやかな登りが続く。山腹にはバイナップルの木が見えるからまさしく熱帯の山である。アカシヤに似たカタンガタンが多く見られる。



ラムラム山
マリアナの像が安置してあって、ロザリオがその周りの草木に掛けてある。クロイモ・ミョウガが付近に見られた。ここから先は道標のような

マリアナ諸島

ラムラム山山頂にて



で登るのを心配して、彼の息子（36）を同行させると言う。

「息子は高校で歴史を教えているが、きょうは土曜日で休みだからOKだ」

ラムラム山に何回登ったのかと訊ねると、

「きょうが初めて」

と答えが返ってきた。息子さんは19歳のとき、20マイルのレースに出たことがあると言う。しかし、今は何もスポーツはしていないから、このように太ってしまいい、80キロもあるそうだ。

国道2号線を南下し、セラ湾展望台に着いた。眼下にセラ湾が望め、南には三角錐のササラグアン山（3377）が見える。ジョーが東の山を指差しながら、「十字架が山頂に見えるのが、ラムラム

十字架がなくなり、尻根を右へ曲がるようにして稜線に出た。風が強い。身丈大のペンペン草に似た草が倒れかかっている。それをかき分けて主稜線に出て、右に向かうと十字架が五、六本見えた。

そこが山頂で、大きな十字架（約7m）が一本、2層位のものが六本、最高点にも一本（2・5m）ある。大きな十字架には1980年にこの十字架は建てられたとある。風がきつい。赤道偏東風がいつも吹いているというがこの風だ。草木が西にたなびいていて帽子は飛ばされそうだ。

グアム島は両に山が多く、山脈が西寄りにある。山頂から眺める東面は密林におおわれていて広い。この密林に横井庄一氏は潜んでいたのだ。山頂には15分程いて下山した。

なお、この山へ現地の人たちは毎年イースターの日に登るのだそうだ。また、ラムラムの意味は「稲妻」という。

（平成13年2月17日歩く）

▲コースタイム▼
セラ湾展望台・登山口（45分）ラムラム山（30分）登山口

私達におまかせ下さい。待っています！

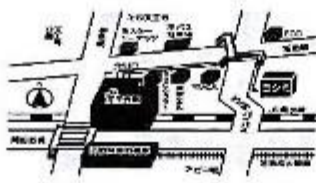


詳しくはホームページを見て下さい。

登山用品専門店

とスキーのヨシヨシ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.dl.dion.ne.jp/~hyoshimi>

JR天王寺駅北出口
より東へ強歩5分

連載

三角点を訪ねて ①

わが故郷の山・栗駒山へ

東北

磯部 純

このような山登りができたとはわれながら信じられなかった。登る距離は短かったにしろ、結婚して初めて2人だけこんなにも高い山に登ったのだから――。妻は若いときに伊吹山へ一回登ったことがあるだけで、山と称するような高い山へはこれまで登ったことがなかったのだ。

7月に入って東北地方はズーッと雨。田舎の父の容態が悪くなり、その看護がたがた妻と婦省していたのだが、やっと、この前日に晴れるとの天気予報を見て、看病疲れの気分転換にと、中・高・大学時代には毎年何回となく登っていた栗駒山の山麓を散策しようと出かけることに

した。田舎とは、東北新幹線のくりこま高原駅で下車し、北西へ40分程入った宮城県北西端にある栗駒町という町で、栗駒山山頂までわが町である。

栗駒山は宮城・岩手・秋田の三県境に跨がるコニーア型の休火山で、宮城では栗駒山、岩手では須川岳または酢川岳、秋田では大日岳と地元によって違う山名で呼ばれていた。それが、今では栗駒山という山名が定着している。この栗駒山の山名由来は、3月から八十八夜にかけての残雪が馬(駒)の形に残ることと、山麓が栗毛の駒の産地であったことから名付けられたという説が有力である。

標高1408mピークから栗駒山山頂を望む

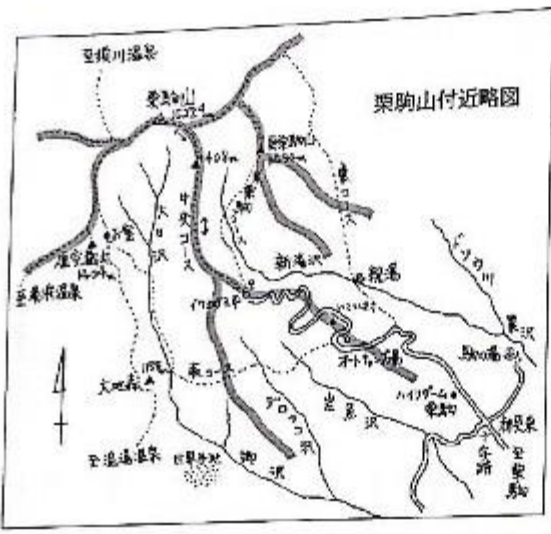


山麓にはブナの原生林が広がり、高山植物が豊富で、世界谷地・名残ヶ原・竜泉ヶ原などの湿原地帯があり、花や草木を楽しむには格好の地といつてよい。ただ、開発に名を借りてわが栗駒町側の山麓は、多くのブナが伐採されてしまったが残念でならない。

9時10分、「くりはら田園鉄道」栗駒駅をバスは出発。のどかな田園をゆっく

りと右に左に曲がりながら、一路栗駒山中腹の「イワカガミ平」へ向かって走る。走り出すやいなや、路線バスなのにあたりの風景や歴史の説明アナウンスが始まり、あたかも観光バスに乗っているような気分がさせられる。バスに乗っている客はわれわれを含めてたったの4人。「終点まで乗るのなら2人だと回数券を買ったほうが得ですよ」と運転手が教え

てくれたのにはおそれいった。全く商売抜きで運行しているのしか思えない。もちろん、言葉は東北弁。昔は終点だった「びょうほ」を過ぎると、道は急に狭くなる。栗駒ダムを右に見て、さらに進むと「行者滝」。30分も落差のある大滝である。例年だと夏になると水が濁れて滝の流れを見ることができないというが、今年は異常なほどに雨が降り、ゴーゴーと音を立てて流れ落ちていく。運転手はわれわれに滝を見せてくれるために、わざわざ停まってくれた。40分程前までは、栗駒山へ登るのは二日仕事。先程の「びょうほ」から、山腹にある駒の湯温泉まで歩いて一泊し、朝早く起きて山頂を極めてくれたものだった。その駒の湯温泉までの中間地点がこの行者滝だ。それが今では30分程バスに揺られれば、一日かけて歩いた距離を登ってしまうのだから、ただただ、驚くばかり。



さらに柳沢に沿って、小さな滝群を見ながら高度を稼ぐと斜

面はゆるくなり、昭和になって開拓された耕英開拓畑のある高原地帯へ至る。世界谷地湿原地帯はこの南方にあるが、まずはバスの終点である「イワカガミ平」まで行くことにする。「ハイルゲーム栗駒」と称する健康施設、高原オートキャンプ場、「勤労者いこいの村」と過ぎて行く。雲のなかに入ったのか、視界は10分もまかない。バスのすぐ前方に霧のなかから道が現れてくる。いくつものヘアピンカーブをゆっくりと進み、大駐車場のある標高1120mの「イワカガミ平」へ着いたのは10時20分。麓では晴れていたのだが、ここでは何も見えず白一色の世界へと変わっていた。

駐車場には大型バス四台と乗用車が駐車スペースいっぱいになり並んでいた。時間はすでに10時半前、この時間ではほとんどの人が出発してしまったのだろう。あたりに人影はない。この日、われわれは山へ登るつもりはなく、駐車場のの上にあるレストハウスで買い物をしたのち、車道をくだり、世界谷地の湿原で花を眺めて時を過ごすつもりだった。それが、バスを降りたたん、「せつかくこまで来たのだから、切りのよい所まで登って

みたい」と妻が言います。もちろん、当方は随分たりかたたりで、すぐその話になった。天気予報では「曇りのち晴れ」とあったが、このあたりはあいにく雲のなか。この霧が晴れるのを期待して、歩ける所まで歩こうと中央コースをゆっくりと登り出したのだった。

栗駒山へ登るルートは現在、栗駒高原からは表掛けコース・中央コース・東栗駒コース・裏掛けコースと四つある。40年前前には、中央コースはまだ出来ておらず、表掛けコースから登り、裏掛けコースをくだるのが通常ルートだった。が、「イワカガミ平」に大駐車場が建設されたからは、中央コースが開かれ、今では中央コースを登り、東栗駒コースか岩手県側の須川温泉へくだるのが通常ルートになった。現在では廃道に近くなった裏掛けコース、石飛八里と言われる表掛けコース、花山の湯浜温泉へくだるルート等は、栗駒山に魅せられた人たちだけが歩くルートに変わってしまった。

四ルートの中で一番距離の短いルートは中央コースで、山頂まで約3km、標準所要時間は1時間30分。道幅は2mもありません、途中まで石畳状にコンクリートで固



栗駒山山頂にて、妻と

なかつたかもしれない。まずは？人で登った記念に、栗駒山の標識をバックに写真撮影。お目当ての三角点標石は標識のすぐそばにあった。1等三角点である。点名は酢川岳。顔は南南東を向き、南から東へ30度振っている。若いとき何回となく登っているこの山だが、三角点標石をしつかりと見たのは7年前が最初で、それ以来の様顔である。若いときに数え切

められていて、とうてい登山道とは思えないような道が続く。道の傾斜もあまりきつくない、山登りというより遊歩道を散策しているような気分になる。

さて、いざこの中央コースに踏み込むと道は溝状になっていて、その両側には背丈1m程のナオにクスギ・ヒバ・松などがびっしりと生い茂っている。登るにつれ、道の脇の白や黄色の小さな花が目につきたてきた。歩き始めた時にはだれもない道を2人だけが歩いていたのだが、やがてどこから現れたのか、子どもやお母さんたちの団体、町内会らしい団体に次々に追い抜かれてしまう。しかし、ゆっくり歩いているようでも、休まなければ意外に早いものだ。先程、元気に追い抜いて行った子どもたちや母親の団体が道にへたり込んでいるではないか。それを見て、妻はさらに元気が出たのか「もう少し先まで……」「もう少し見晴らしの良い所まで……」と歩いてしまい、ついに、石畳の切れる1400m付近のピークまで登ってしまった。

ピークに立つと、それまで重く立ち込めていた霧は、われわれの到着を待っていたかのようにどこかへ流れ去り、山頂

が目の前に姿を現した。手をのばせば届きそうにも思え、山頂に立つ人の姿もクッキリと見えている。この小ピークから先は樹木の限界になっているのか高い木は全くなく、せいぜい50cm程のハイマツや低い樺木の斜面で、展望は一気に開ける。西には虚雲蔵山から山頂へと続く尾根、中腹には三つの雪渓が白く形どられ、東に目を転じると東栗駒山の稜線が間近に姿を見せていた。

それまでは見晴らしの良い所まで登ったから引き返すつもりでいたのだが、山頂を見たとき妻は、「ここまで来て引き返すなんてもったいない。どうしても山頂まで行こう」と言って歩き出す。山頂直下の少し急な所をゆっくり歩けば十分に登れる高さだった。道脇には遅咲きのシヤクナゲやミヤマキンバイ・ナラサドウダン・ウラジロウラクが花を付けていた。いずれも木の高さは50cmにも満たない。

12時10分、ついに栗駒山山頂へ到着した。1627・4mの標高まで登ったのである。だだっ広い山頂には人、また、人。とにかく坐る場所がないほど多くの人がひしめいている。200人ではきか

れないほどこの山頂を踏んでいたが、三角点には全く関心がなかった。

7年前に初めて見た三角点標石は、欠けた所もなくきれいだったと記憶しているが、今は見るも無残。標石の右上が大きく欠けていて、1等三角点の「等」の字も無くなっていた。そんな三角点に興味を示す人はだれもおらず、完全に無視された存在だった。標石にカメラを向けているのはわれ一人。

次大な山頂の東はずれには、その昔平泉の藤原秀衡が大日如来をまつたといわれる祠があり、西には広場が続いている。その標識から少し西へ移動し、須川温泉を見下ろせる場所で昼食とする。眼下には須川湖、昔の火口の跡をとどめている剣岳が見えていた。天気が良ければ見えるはずの烏帽子山・遊石岳・月山・岩手山・早池峰山などは全く見ることができずに雲のなか。ただ、北東の平泉方面には、雲海が実に美しく広がっていた。日差しはまさに夏そのものだったが、さすがに高所、吹く風は冷たい。

心ゆくまで山頂での景観を楽しみ、13時、下山にかかる。通常なら東栗駒コースをくだるのだが、歩き別れていない人

とでは無理ができません、そのまま登って来た中央コースをくだることにした。1400mの小ピークまで20分程度でくだる。

このピークに立ち、「いま登って来た山頂は？」と振り返ると、何とすでに山頂は霧におおわれ、妻のなかに顔を突っ込んでいるではないか。先程の山頂での暖かい日差しは何だったのだろうか。われわれが山頂にいる間だけの束の間の好天だったのである。

妻と一緒に初めて高い山へ登ったことを祝って、天が心くばりをしてくれたように思えてならなかった。

(平成11年7月20日歩く)

▲コースタイム▼

イワカガミ平(1時間45分) 栗駒山(1時間5分) イワカガミ平

▲地形図▼ 2万5千11栗駒山

▲交通▼

東北新幹線・くりこま高原駅からはバス(栗駒線) またはタクシーで栗駒町岩ヶ崎へ。岩ヶ崎からは田園鉄道栗駒駅からイワカガミ平へはバスまたはタクシー。一ノ関駅から須川高原温泉へは岩手県交通バスで。

連載

比良を歩く ⑳
葛川中村から
蓬萊山・ホツケ谷道

蓬萊山・ホツケ谷道

秦 康 夫

比良山系で唯一の一等三角点・蓬萊山への登山路はいくつかあるが、今回は、登山者がほとんど利用しないわりには歩きやすい、葛川中村からの巡視路ルートをとることにした。

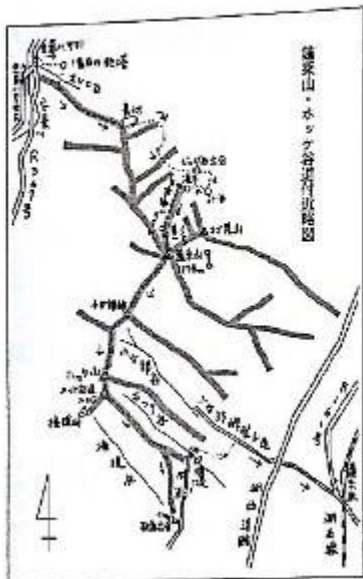
安曇川左岸にある関西電力中村発電所から、打見山山頂にのびる送電線の巡視路を汗谷まで山実になどり、あとは滝平からリフトで蓬萊山に登ろうという計画である。帰りは、これも人の少ないホツケ谷道をくだることにしている。

登山口は、バス停「葛川学校前」と「葛川中村」のちょうど中間あたりである。出町御駅発7時45分の京都バス「朽木村」行きに乗りして約1時間。「葛川

冷たい水で潤いた喉をうるおし、ここで最初の休憩。

谷を渡り、斜面のトラバース道が終わると二番目の鉄塔が出てきた。これを過ぎるとおおむね尾根沿いの道となり、登りもゆるやかになる。

送電線は、ほぼオシロ谷の南の稜線上に、鉄塔と鉄塔の間を最短距離で走っているが、巡視路はそうはいかない。何度か送電線の下を横切ってアップダウンを繰り返しながら、鉄塔から鉄塔へと続いている。道はやや不透明だが、巡視路用につくられたというだけあって、急坂には黒いプラスチック製の階段もある。ちょ



学校前」で下車し、9時ごろから歩き始めた。きょうのメンバーは男性7名、女性4名の計11名。

安曇川に架かる橋を渡り朽木方向に40〜50分行くと、右後ろへ折り返すように登って行く舗装された広い道がある。この道は民家の脇を左に折れた所から細くなり、間もなく金網のフェンスに囲まれた貯水槽が現れた。舗装路はここで終わり、あとは山道になる。

しばらくは右のオシロ谷に沿うように登るが、徐々に道は谷筋を離れ、左の杉林に入っていく。ここからの登りはきつかった。ジグザグの急登が続き、額のバングナが汗で重くなり始めるころ、やっ

うと歩幅に合った歩きやすい段差だ。

薄暗い杉の植林と明るい自然林を分けて、尾根は南ないし南東の方向に続く。

左に三番目の鉄塔をやり過ごし、四番目、五番目の鉄塔あたりから植林帯を離れ、自然林のなかの気分のよい道になってきた。ブナ・ミズナラ・コナラの林をぬって蝶がひらひらと舞い、のどかにウグイスの声も聞こえる。ウグイスに負けじと唧しくれがじーんと耳鳴りのように迫ってくる。

送電線は鉄塔ごとに少しずつ左に折れて、いつの間にか東に向かう。ここまでのところ登山案内の標識は全くない。その代わり「火の用心」の立札と、要所に設置された巡視路用の階段でルートが確認できるのはありがたい。

鉄塔はほぼ10分ごとに現れ、支柱の番号でいくつ目の鉄塔かわかるようになっていく。六番目、七番目の鉄塔を過ぎ、八番目の鉄塔のあたりからクマザサが出てきた。西

一面水草におおわれた長池



と最初の送電線用鉄塔が現れた。きょうはずっと関西の巡視路を行くので、十数本の鉄塔を通過するはずである。地区で送電線が直角に右へ曲がるあたり、道も送電線にならない右に折れて南東方向に向かう。

支谷を一つ横切って少し下りになり、間もなくオシロ谷に出合った。大きな岩を挟んで二案に分かれた短い滝がある。

方向の展望が開けている所で休憩。安曇川を隔てて見えるのは伊賀谷山と峰床山か、その左には昔子山や、はるか西南西方向には京都の愛宕山らしき山がぼうとみえてくる。

送電線の下を北から南に横切り、少しくだると左下に池が見えてきた。長池だ。ここで初めて「シル谷・打見」と記された案内標識が現れた。池におりていく道がある。

踏めば水の浸み出す、ズゴケの上をそと歩いて池の縁まで近づいてみたが、ほとんど水草におおわれて水面は池全体の10分の1くらいしか見えない。池というより沼沢地である。わずかに残った狭い水面上にのびる木の枝には、おどろくほどたくさんモリアオガエルの卵塊がぶら下がっていた。まるで夏の水に咲く白い花のようだ。池のような卵塊が一つ、ぽつんと池面に落ちるのが見えた。池畔には、これも見事に白いナツソバキが「水鏡の花はこちらだ」と言わんばかりに大きく咲き誇っている。

池の南を回り込むように進むと、また鉄塔に出た。九番目の鉄塔だ。「ビワコバレー線9号」と書いてある。長池から

道は階段によくなり、ゆるやかな登り下りが続く。十番目の鉄塔を過ぎ、五本走っている送電線の真下をしばらく歩くと十一番目の鉄塔が現れる。道は下りとなり水の流れる小さな沢に出た。数年前ここを通ったとき、柴炭の灰がたくさん流水に浸けてあった。狼が食料用に保存しているという話だったが、本当だろうか。沢を渡ってひと登り、十二番目の鉄塔が見えてきた所で道は右へ折れ、西方向に向かう。だからだらくだつてまた沢を横切り、十三番目の鉄塔を越えたとやや大きい沢に出た。地図にジャガ谷とあるのがこの谷のようだ。

これを上流に向かって進めば滝平リフトのりばへの近道になるが、最後のほうはブッシュになっていて非常に歩きにくい。きょうは漕運りにはなるが、正規のルートに行くことにする。

突然、目の前10分くらいの所を一頭の大鹿が横切った。音もなく飛び跳ねて左の林に入ってゆく。あわてて後を追ったがすでに影も形もなく、わずかに揺れるササが、その跡を示すのみだった。

最後のひと山を登りつめた左に、十四番目の鉄塔がある。これで道案内の鉄塔

ともお別れだ。どんどんくたつて、やつと夫婦滝からの登山道に合流し、何かの封鎖所らしい大きな建物の横を通って汁谷のキャンプ場に出た。右の山側にアーチ型の門があり、「白谷平・蓬萊山回遊コース入口」と書かれている。アジサイ溝の横には、「白谷リフト営業中」の看板も出ている。

100段程の階段を登り、くたつた所が滝平。260円を払って白谷第2リフトに乗った。音の静かなベアリフトだ。ウグイスの声を聞きながら、のんびりリフトから右手の山を眺めると、さっき通ってきた長池からの鞍線が見渡せる。送電線の鉄塔の先端が、森の上に突き出ているのもよく見える。あれは何番目の鉄塔だろう。

所要時間約10分。次に、距離は短いけど200円もする第1リフトに乗り換え、約3分であつさり蓬萊山の頂上に着いた。1174・2坪の1等三角点は、石とロープで大事に囲ってある。

風が強いので山頂直下の「山の神休憩所」に入って昼食をとることにした。ここには比良山系の守護神である山の神がまつられている。八角形をしたきれいな

左のホッケ谷への上昇路は、どこなのかがつかぬ間に通り過ぎてしまった。尾根がなんとなく左右に分かれるような気がしたが、道は突然右(南)方向に折れ、しばらく稜線の東斜面をトラバースしてから尾根道に戻る。「北濃県豊原林の立看板を過ぎると左下に林道が見え、権現谷の近くにおいた。

左に道をとると、すぐホッケ谷方面からの林道に合流する。この広い林道を山に向かつて登り返し気味に北へ1キロ程歩くと、ホッケ谷に出合った。狭いホッケ谷は一面夏草におおわれている。

ここで道はリターンしてやつと琵琶湖方面に向かう。すぐ林道は二本に分かれるが、右の広いほうは工事用のもので、建設中の砂防堰堤の所で行き止まりとなる。ホッケ山の頂上からもよく見えていたが、狭いホッケ谷に不釣り合いなほど大きな堰堤が完成寸前だ。

ホッケ山東南尾根の末端を廻り込むといはうの秋道を行くと、間もなく植林帯のなかの溝状の道に変わり、雑木林を突っ切つてやつと豊田に出た。みずみずしい稲田の広がる開墾地帯、下方には芝賀中学校の広いグラウンドも見える。北へ数

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0871 東大阪市瑞池本町1-20 オカビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

お堂だ。家庭菜園で収穫したプチトマトやピーマンなどをたくさん持ってきてくれた人がいて、新鮮な野菜類でお腹がいっぱいになった。

午後は、縦走路を小女峠からホッケ山に登った。ホッケ山から急な下りが終わった所の左手の木に目印のテープがある。少しわかりにくいのが、ここが下山コースの入口である。「ホッケ谷道・初心者無理」と書いた木札がかかっている。

このルートは谷道を行くと苦労するが、谷におりず、ホッケ谷と権現谷に挟まれた尾根道に行くとさほど困難ではない。

分て小女峠からの登山道に出合い、20分程歩いてJR蓬萊駅に着いた。

帰路は、「ホッケ谷道」とは言いながらも谷にはおらず、ずっと尾根道しにくだってきた。稜線歩きは快適だったが、このルートの難点は林道に出てからが長いことだ。JR蓬萊駅まで1時間10分くらいを要した。もっとスムーズに、駅に出る近道があるのかもしれない。

(京都北山グループ例会)
平成12年7月30日歩く

参考コースタイム

出町御所(バス1時間) 豊川学校前(20分) 一番目の鉄塔(15分) オシロ谷出合(1時間10分) 長池(50分) シタガ谷出合(45分) 汁谷キャンプ場(15分) 滝平リフトのりば(第2リフト10分・第1リフト3分) 蓬萊山(20分) 小女峠(30分) ホッケ山(10分) ホッケ谷道入口(1時間20分) 林道(25分) 林道・ホッケ谷出合(25分) 小女峠時登山道出合(20分) JR蓬萊駅

地形図

2万5千「花背・比良山
昭文社」 「比良山系」



ホッケ谷下山道への入口

「谷道は進行困難、尾根道を行くこと」とでも書けば親切だと思ふ。
ホッケ谷道に入る。いきなりブッシュ帯に突入する感じだが、すぐに明瞭な道が現れた。登山者があまり歩いていないので荒れてはいるが、ほぼ南東方向にのびる尾根に沿って、広くなったり狭くなったりしながらもしっかりした道が続いている。古い石組みの跡もある。往時はトシボ(二輪の筒車)でも通っていたのかもしれない。黄色い小さな蝶の群れがひらひらと前後左右を舞いながら、先程からずっと道案内をしてくれている。

三重県北部ルート

柴田 昭彦

【三重県内ルートの文献】

★三重県内の旗振り通信に関しては、中島仰男「三重県向けの旗振り通信ルートについて」(『蒲生野第二十二号』昭和62年11月)(中島の論文と略称)があり、多度山(二本杉)・お経塚・高旗山を紹介している。

★「三重の古文化第48号」(通巻第89号、三重郷土会、昭和57年10月1日発行)(三重県立図書館・天理大学附属図書館蔵)に掲載された、川合隆治「旗振り通信について」という論文は、多度町教育委員会町史担当から送ってもらった資料で、三重県内の旗振り地点に関する郷土資料や古老からの聞き取り内容を要領よく紹介した

ものである。桑名から四日市を経て津へ連絡する、明治中期の通信ルートも明らかにされている。

【滋賀・三重県境から桑名へのルート】
★川合論文によると、桑名砂利区区社長杉山和吉氏、および桑名市史の著者平岡綱氏が古老から聞き取った結果を川合氏に昭和四十四・五年頃、教示したものは次の通りである。

- (杉山氏が聞いたルート)
- ・桑名発信―多度山―生駒山―堂島へ
- ・桑名―多度―高須―岩倉―名古屋へ
- ・桑名―垂坂山―野登山―大阪へ
- (平岡氏が聞いたルート)

相場振山から見た四日市方面の展望(倉山市歴史博物館提供)



・桑名―垂坂山―野登山―大阪と津へ
・桑名―多度―大垣へ
つまり、桑名―垂坂山―野登山―大阪というルートの存在が示される。一方、中島の論文には、鶴足山(野登山)からお経塚(中島氏は関町・伊賀町境という)への通信が伝承されているが、野登寺の住職は旗振り伝承を聞いていないとのこと、裏付けがとれないままであった。県境の相場振山から野登山方面に通信が行われ

たかどうかの確認が必要と思われた。大阪・京都から滋賀・三重県境の相場振山に至るルートは前回までに紹介した。県境から桑名へ連絡するルートは、筆者の調査でようやく判明したと思われるので、次に紹介していこう。



上野西山の鉄塔にて(四日市方面)は分らない」とある。さらに、和夫氏の母(のさへ)の歌も紹介されていて、「さきは若き日西の山頂にて、米の相場の旗ふりしを聞く」(昭和六十一年

「三葉だより」(二二号)とある。ここに、旗振り場所として、「西の山頂」とあるので、野登山の中腹とは考えにくい。上野の西南西方向にある417坪の山(標高は明治25年測量の5万分の1地形図「亀山」による)が旗振り場である可能性が高い。この山は、県境の相場振山が見通せて、東や南への通信も可能な立地である。場所が近いので、関係者には「野登山」の名称で、伝承されたものと思われる。野登山とは別の独立した山なので、野登寺の住職が知らなくても無理はないであろう。

★鈴鹿市教育委員会の服部龍二氏を通じて、坂口和夫氏に確認していただいたが、和夫氏は旗振り地点は「存じなく、母は高齢のため、聞き取りは無理とのことであった(平成12年9月30日付の返信による)」。旗振り地点を確認しておいてもらえたらと悔やまれる。なお、上野西山というのは、筆者が京都ルートの駒谷西山にならってつけた仮称であり、実際の山名は不明である。深美半島の方へ伝えたというのは、おそらく名古屋を経て、愛知県各地へ伝達したことを示すものであろう。

●垂坂山(四日市市垂坂町・羽津)につい

ては、「三重県史」(三重県、昭和39年)の巻末の年表の明治24年の項目に、「垂坂山に旗振り始まる(桑名から大阪へ米相場遂報)」とあり、川合氏は、これを垂坂山の誤字と解釈している。「年表 四日市のあゆみ」(四日市市役所、昭和37年)の明治24年の記事に「垂坂山に旗振り始まる(桑名から大阪への米相場を知らす)」とある。田畑美穂「三重県文化史キーワード年表」(伊勢の國・松坂十景、1998年)も同じ文を掲載している。

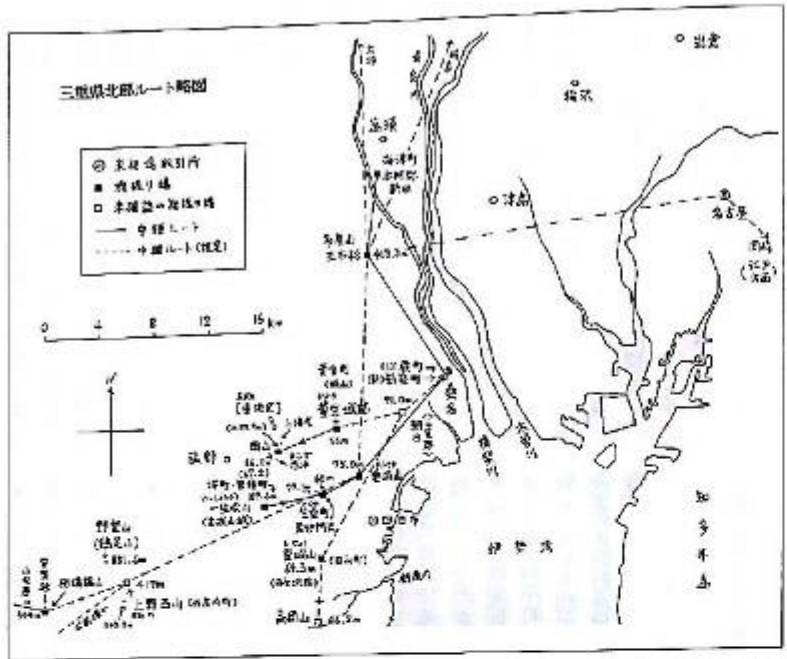
★垂坂山は羽津中学校の西の山で、標高75.0坪である。なお、ここでの旗振りは、川合氏も想定しているようにもつと以前から行われていた可能性があるが、裏付けは得られていない。ここから、桑名と上野西山方面に送信できる立地にある。

★桑名の米市場は天明4年(1784)の設立である。明治10年に設立された桑名米穀取引所の米相場は全国に重きを置かれ、天下の売買高下を左右したという(『桑名市史』昭和34年)。ここに「桑名の夕市」は有名で、他の取引所が終わった後に開かれ、桑名にしかなかったため、桑名の相場が全国の相場をゆるがしたこと

もあつたという(西羽見「桑名の歴史」1962年)。堂島の米市の影響は相当大きく評価されるが、実は桑名全市の夕市相場が下地になり、翌日の相場予想の材料となつていたという(桑名市史)。従つて、桑名発信の米相場も堂島と同様に、旗振り通信で各地に伝えられたということになる。

★桑名取引所はもと殿町にあつたが、明治27年12月29日に新築町へ移転した(川合論文や「桑名市史補遺」昭和35年、参照)。昭和6年末に解散した桑名米取引所の跡は、現在新築児童公園となつていて、市指定史跡である(西羽見「桑名歴史散歩」昭和49年)。

★桑名から三重県内近郊へのルート
 ★四日市市教育委員会文化課の清水正明氏が、20年前(1980年ごろ)に京地区下海老町の萩義道氏(前副理事長)他から聞き取つた旗振り通信の経路は次の通りである。萩さん自身も、その先輩から伝承を聞き取つたものだという。今では萩さん以外は全て故人である。これらの内容は今まで天公表とのことである(平成12年9月26日付および10月3日付の返信に



天文24年ハ林氏の築城)の出城として、鈴鹿郡の峯氏との合戦の際の拠点として築かれたものだという。一生吹山と日永城

よる)。大阪と桑名を結ぶルートとは別に設置された通信網と考えられる。

①桑名―萱生町字城山(旧萱生城跡)―上海老町岡山山頂(桑名)
 ②桑名―垂坂山―生桑町―生桑山見沙門天―桜町―生吹山(旧出城山城)―日永町字登城山(旧日永城跡)
 ③桑名―多度
 ●萱生(四日市市萱生町字城山)中継所は、春日部宗方が築いた萱生城があつた所で、標高5.5mである(現在、井戸跡だけが残る)。桑名とは途中で途切れてしまい、通信できない立地にあるので、清水氏に手元の資料を再確認してもらつたところ、桑名と萱生町の間には朝日のポイントがあつたかもしれないが、はっきりしないとのことであつた。

★朝日(三重朝日町)中継所は、舌津頭二編『白子郷土史後編』(昭和35年)に記載されている旗振りポイントである。朝日町役場に尋ねたところ、地元の郷土史家は、朝日で旗振りが行われたことは知つていたが、場所は知らないとのことであつた。筆者は、朝日丘陵の91・0m三角点ではないかと考えているが、今のところ裏付けはとれていない。

跡の立地を見ると、相互の通信は限界すれすれにあり、通信方向も不自然である。そこで、清水氏に資料を調べ直してもらつ

たが、生桑から直接日永に送信したかどうかはわからなかつたという。

●日永(四日市市)山継所は、日永町字登城山(旧日永城跡)にあり、標高64・3mである。四日市市教育委員会の東條寛氏によると、「日永ものがたり」には旗振りの記録がなく、日永郷土史研究会でも把握してはなかつたとのことである。

【桑名から岐阜・愛知へのルート】
 ●三本杉(多度町)中継所は、二重・岐阜県境の多度山頂上付近(高経神社のすぐ

●岡山(四日市市泉地区)中継所は、山頂に古蹟址があり、あがたが三丁目・上海老町の南西方向にある6.6m地点である。地形図には57・9m三角点しか見つかからないが、詳細な地図によると、そのすぐ南西にある地点に該当する。赤水町の北東方向にあつた。四日市市教育委員会文化課の東條寛氏によると「泉地区で古老から言聞いた話である」として、岡山での旗振りが伝わるという。萩さんの証言によると、岡山は旗振りの終点であつたという。標高67・2mの独立丘陵で、昭和35年から44年にかけて発掘調査が行われ、古墳時代後期から平安時代末期に至る土器の古蹟址が発見されている(中山善郎「よっかいの歴史と文化財散歩」四日市市郷土史研究会、昭和52年)。

●生桑山見沙門天(四日市市生桑町)は四日市西隣の北700mにあり、標高は約60mである。

●桜町―生吹山(旧出城山城)は四日市市智積町の南の109・6m三角点付近で、見沙門天がある。山頂付近は桜町ではなく、智積町と川島町の境に位置する。清水正明氏によると、出城山城(二生吹山城)は天文年間、佐倉城(桜町字城丸、

北、標高40.3m)である(中島◎)。「多度町史」(昭和38年)には、三本杉の山上で「鈴鹿山を通して来る大阪相場を桑名取引所の二階の窓から見張る望遠鏡に知らせ、名古屋、岐阜に送信する」とある。また、多度町教育委員会からいただいた「史跡、三本杉の相場振り」という年代不明の手書きの資料には「鈴鹿の山を通してくる大阪相場」とある。鈴鹿山といえば、通例、東海道の鈴鹿峠を指している。標高54.4mの相場振山(土山町・串山市境)は、鈴鹿峠の北東方向に位置しており、相場振山は鈴鹿山にあるものと考へて矛盾しない。文意は、泉境の相場振山を経てきた大阪相場を多度山で受けて、桑名に知らせると共に、名古屋などに送つたと受け取れる。川合論文に、桑名―多度山―生駒山―堂島というルートがあり、多度山から垂坂山あたりに連絡したのかもしれないが、裏付けはとれていない。基本的に「相場振山―上野西山―垂坂山―桑名」と伝達されたが、垂坂山・桑名・多度山は通信方向に応じて相互に連絡しあつたものと考えるのが現実的であろう。

●川合論文によると、「尾張の遺跡と遺

物語時号一(名古屋郷土研究会、昭和15年7月刊)に大山山身の歌人斎藤三郎氏の多度の旗振りの文があり、岐阜・大垣・岡崎へも連絡していたという。また、八面山(愛知県西尾市東部)の旗振り信号は、天候不良の場合は不確実を条件として、米相場場の精算勘定に入ったとこのこと、これを霞付相場と称したという。なお、掲載雑誌「尾張の遺跡と遺物」は戦時中にガリ版印刷で発行されたもので、復刻版(上中下3冊、昭和56、57年)が活字新組みで出版されている。残念なことに、この臨時号の原本は、愛知県図書館の調査によると、愛知県下の図書館(大学関係を含む)には一冊も所蔵されていない。復刻に際しては、名古屋市鶴舞中央図書館と春日井市図書館所蔵の原本が用いられたが、臨時号は収録されていない。春日井市図書館の所蔵原本の中に、12号から23号の総目次があり、臨時号は全て斎藤氏の執筆で、「愛宕山」旗信號「河川原如文化」が該当の論文であろう(タイトルで、「如」は誤記であり、「始」が正しいものと思われる)。となたか所持されていたら、筆者まで連絡いただければ幸いです。

戸への通信を示す注目すべき記事が見られる。

「旗振り通信は、速さでは飛脚の比ではない。(中略)江戸へは、途中の箱根越えが地形の関係から飛脚方式になるため、八時間。それでも、かつての東海道線特急「つばめ」の速さだ。」

★これは驚くべきことである。箱根越え以外は、江戸まで延々と旗振り通信ルートが設けられていたというのである。島実蔵「大坂堂島米会所物語」(時事通信社、1994年)に「江戸まで普通の飛脚で七日、早飛脚でも三日かかるのが、たった一日で届くといわれた」(188頁)とあるのはどうやら事実に基づくものの上である。ただし、神戸新聞の記事が何を根拠にしたものかは不明である。★本誌57号(旗振り通信の研究①)の記事をまとめた時点では、岡崎市より東での旗振り伝承は確認できていなかった。ところが、通信総合博物館(ていばく)岡崎の垂見氏からの平成13年4月9日付返信で、「通信総合誌」大正3年2月号(通信総合誌)の二六―二七頁に掲載された「相場通信に利用された旗振信號の沿革」という記事(元大坂堂島米会所下

★岡崎市教育委員会に旗振りについての資料がないか尋ねてみたが、戦中に図書館が焼けてしまい、資料があまり残っていないとのこと不明であった。

★川合清文で、杉山氏が古老から聞いたものとして、桑名―多度―高須―岩倉―名古屋へ、というルートがあり、平岡氏が古老から聞いたものとして、桑名―多度―大垣へ、というルートがある。高須は岐阜県海津町高須、岩倉は愛知県岩倉市のことらしい。多度山からは、高須、名古屋市、岐阜市、大垣市の各方面へ送信したわけである。ただし、途中に中継地点があったかどうかは不明である。

●海洋町歴史民俗資料館の原田昭二氏によると、海洋町本阿弥新田の大地主、佐野家(慶安年間)に新田開墾をした、京都木町弥家の佐野結益(後裔)では、多度山頂から旗振りで示された桑名の米相場を見て米の売買を旗振りで指示したという伝承が残っているとのことである。ただし、岩倉、名古屋方面への伝達についてはよくわからないという。

★「江戸方面へのルート」
★旗振り通信が大変便利なものであること

松之助によるもの)の写しを入手することができた。この記事には、旗信号通信の行われた取引所の場所が列挙してあり、その又城の広さを知ることができる。

「又た地方への旗信號通信は安政六年頃より専ら各所に行はれ來り、今其箇所を舉ぐれば左の如し、東は静岡、濱松、岡崎、豊橋、名古屋、桑名、四日市、津松取、山田、岐阜、大垣、長濱、彦根、水口、大津、伏見、京都、大和高田、堺和歌山。」

西は尼ヶ崎、伊丹、西ノ宮、灘、御影、神戸、兵庫、三田、須磨、明石、岩屋、洲本、市村、福良、撫養、徳島、姫路、曾根、網干、岡山、倉敷、津山、玉島、尾之道。

右は互に中継して遠方に傳達したるものにして、その區域は廣大なり。」

この記事から、静岡、浜松においても、旗振り通信が行われたことが判明するのである。大正3年当時であれば、旗振り場の具体的な地点を知ることは容易であったことであろうが、そういう資料が記事に載せられていないのは残念なことである。なお、垂見氏からは、通信博物館には、「旗振信號の沿革及仕方」(大坂市役

とから考えると、川合清文が述べているように、「米の大消費地である江戸にこの通信があったのか」という素朴な疑問をだれしも抱くであろう。川合氏はその解答を得られなかったようである。

★四羽兎「桑名歴史散歩」(昭和49年)には次のような記述が見られる。

「(桑名の)相場信託は手旗信号によって、多度山へ送られ、中継されて、名古屋、大垣、江戸、大阪、馬関(今岡)へリレー式に伝えられました。」

つまり、江戸方面への通信が行われたことが示されているのである。この内容の出版を西羽氏(三重郷土会・会員、桑名市徳成町)に問い合わせたところ、「昔に桑名に在住の古老からの聞き取りによるものです。(中略)その古老も今は故人となられています。」「江戸」という点も不明です。川合隆治氏とも重畳がありました。氏は永らく電話局に勤務されていた関係から「旗振り通信」に興味があり、調べておられました。この方もすでに故人となっておられます。」とのことであった(平成10年4月1日付返信による)。

★昭和55年5月27日付の神戸新聞の記事(兵庫探検秘集「旗振山」)の中にも、江

所調査ノ分、大坂商業会議所調査ノ分、が所蔵されていること、旗振りの模倣(通稱「善七」通信)近藤出版社、昭和61年、42頁の写真)は以前の常設展示場のもので、現在は展示されていないこと、「日本交通図説」の旗振りの絵の資料、「近畿における情報伝達の歴史的發展」その五「旗振り」を所載していることを教示いただいた。

★静岡県東における旗振り通信に関する伝承については現在、調査を進めているところであるが、東海道に沿う地域に何らかの言い伝えが残っている可能性はある。もし、名古屋から江戸方面へ至る、旗振りルートについての情報をお持ちであれば、筆者までご教示いただければ幸いです(連絡先は本誌57号参照)。また、「尾張の遺跡と遺物臨時号」や旗振り場についての情報もお寄せいただきたいと思います。

(平成13年4月16日成稿)

1等三角点峰（500m以上）548座完登の記録（第26回）

新たな協力者を得て日高の難峰登頂

坂井久光

平成4年4月20日、タクシーで帯広岳の登山口へ。運転手は道に迷い、ダム建設地に行つて引き返したりして時間と金を浪費した。ようやく登山口に着き、牧場に荷物を預けてから林道分岐点の橋で下車した。左の林道をたどって植林帯を登り、残雪の稜線沿いのブル道を登りつめてササ原の稜線に出た。一峰に登りコルにくだつてひと休。エゾ松林を登ってシクナゲの茂る山頂直下から帯広岳（1089m）の頂上へ着いた。積雪50cm位あった。南に十勝幌尻岳や札内岳が白銀に輝き、遠く日高の山嶺も霞んで見えた。しばらく休憩をとり往路を下山した。林道の道端にはフクジュソウが数株黄金

色の花を咲かせていた。牧場に戻ってパスの時間を訊くと、スクールバスが近くの三叉路まで来るがまだ間に合うとのこと。お礼をして行ってみると、東から小型バスが来た。客は一人だけ。伏美まで行くが、その先は連絡がないとのこと。旅館はないかと訊くと、4ヶ先に町営国民宿舎「嵐山荘」がある。これで勤務が終わるからそこまで送ってあげようと、まったく親切な町の職員だった。嵐山荘は立派なホテル並みの建物で、スキー場の隣にあり、全館暖房で料理や風呂も良かった。ゆっくりと休養できた。

21日、送迎バスで芽室駅まで送られてきた。JRで帯広から池田に行き、銀河高原鉄道経
山北見で乗り換え、次いで網走で乗り換え、斜里で下車した。タクシード降浜
遠く 鶴平山を望む
休養センター
へ向かった。
かねて電話しておいたので所長の斎藤夫妻が出迎えてくれ、久瀬のあいさつもそこそこに部屋に落ち着き、さっそく温泉へ入った。
22日は雨で停泊。翌23日は朝から吹雪。予約客のため降浜の民宿「落陽」に転宿した。
24日、晴れたが予報は午後から雨か雪。早目に宿の車で鶴尻右川の海別岳登山口の橋まで送ってもらった。その先は残雪で不通。長い林道を歩いて昨夏のブル道分岐へ出て、ひと休した。やぶも残雪の下でハイマツの尾根までわりあい早く行けた。しかし、ダケカンバの林に出たころから風が強くなり、主稜線上に出ると体が飛ばされそうになった。ステップを



切つて一歩一歩登りハイマツが顔を出すやせ尾根を登りつめ、山頂のピークが間近に見えるコルの上まで来たが、風が強くて前に進めない。時間も12時を回り思ったより時間がかかったので撤退することにした。昨夏といひ今回といひ、二度の挫折に残念だが、宿の人が心配しているのと万一の場合、人が迷惑がかかるのを考慮して、来春再度挑戦して回帰を請らす覚悟で往路を下山した。途中で足跡が消えたが見当をつけて川岸の山小屋に出て、小山をトラバースしてから林道に出た。朝の橋近くは下山すると、トラックが来て運よくヒッチででき、民宿に戻った。荷物を受け取り斜里駅まで送ってもらった。JRで摩周湖へ行き駅前の旅館で泊まった。昨夏も来たので主人は覚えており、話がはずんだ。

25日、きょうも朝から小雨。雨が上がるのを待つてタクシード奥登別の喫茶店へ。辺計礼山に登るためだ。運転手の話では、経営上が右腕に頼れず辞職して入院中とか。店は休業中で隣の店主宅に行き、荷を預けて北の牧場へ行って道を訊ねた。横断道へ出て左手山への分岐に標識がありそこが登山口だった。先へ進ん

だ分岐で迷い、エゾ鹿に二頭出合ったが鹿だけで熊の足跡はなかった。奥に進んで小谷をつめ被線へ。踏み跡がありササも低く歩きやすかった。やがて下からジグザグに上がってくる地図の登山道と合し、そのジグザグ道を登って被線に出て前峰へ。ここから残雪が多くなり、粉吹雪になった。一登りで標の跡が残る辺計礼山（732m）の山頂に立った。これで五〇一座目だ。写真を撮り、風を避けて昼食休憩後、一路登山道をたどって下山した。林道に出るとエゾ松に標識があった。小さく見逃してしまったようだ。奥登別の店主宅に行き荷を受け取りバスを持った。その間、雨や吹雪を避けて電話ボックスに入っていたが、車が来て電話をかけた来た人から事情を聞かれたのでわけを話すと、帯広に帰る途中とかで駅まで送ってもらった。天候不順でゴールデンライクも近いので、JRで小樽に行きフェリーで帰った。

かねて約束していた北海道への山旅に行つた。京都山の会副会長の山崎大造氏と、久馬・下村さんの4人で、フェリーで出発した。

7月2日小樽に上陸。山崎氏の愛車パジェロは快調に走り、6時30分に日高町振内に到着した。振内管内林道を訪れ、振内山岳会長元紀宅を尋ね、鶴平山の登路や林道の様子について林班図をもらった。付近のスーパーマーケットでパンを買って朝食にして出発した。8時50分、メウシナイ川の橋平橋の手前の林道を走り終点で駐車。「点の記」の登路を探すが十年前の刈り込みはやぶになってその痕跡もない。仕方なく谷筋の踏み跡をたどっていると、反対の西側に刈り込みが続く。支谷の急斜面を登った。尾根筋も道跡が続いており、何とか登れそうだとやぶ道をたどった。

ハイマツの生えた稜線からはその道跡も消え、悪条件が続く。三つ程のコブを流れる汗をものともせずやぶと鶴平山（1350m）の山頂1等点に登頂した。14時37分で約5時間のアルバイト。一同感激の万歳三唱。

やぶと日高の難峰に登頂。今まで登山者の記録のない山であった。快晴で展望絶景。幌尻岳や日高の山々が一望できた。時間が遅いので山崎氏の決断で谷筋をくだることにした。ハイマツの林をくだる

と、チシマザサと灌木、イタドリやフキなどのやぶを漕いで次第に水を増す谷を高捲いたり徒歩したりして、約2時間半で駐車地へ戻った。その夜は民宿「十二」に泊まり、汗を流してやっと人心地がたった。

3日、雨だったが、梶尻岳(2千3百)の百名山へ。11時20分から13時まで林道のチエーン前の駐車場で昼食休憩。そこから取水池までの長い林道を歩いた。そこから細平川の廻りとなって、2は右岸沿いの山道だったが、それからは徒歩の連続で、十八回で夕刻梶尻山荘に着いた。ストーブを炊いて濡れた衣類を干かし、遅い夕食をとって、シヨラフにもぐった。

4日、雨は止んだがガスで曇天だ。4時15分出発。命の泉で小休止。7時45分に日高最高峰、梶尻岳(2052)に登頂。感激の万歳三唱。ガスで展望なし。途中雪渓のトラバースがあった。シラネアオイの紫の美しい花が咲いており、初めてのは喜んでみた。下山は戸高別荘経由、10時に分岐。10時23分山荘着。12時15分から37分取水口。14時13分にゲートに着いた。その晩は二返谷の平取温泉で

汗を流し、焼肉料理を食べて泊まった。5日、早朝出発。平取町から富川町經由門別町から海岸道路を走り、厚賀・静内町からベラリ山をめざした。しかし、警路がやぶであきらめて、ウドやタラノメを採って土産とした。三石町を抜け浦川町白根から左折し国道236号線に入った。上着白でメナシエンベツ川林道に入り、栗吉山荘に行き泊まった。

6日、ダニの多い山道を登り栗吉岳に登頂。西側からは初めてであった。良い道でハクサンチドリが咲いていた。エンフウロやシオガマも咲いていた。快晴で山頂からは日高の山々が一望できた。ゆっくり休んで往路下山。林道終点からアボイ岳麓の農業者センターに行き泊まった。

7日、高山植物の豊庫アボイ岳に再登。今回は快晴でアボイアツマギク始め、アボイスマイレ・マンテマ・ミセバヤ・ハクナンチドリ・シラネアオイが咲いていた。また、日高の山々が一望できた。林道ではゼビク(フリワツキ)がたくさん咲いていた。往路を下山して冬島海岸に行き、昆布や蟹獲りに興じた。海岸沿いに走り苦小牧から高遠道路に入り札幌16時40分

着。3人と別れ、夕食後旭川に行き旅館で一泊。

8日、8時に旭川インターで山形氏と会う約束なのでバスとタクシーで現地へ。山形氏は先に来ており久瀬のあいさつもそこそこ概略を話し、上川に車を走らせ、安足山(851)へ案内した。愛山溪の道路から当麻鍾乳洞への林道分岐の鐘場で駐車。昨年5月に登った記憶をたどるも、あまりの景色の変化にただ驚くばかり。緑一色のなかにエソエンゴサクの青紫色の群落が美しい。地図を頼りに山頂に向かうが、谷沿いの林道はフキや草が茂っていた。どんどんつめると昨年私の登った林道と合した。谷の西側に林道が尾根筋へ上がった。ササにおおわれた麓道化したブル道をたどり山頂へ着いた。三角点付近は小広く礫石に割風柱が立っていた。2人で万歳三唱。往路を下山した。

回鑿峠から石北峠を越え、厚和を過ぎて国道39号線から242号線に入って丸瀬布町へ走り、武利岳に向かった。(次号へつづく)

(文中の大字は今回初めて登った三角点の山を示す。)

初瀬谷と宇陀の盆地を分ける山 笠間の高山(嶽山)と狛峠越え

コースとコースタイム 近鉄橿原駅(1時間)→東宝神社(25分)→
③笠間高山(35分)→命懸け門前院・福徳寺(30分)→命懸け峠(40分)→
①の福徳寺(1時間)→近鉄長谷駅

中村 敏文

① 桜実神社(橿原町笠間(東宝町内))
近鉄橿原駅から大宇陀町へのバス道を歩き、桜実で国道198号の笠間街道に入ると、安田の深山神社が右手にあって約1時間笠間の氏神桜実神社前に着く。石段を登ると小丘陵の先端に春日造の三社殿が並立し、その左右に境内社四社がある。春日造の中央の社が大宮能売命を祭祀する桜実神社で、左側の社は素戔嗚命神社、左側は国水女神をまつる水分神社である。

大宮能売命は宮中神祇官の御座祭神八座の一つで大歳祭祝詞に「御座に邪気なく延命に過らなからしめん神」とある。また、「君臣の間を和らげ、神と人の間

を執り持つ神」とある。明治十二年の神社明細帳には式内社比定とみえるが、その後、莒野町佐倉の木花咲耶姫をまつる桜実神社が式内社に比定される。

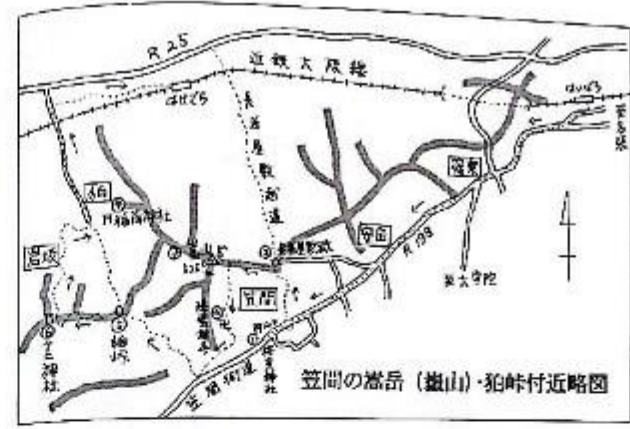
② 長者屋敷跡(笠間・東宝南北山中)
桜実神社から東笠間の最高所の家まで上がり笠間藤地への道を伝い、墓地から勾配のきつい山道を登ると長者屋敷へ近い。今回のコースは吉野・松山方面から長谷寺への最短ルートであった長者屋敷越え道に入る。
桜実神社前の少し東に道標があるので登山口はわかりやすく、ほぼ北へ北へとゆるい勾配の一本道で登りやすい。最近

開発された安田からの林道終点と出合うと、荒れた平坦地に小祠がある。峠間近の小祠付近の区切られた平地が葦丸長者屋敷跡といわれる。伝承を要約すると、長者屋敷を熱心に信仰していた貧乏な若者が、七昼夜の長谷寺参詣を終えての帰り道、高山の長井坂で壺を見つけ困り出すと壺一杯に黄金が詰まっていた。一瞬大金持ちとなった若者は、この参詣道に大きな屋敷を構え葦丸長者と呼ばれていたが、信仰を怠った二代目で跡継ぎが絶え、葦丸家は途絶え屋敷も消滅したといわれる。

屋敷跡のすぐ上手の草むらに地蔵がまつられ峠に双休地蔵が置かれている。
③ 高山(嶽山)(笠間・狛・初瀬)
峠から西へ向かう高山への尾根道は、勾配のゆるい樹木の茂ける狭い道であったが、NHKが安田の林道から山頂まで道幅を広げ、工事道を付設したので20分で山頂へ行ける。515・516の2等三角点の西側には山をならしてNHK放送塔と宇陀放送中継所が建っている。植林が成長して展望はよくないが、建物付近は数十年前は休憩できる草地である。

嵩山は大部分は中腹以下は杉、尾根や山頂付近は檜が植林され、尾根の南側には常緑の多様な灌木が繁茂している。

国土地理院地形図に山名はなく、桜井市史に「嵩山(笠間山)」とあるが、笠間街道から山頂が見え隠れする連山を土地では笠間山と呼ぶ。初瀬街道からは円難



陽雲禪寺
山頂付近が不鮮明なので、笠間山麓の西側への細い山坂道を

形の大きな山容が迫り、樹山または城山と呼んでいる。嵩山の当て字は知る人が少なく、初瀬上之郷の笠山を想像すると思う。笠間街道の人は笠間山、初瀬街道の人は樹山か笠間の山と言えは通じる。現在は笠間からの登山道は利用できるが、初瀬からの道は荒れ放題で、山頂や尾根筋にも城跡や神社跡らしいものは見当たらない。

④ 新陽明門院笠間山麓・陽雲禪寺

山頂から作業道を少し引き返し、右側(南)へ鋭角に分岐する山道へ入る。陽雲禪寺東側への道は山頂付近が不鮮明なので、笠間山麓の西側への細い山坂道を

西笠間集落の最高所にある笠間山麓は後村上天皇の中宮、新陽明門院源頼子の御陵である。正平十四年(1339)に陽雲禪寺で逝去し裏山に埋葬されたとい

初善蓮坐像を本尊とする曹洞宗寺院で、伝承では平安時代の創建で長谷寺・妙葉寺と双肩する古刹といわれる。堀川・後白河天皇の勅願寺として塔頭七坊をもったとも伝わる。南北朝時代に新陽明門院が当寺の堂上庵に隣居していたという。当地は北島(巻)親房の領地で頼朝子が隠棲したのは理解できるが、南朝が敗退すると当寺も漸次荒廃していった。一説では後醍醐天皇が勅願寺として寺号を与え、大般若経全巻を献したともいう。現在は本堂に平安時代作の弥勒菩薩のほかに不動明王・毘沙門天を安置し、山門下の納骨堂に鎌倉期作の地蔵をまつ。堂裏の墓地には室町時代の五輪塔数基と慶長十年銘の一石五輪塔などがある。

風嵐山陽雲禪寺は御陵の東下にある弥

笠間と安田は、昭和二十九年の機原町編入までは磯城郡朝倉村の大字で、昭和四十四年に機原町へ境界変更した角柄・柳も、以前は磯城郡初瀬村であった。笠

ら狛の集落まで1.5余りの下りだが、石ころ混じりの歩きにくい沢下りが半分、峠から10分程で狛の集落が見え、左へ分岐する岩坂への山麓道がある。

上岩坂から下岩坂への車道もあるが、狛へ向かって車道をくだり、山城のような石垣上の家の下を運って山麓へ上ると、石鳥居があつて春日若輪皮葺のきれいな朱塗りの本殿がある。宇賀御魂神をまつる狛の村社で永正四年(1507)に狛山城守がこの地へ転封して以来の鎮座という。

⑥ 十二神社(狛井市岩坂(釜垣内))

狛への道をくだれば、上岩坂へは800坪の坂道を上がることになるので、林道状の山麓道を伝う。やがて上岩坂の最高所へ出る。岩坂山麓には岩坂の氏神十二神社が神社森に鎮座する。

入母屋造の拝殿前には楕円形の神座石は氏子の古図を占った右といわれる。本殿の棟札は慶長十七年(1612)をはじめ江戸時代のものも多く、100坪西の軍持山長福寺(狛ヶ堂の後)は稲荷明神の神宮寺で豊山派の長谷寺の末寺である。

切妻造瓦葺の拝殿の奥に杉の大木と狛犬を隔て、玉垣で囲まれて東面する春日造檜皮葺の本殿がある。国常立命以下の天祖七代、地祖五代の十二柱をまつる。

切妻造瓦葺の本堂は西端に二間四方の観音堂がつけられ、平安後期作の十一面観音と阿彌陀如来像を安置している。

上岩坂と樹山山麓の狛の集落を見下ろす境内には泊瀬明倉宮跡の岩板がある。雄略天皇の明倉宮は脇本の春日神社付近の遺跡が一般的に伝承地で、耕地の少ない溪谷集落の地は宮跡には似つかわしくない。境内に残る井戸は「大和志」に記載された秀泉岩板の井で、現在も流れていない。近くの大師堂は神宮寺の一部で、平安期作の大日如父と観音菩薩をまつり、境内には天文二十年銘の六三三石号碑が

狛から狛川沿いにくたり、近鉄線をくぐると桜井東中學校へ出る。初瀬川を渡り旧初瀬街道を東へ歩き、ガソリンスタンド前から右へ分岐して上がると近鉄長谷寺駅へ着く。



狛井市岩坂より樹山を仰ぐ
山道も利用者が少ないので、狭くなつた。15分も登れば見晴らしのよい時に着く。

間は古くから開かれた土地で、押坂(忍坂)直が支配したとか、奈良時代は押坂忌寸が笠間郷に定住したとの文献もある。笠間庄の時代は興福寺と多武峯寺が領主となつている。古くは宇陀郡でその後は式上郡に属し、明治以降に磯城郡域となつている。

明治に入り安田・笠間は明倉村となり、朝倉小学校分校への通学や、役場などへの行き来が狛峠越えとなつて難儀した。

天険の地・笠置山を訪ねて

松永恵一

楠木正成の登場

元弘元年（1331）、鎌倉討幕の密謀は露見した。後醍醐天皇は、8月24日夜都を脱出、山城和束の鷲峰山金胎寺を経て、27日笠置寺に舞を逃れた。本堂を修行所とし、兵を募った。馳せ参じたのは近国のわずかの兵と寺の衆徒ばかり。勇名高い武士、百騎・二百騎の手勢を引連れられた武将は一人もいなかった。大義名分をふりかざし、理想に燃えて倒幕の旗を掲げてはみたが、予想は次々とはずれていった。頼みとした叡山は、一度は六波羅と戦ったものの腰砕けとなり、東大寺はみこしをあげなかった。

「太平記」は伝える。とても身辺の警固はおぼつかぬと不安になられた帝は、

まどろみに陥り夢をこらんになられた。

場所は紫宸殿の庭先。大きな笠置木があり、緑の葉が濃く生い茂り、南へのびた枝が勢いよく育っていた。木の下には大臣・朝臣が着座しているが、南にさらえられた上座に人はいない。童子ふたりが忽然と現れ、「この国中に、つかの間もやすらかに御身を隠されることのできる場所はございません。あの木の陰の南に向けた御座は、あなたのためにしつらえた玉座ですから、しばらくここにいらしていただく」と言って、天高く昇っていった。

目覚められた帝は、木に南は「楠」、その木陰で天下を眺く、という意味である。この夢をお解きになった。成就房

仏座大勢



律師を召して、「この辺に楠と名乗る武士やある」とお尋ねになった。「河内国金剛山の西にこそ、楠多門、兵衛正成とて、弓矢取て名を得たる者は候なれ」と、お答え申し上げた。楠木正成は召し出された。正成は大いに畏まって、「この正成ひとりはまだ生きていますとお聞きくださいましたら、帝の御運は必ず最後には開けるものとお考えください」と、聞くも頼もしげに言い放った。

笠置寺開創の故事

「今昔物語集」巻第十一 第三十話。

天智天皇の皇子、大友皇子は漢詩文と狩猟を好んだ。ある日、山城国相楽郡賀茂郷の東の山を鹿について馳せ登った。鹿は東を指して逃げる。皇子は鹿の尻について馳せ、鹿を踏ん張り弓を引くと鹿は忽然として消えた。山頂の岩の端まで追いつめられた鹿は、谷底に落ちたのだった。皇子の馬はさし出た鹿の端に立ち、身動きできなかつた。鹿の下は通かなる谷。谷底も見えない。危く眼下の谷底に落ちそうになった時、皇子は瞑目して祈った。「山神等わが命を助けたまへ。さらばこの鹿のそばに弥勒の像を刻みたまへ」と。馬は尻から退いて広い場所につらむと。馬は尻から退いて広い場所に立った。皇子は馬より降り、泣く泣く伏し拝み、笠を脱いで置いて帰った。

一兩日後、皇子は笠を訪ねてやって来た。見上げれば、目も及ばず笠を見る如し。弥勒の像を彫ろうとするが力及ばない。天人があわれんで助け、巖の上に弥勒の像を輝やかに彫りあげた。皇子は恭しく敬い礼拝した。後、笠置寺と呼ばれるようになり、東大寺開山の良弁僧止が伽藍を建造したと伝える。

寺は笠置

奇岩・巖がそそり立つ笠置山は、弥勒菩薩像を中心として一大修行場として栄えた。「帝王編年記」は、天智天皇三年条に「天人降り笠置ノ石像弥勒尊造ル」と伝え、清少納言は「寺は笠置」と「枕草子」に記した。

弘仁九年（816）、この地に杖を引いた弘法大師は弥勒仏の威容に感銘し、虚空蔵菩薩を雕刻された。昌泰元年（898）には醍醐天皇が参詣された。平安末期からは弥勒信仰の中心霊場となり、大座原は天人彫刻の仏として非常な信仰を集めた。寛治四年（1090）8月には藤原道長が詣でた。後白河法皇は弥勒仏を拝し、三日間留置されている。藤原俊成は「大木抄」に残した。

五月雨は水上まさる泉川

笠置の山も雲隠れつつ

大治五年（1130）4月、火災で焼け、のち解説上人貞盛が再興。貞慶は旧仏教復興運動に大きな影響を与えた人。笠置山が全盛を極めた時であった。元弘元年9月の笠置攻めで金山焚亡。明治九年、丈和和尚は狐狸の住む荒寺に住して、笠置寺の復興に尺し今日の姿となった。

笠置の合戦

元弘元年9月、笠置寺は城となった。「彼笠置ノ城ト申ハ、山高シテ一片ノ白雲峯ヲ理ミ、谷深シテ萬仞ノ青石路ヲ進ル。攀折ナル道ヲ廻テ揚ル申十八町、岩ヲ切テ掘トシ石ヲ壘テ扉トセリ」と「太平記」は記した。

天皇方は大和・河内・伊賀・伊勢などの武士約三千。幕府軍は七万五千の軍勢を宇治の平等院で西軍に分け、さらに鎌倉からは大仏貞直・足利尊氏らを得とした二十万余騎の大軍を西上させつつあった。9月3日午前6時、幕府軍は「百千の雷の鳴り落ちるがごとく」攻め寄せた。28日、備中の住人駒山義高と小見山次郎が一族郎党を従えて、太刀を背中に負い、折からの風雨をつき、北側の数百丈の屏風のような岩壁をよじ登り、城内に火を放った。山上は大混乱に陥り、鎧を脱ぎ捨て、弓矢を捨てて、あわてふためいて逃げ出した。後醍醐天皇も徒跣で逃げ落ちた。三日三晩歩き続け、道に迷った末捕えられ、京都に護送された。

さして行く笠置の山を出でしより

あめが下には隠れ家もなし



虚空蔵摩崖仏

コース概観

笠置山は京都府の南の端、奈良との県境木津川の畔にそびえる標高2894mの高さで高くない笠をふせたような形の山。元弘の乱、日露戦争の巡洋艦、第二次大戦の未完の空母に名を残した笠置。いま笠置の歴史は冷えて切っている。歴史名所の山は沈黙し何も語ろうとはしない。響いてくるのは無言の石のシンフォニー。のんびりと歩いてみた。



笠置山付近略図

高さ1241m、幅771m。断崖絶壁に立つ。二重円光を背に宝冠華文の宝冠をつけた見事な尊像が、華麗な葺上の蓮華に坐す姿が線刻になっている。
石と石との間を体を横にしてすり抜ける胎内くぐり。太鼓石、ゆるぎ岩、平等岩と坂を登る。ばあっと視界が開ける。真下に関西線、右手の上方に木津川の清流が眼の中に飛び込んでくる。S字状にくねる流れの向こうは伊賀に連なる山並。少し上の二の丸跡と並んで、このあたり

JR関西本線笠置駅下車。改札を出ると、等身大の武者人形が元弘の合戦の一場面を再現している。

駅前の道を左に進む。真正面に見える笠をふせたような形の山が笠置山。大手橋を渡ると道は柳生街道に突き当たる。右に曲って進むとすぐ左側に登山口のアーチ。笠置山自然公園の入口。笠置寺、行在所跡は頂上行近にある。アーチをくぐってまっすぐの坂道(旧道)を登る。急な坂道に息は苦しくなり、汗が目に入る。道の両側に残る松の古木が往古を想はせる。八合目の料理旅館・紅葉屋のあたりで新道と交差する。このあたりが「一の木戸」跡。寄手手の幕府軍が岩を伝ってのぼり、城中を見上げると鎧の御旗に金銀の日月を打ち付け、白日に光り輝く蔭に、鎧を着た武士が隙なく三千余人。甲の星を輝かせ、鎧の袖をつらねて並んでいた場所。

三河の国の伴人足助重範は、先を争って来る寄せ手に向かって三人張りの弓を引き絞る。荒尾九郎とその弟弥五郎を即座に射殺している。奈良の般若寺から経巻を持ってやって来た本性房という大力の僧が、あたりに転がっている大石

を軽々と敵に向かって投げつける。下は地獄谷。

笠置寺。ひっそりと静まりかえっている。鐘楼には解脫鐘(重要文化財)がある。基礎欄が六葉を形どった、日本に一つしかないめづらしい形のもの。中国の形式を模したもので、東大寺の俊乗坊重源が大仏再建の翌年、建久七年(1196)に寄進したもの。東大寺とのつながりは、実忠和尚が笠置山の龍穴で菩薩たちの行法を見て、そのすばらしさに打たれた天平勝宝二年(751)にさかのぼる。大仏開眼の前年のことであった。

正月堂の左横の巨岩が弥勒大磨崖仏。笠置寺の本尊であるが、元弘の兵火にかけり変形に彫りくぼめた光背のほか何も見えない。もとは弥勒仏が刻まれていたという。高さ154m、幅131m。人々の信仰を集めた巨大な石塊は、のしかかるようにそそり立っている。

正月堂の左手前に十三重塔(重要文化財)がある。鎌倉期のもので解脫上人が母の供養のために建てたものとも、元弘の戦いの死者の供養塔とも伝える。

正月堂の前を右におりる。弘法大師が彫ったという虚空蔵磨崖仏の前に出る。

に川面を下っている。

笠置山や周辺のハイキングはもちろん、木津川河川敷でのキャンプ・バーベキュー・カヌー・船りにぜひとも立ち寄りたいのが、笠置駅前わかさぎ温泉「笠置いこいの館」。時間の限りゆっくり遊ばせていこう。

▲コースタイム▼

JR笠置駅(2分)わかさぎ温泉「笠置いこいの館」(5分)笠置登山口(30分)笠置寺・行場めぐり(40分)

▲地形図▼

2万5千1:1笠置山
▲費用▼
JR大阪駅→笠置駅 1110円
JR京都駅→笠置駅 620円

▲問い合わせ先▼

笠置寺 0743(95)2848
一般300円 中学生100円
笠置町観光協会 0743(95)2159
わかさぎ温泉「笠置いこいの館」
0743(95)2892

一般1000円 小学生500円
笠置キャンプ場 0743(95)2301

笠置はほんとうに小さな町である。その小さな町に見所や楽しみがいっぱい詰まっている。木津川でのキャンプやバーベキュー。清流が気持ちよい。河川敷を伊賀上野方面に歩くと、川沿いに散乱する大きな岩や石。春分の日から11月末までの土・日祝日はカヌーをする人たちが賑わう。笠置大橋下の大瀬を清流を浴びながら下り、カヌーの醍醐味を満喫。緩やかな流れを眺め、かわせみなどといこし。

〈山のレポート〉 山名の固定について(下)

西尾 寿一

今回は、地名(山名)が定かでない、しかも複数以上の名称が乱立し混乱している場合、いかに対処するかについて小生なりに考えてみたい。また混沌たる状態のなかで、どのような方策がとり得るかにについて述べてみる。

まず、過去から現在まで流通している名称の全てを集め、初出から順番に並べてみる。そのうえで、明らかに間違っただ名称や誤字・あて字のものを除外し、初出のものと現在いちばん流通している名称を抜き出す。

さらに文献から得た名称は出典を明らかにし、自ら採名したものは、聞き取った場所・人物などを記録する。これはその名称の出所を明らかにする最も重要な作業で、地名の戸籍謄本のようなものである。

地名の出典や採名の地に片寄りがあ

てしまうという落とし穴におちてしまうことである。

地名は一つにあらざであり、例えばエペレストの北面ルートに登る際にとつて「サガルマタ」でも「エペレスト」でも都合が悪くなるはずで、ここは「チョモランマ」一筋でゆかねばならない。しかし、われわれは三者の地名がそれぞれ正解であることを知っている。

特に読み方の違いや漢字表記の違いなどを一本化しようと無理な統合作業を行うことにでもなれば、正確な地名を得られないばかりか、消された一方からは強い批判を受けることにもなりかねない。ここは慎重になる必要があるのである。場合によっては二者並列の場合もあり得ようし、それが困難な場合にはその理由を記述しておくのが適切である。

さて、いよいよ選定と結論を導き出すときである。先にも述べたが、これが最も苦勞を伴う作業なのである。

机上には、初出のものといちばん流通したものがある。さらに自分が採名したものと、文献の有力なものがついている。

ほかに有力と思われる、地方の採名が行われない場合は不完全なので、穴埋めのための採名活動をする。地名出典に片寄りがあつた場合にはその地名の安定度が著しく低くなり、将来改変される危険を伴うからである。万全を期すなら充分な調査をしておくべきだ。

また、文献のみの場合も実地調査が望ましい。時代の経過が著しい場合には不可能の場合も多いので、むずかしい問題である。

地名は現地のもので中央的なものがあつり、両者を区別しておく。どっちかが優っている場合、以前は中央(役場など行政機関を指す)的なものに信用が置かれ、現地は無視される傾向があつたが、一概には判定できないのである。むしろ現在では、現地のものに信をおくほうが適切なこともあつるので注意が必要である。中央は広域に、地方は局地的なものに強いので気をつける。

要は、権威の力に頼らず影響されない態度が求められるのである。

偉い人(地位のある人)や地名学者の使う地名も必ずしも正確とはいえない。特

これをまばくのである。ここでは四点左右それぞれの立場を代表する名称群をあげたが、たぶん普通からみれば、いちばん流通しているものと文献のものが同一の場合が多い。さらに特定の名称が流通していれば自分で新たに採名はしないだろうから、おそらく初出のものも最も強力な支那材料をもつて流通している名称との二者の比較ということになりそうだ。

地名の場合、初出のものは最も尊重されるが、古い名称がそのまま現在も使われているのはまれである。その地名に力のある場合は年月の消耗に耐えてなお生き残つてゆくが、ごく地方的な名称はその限りではなく、幾度も変転していく運命にある。そのあたりを見抜く眼力・洞察力を必要とする場面である。

現在流通している地名のほうは、一般的には何の疑いもなく受け入れられているが、多少問題が残る場合もある。

例えば、ある時代に初出の地名が使われていたのに、誤つて特定の文献に記載されたら、役所の記録に載つたりした場合にはそのまま流通してしまう。原本が改められない限り、その地名は年月を経たていよいよ本物として信頼を培っていく

定の色に染まらない態度が求められ、広い幅から採集することが望ましい。

何もない(無名)の場合は、新たに採名の努力をすべきて、むやみに勝手な名前を付けないようにする。無名の山や谷に出合い、しかもその山谷が登山ルートとして有益な場合、登山者は採名の労を惜しみ、勝手な名前を残す場合がある。

これはあとで混乱のもとになるので極力避け、必ず後続のために近くの村人から採名するように心がけてほしい。

採名しても、明らかにできない地名はそのまま無名とし、のちの成果を持つこととし、採名段階で多数の名称が出た場合も全てを記録しておく。この場合、それぞれの名称の出所にはそれなりの理由が必ずあるので、記録した名称の発生地や理由を検討したうえで適切なものを残すべきである。

以上のようにして集めた多数の地名を机上にて検討する段階となるが、ここから一段とむずかしくなってくる。豊富な経験と知識のうえに洞察力を必要とする作業である。

ここで陥りやすいのは地名を一つに絞

ことになる。

このような地名が多数派を形成し、最も多く流通してしまうことを、若干ながら経験している。このような場合はどうするかはむずかしい問題である。いくつ少数派が正しい地名を叫んでも徒勞に終わることが多い。間違つた地名はそのまま、勝てば官軍の勢いで天下の大道をどこまでも走り続けることになる。

地名とは厄介なものである。最近の林野庁のように、林道区をコンピュータ処理する都合上全ての地名を廃し、数字に置きかえる動きもあり、地名は符号にすぎないと軽視する人もある。しかし、これは大変危険なことである。地名こそはその土地の歴史を物語っているものであり、貴重な民族遺産でもある。民族の歴史を抹殺するようなことは控えるべきだと思ふ。

以上、地名の扱いについて私見を述べてきたが、小生自身も理のとおりにはいかない場合があり、難渋している。小生自身にも言い聞かせる意味で、文章化して戒めとしたいのである。(了)

静かな大峰前衛の山

白石山

一般コース(★) 合谷 昭

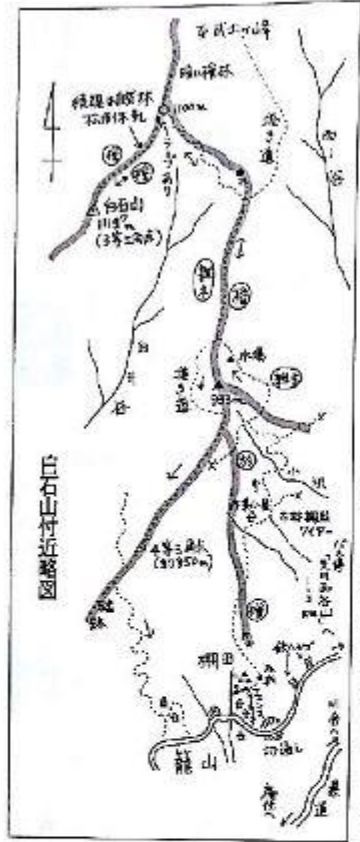
大峰連峰の前衛の山々は、近畿の屋根とも言われる大峰主脈の人氣に隠れて訪れる人は少ない。地味ではあるが、静かな山行を楽しむことができる。

その一つに天ノ川の北岸にそびえる白石山(1199.7m)がある。中腹までは植林地となっているが、山頂付近は今なお自然林が残り、ひっそりとたたずんでいる。

バス停「天川西谷山」から県道と分かれ、龍山への舗装道を行く。集落入口の切り通しを過ぎてすぐ、山腹に向かっているのびている猪塚ヶフェンスに沿って登って行くと棚田が出てくる。その山側は支尾根の末端で、希植林地となっている。



白石山より八経ヶ岳



分岐からは西南方向に九十度折れ、下りとなる。白石山までの稜線は松の多い雑木林となり、これを登り返せば山頂に出る。この間、松喰い虫の被害による倒木が多くて道は荒れている。木々の間からは大峰連峰の稲村ヶ岳から主峰の八経ヶ岳、そして南部の雄、釈迦ヶ岳までの大観を見ることが出来る。

山頂は雑木林のなかで眺望はなく、3等三角点標石(点名・龍山)を囲む小広場となっている。訪れる人もほとんどなく、ひっそりと静まり返っている。他の山のように山名標のべた打ちはなく、たった一枚のみ。

- ▲コースタイム▼
 - 龍山(2時間15分) 白石山(2時間) 龍山
 - ▲地形図▼ 2万5千11南日豊
 - ▲交通▼
- 登山に便利なバスは1日2便しかない。マイカー利用がよい。

白石山山頂付近から大峯巒岳・行者連岳方面



登り着いたゴブは武士ヶ峰からの尾根分岐となっている。武士ヶ峰側は見通しのきかない檜林の暗い平坦地で、武士ヶ峰へは明瞭な稜線道となる所まで、磁石と羅図刀が必要である。

ここからは西側(白井谷側)が雑木林となり、心地好い落ち葉のクッション道をたどって行く。やがて三叉路となり、ここではいちばん明瞭な左の捲き道を行く。なお、右の捲き道はややくだり気味に武士ヶ峰からの尾根の西ノ谷側を捲いている。この捲き道は地図に記載されていないが、古い作業道で、忠実にたどれば武士ヶ峰に達することができる。

左へたどる捲き道は、白石山手前の尾根分岐のゴブ(約1000m)に向かう。分岐からは西南方向に九十度折れ、下りとなる。白石山までの稜線は松の多い雑木林となり、これを登り返せば山頂に出る。この間、松喰い虫の被害による倒木が多くて道は荒れている。木々の間からは大峰連峰の稲村ヶ岳から主峰の八経ヶ岳、そして南部の雄、釈迦ヶ岳までの大観を見ることが出来る。

山頂は雑木林のなかで眺望はなく、3等三角点標石(点名・龍山)を囲む小広場となっている。訪れる人もほとんどなく、ひっそりと静まり返っている。他の山のように山名標のべた打ちはなく、たった一枚のみ。

短路は、先程の分岐を右にとつてくだる。分岐からは西南方向に九十度折れ、下りとなる。白石山までの稜線は松の多い雑木林となり、これを登り返せば山頂に出る。この間、松喰い虫の被害による倒木が多くて道は荒れている。木々の間からは大峰連峰の稲村ヶ岳から主峰の八経ヶ岳、そして南部の雄、釈迦ヶ岳までの大観を見ることが出来る。

山頂は雑木林のなかで眺望はなく、3等三角点標石(点名・龍山)を囲む小広場となっている。訪れる人もほとんどなく、ひっそりと静まり返っている。他の山のように山名標のべた打ちはなく、たった一枚のみ。

短路は、先程の分岐を右にとつてくだる。分岐からは西南方向に九十度折れ、下りとなる。白石山までの稜線は松の多い雑木林となり、これを登り返せば山頂に出る。この間、松喰い虫の被害による倒木が多くて道は荒れている。木々の間からは大峰連峰の稲村ヶ岳から主峰の八経ヶ岳、そして南部の雄、釈迦ヶ岳までの大観を見ることが出来る。

(里山シリーズ) 近江高島

万葉の里、勝野を見下ろす

三尾山

一般コース(★)

長宗 清司

脚川から勝野に通じる山越えの旧道(今は廃道に近い)沿いの奥深い山中にある三尾山は、JR近江線近江高島駅の南にある山である。湖中に朱塗りの鳥居がある白鬚神社の裏山でもあるこの山は、昔、比叡山三千坊の一院、かつ高島七ヶ寺の中でも最有力の天台宗寺院だったと言われている。

嘉祥二年(849)の創建とされ、元龜二年(1577)織田信長による焼き討ちに遭い廃寺となった。昭和三十一年(1956)および五十七年の現地踏査により、本堂跡の礎石・経蔵跡・僧房跡などの遺構が確認された。また本堂跡のすぐ横には鎌倉時代の石造宝塔の基礎と推定

される残欠がある。僧房跡付近からは中世山城の郭や空堀の遺構が見つかり、戦国時代には打下城と当寺とが併存していたことが判明している。

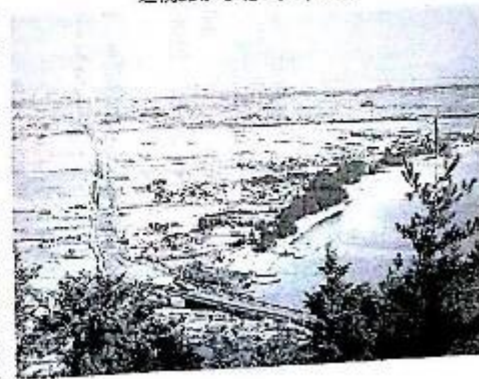
時代はさかのぼって、天武天皇元年(672)大海人皇子千方の大津宮攻めをめざす湖西方面軍は、北陸路から琵琶湖西岸の道を南下し、三尾城を攻略しているが、確かな記載もなく、遺跡として明確なものも発見されていないが、立地や位置から見てこの三尾山が注目されている。いずれにしても戦路上重要な山であったのは間違いない。

三尾山への道は標識がなく、わかりにくい。近江高島駅から南へ、左手に乙女ヶ池を見ながらJRの線路沿いの道を300mほど歩くと、道端に観光案内の看板がある。

三尾山へは、ここから右手の山越えに向かって農道を歩く。JRのガードをくぐり、林道に入る手前で畦道を100mほど南へ移動すると、栗雨の巡視路・見張山登山口の小さな白いプレートが見つかる。

すぐ、二股道になる。三尾山へはどちらからでも行けるが、右の見張山への道

巡視路から北を見下ろす



を進ぶ。落ち葉がうず高く積もった山道は歩きにくい。小谷をつめるようになって道がややしくなる。最後のつめで、一つ左の谷へ移動する。尾根の手前で鉄塔を確認。町境の杭が打たれた伐採帯(幅4m程)の尾根を左の鉄塔下に向かう。足元はイワカガミの群生地。高圧線の鉄塔下に出てみると、北に高比良のびていて、樹木の伐採で勝野周辺の田園風景と萩の浜が美しく望めた。

この地を基点にして、南へ二つ目のピー

クから少し湖寄りにくたると大岩があり、その先が絶好の展望地だった。アカ松の枝越しにすばらしい琵琶湖の景観を眺めた。

右には北比良の山並が数多く望め、視線を左下に移すと棚田が広がっている。さらに左には琵琶湖上には萩が美しい模様に見える。JRと国道、そして江の三本が美しい蛇行線となって、自然と人工物で織りなす色と形のハーモニーを奏で



ていた。

再び、鉄塔下に戻り、次の鉄塔に向かって北へくだる。伐採帯を過ぎて、山道にかかる地点と、あと二ヶ所展望のきく場所からは、萩の浜の汀が弓形に美しい放物線を描いている。遠くは高山、伊吹山と北尾根を背景に膝ヶ岳から山本山の山並。手前には箱館山・東山、つづら尾崎と二段構えに見え、湖にはボツンと竹生島が視界に入る。右へ目をやると雲仙山と観音山の特徴ある山容や鈴鹿の山並がくっきり稜線を見せている。



見張山(善利山)と三尾山への登山道

浜・彦根の街が個々に白く塊のように見えた。眼下には、琵琶湖岸に寄り添うように乙女ヶ池が美しい水をたたえていた。

あとは、このまま急斜面の巡視路をくだれば最初の分岐点に出るが、二ヶ所ばかり崩壊していて危険。できれば元へ引き返してくだるか、途中から尾根をそのまま西進して、見張山に足をのぼすことをすすめる。その先は踏み跡程度の所もあるが、やがてはリトル比良の縦走コース道に合うので、時間と体力があれば充実した山行になるだろう。下山した音羽からは、JR近江高島駅まで歩いて20分程だが、バス便もある。

(平成12年12月2日歩く)

コースタイム

- JR近江高島駅(10分)案内板(15分)
- 見張山登山口(45分)町境尾根(10分)
- 鉄塔(20分)三尾山(20分)鉄塔(次の鉄塔へ往復40分)鉄塔(10分)町境尾根(1時間)近江高島駅
- (見張山へ行くときは)町境尾根(45分)
- 見張山(1時間)リトル比良道(40分)
- 音羽(バス8分)近江高島駅
- △地形図▽2万5千1北小松・勝野
- △問い合わせ先▽
- 江若交通(安曇川営業所)

0740(32) 1371

2等三角点のある山

和田山・千石山

山形 蔵之

和田山(478・3層 点名・和田山)

初級コース(★)



若狭湾にのびる 露崎の中央部、高 浜市と大飯町の境 界線上にある山で、 地形図に山名の記 載はない。 若狭の大飯町は 原発の町である。

原発のおかげで立派な道路や橋がつくら れている。国道27号から大飯原子力発電 所のある岬に向かって走り、浦底の手前 で山に向かう林道に入る。上空には発電 所からの巨大な二連の高圧線が山の中腹

を走っている。

舗装路を少し登ると、「林道双ませ線」 の表示があり(入口にはなかった)、やが て舗装が切れ荒れた砂利道になる。

「点の記」では入口から300mくらい の所の登山道を登っているの、それに従 い二回程高圧線をくぐった所に駐車する (所待の地形図に林道の記載はなかった)。

高圧塔の巡視路を登って行くと、何と 林道に出てしまった。先程の林道がのび ていた。すでに相当登っていたのでそ のまま歩いて行く。静かな小浜湾越しに 三角点のある久須夜ヶ岳が正面に、さら にその先には常神半島の白い灯台まで 一望であらう。



やがて 頂上台地 に登り着 く。山頂 の東峰に はNTT のアンテ ナが立ち、 何がつく られるの

か広く造成され、点々と松の苗木が植え られていた。 アンテナの後ろから稜線伝いに歩く。 三角点は雑木林の切り開きのなかで、山 名板も登頂板もない静かな山頂であった。 林道ができること登山の魅力は消えるだろ うが、山頂台地は広く明るい展望の良い 山である。

(平成10年11月18日歩く)

▲コースタイム▼

アンテナまで林道(5分) 和田山(大 山)

▲地形図▼

20万1宮津 5万1冠島

2万5千1経崎(旧図1難波江)

千石山(682・4層 点名・日笠村)

中級コース(★★)

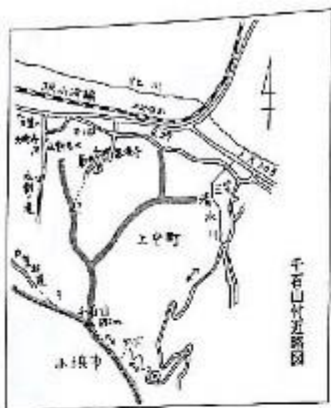


若狭の小浜市と 上中町の境界にあ る千石山は、登路 を採すのに手はずつ た。もちろん三角 点を求める山登り では、ガイドブッ クにコースのある

山はほとんどない。この山も登るのは二 回目である。先に訪れた時には、教えら れた井ノ口の墓地からの道が不明瞭で、 枝打ちの葉と倒木に遮られ、何とか一つ のピークにたどり着いたが猛烈なやぶで 行き止まり。どこかで道を見失い、その 日は時間切れで断念した。

そこで、瓜割りの名水の駐車場まで車泊 し、ここからのびる林道から登れないか と、地元の人にも訊ねたが、よい返事 が得られなかった。

翌日は「点の記」のルートの日笠林道 から入り、植林道を登ってみるが、これ も途中から道が途絶え、やぶ漕ぎで登っ たピークは、山頂とは確認できなかった。



千石山付近地図

今年には先に役場で山の様子を尋ねてみ た。登山道は全く不明とのことだったが、 千石山の東南稜線近くまでのびる林道は、 車が入れると言う。そこまで行ければ稜 線も近いし、何とか道もありそうなので、 今回はこの林道から挑戦してみることに した。

三宅の林道は、入口の石橋からどんど んと高度を上げ終点まで約4km。落石や めかるみ、枯れ木の散らばる所もあった が、無事林道終点に到着する。手入れは されているようだ。

終点からは不明瞭な踏み跡をたどる。 テープを付けながらの道らしきを登ると、中腹をぬう道に合流した。しかし、 この道もやがて林のなかで消える。仕方がないので登れそうな尾根を見つけて直 登する。もう全くのやぶで、道標を兼ねた 旗切りをし、テープ付けも丹念にしな がら登る。多くのイバラのお世話にもなっ てしまった。

やっと稜線にたどり着くと道が出てきた。稜線の道は穏やかで、所どころに境 界のボリ杭が見え、急登もなく簡単に頂 上に到着した。 山頂はなだらかな雑木林で、きれいな

標石、倒れた航空測量用の板、北山山の 会の山名板が転がり、平成12年3月12日 の日付に四名が記された登頂板が残って いた。残雪の時期と思われるが、彼らは どこから登ったのだろうか。北の尾根に も道はのびている。やはり井ノ口から登 山道があるようだ。

登った稜線上の道は、どこにおりるの か不明のうえに、やぶになっていたので 忠実にテープを回収しながら林道に戻っ た。

林道を下山していると、登る時にはな かった猪鬃の電線が張られて、道を塞 いでいたが慎重に開けて国道に出た。

道は井ノ口からあると思われる。私の 行ったコースは、林道が通行可能である かどうかを確認し、道はないので目印を 確実に付けて登ってください。

(平成12年5月16日歩く)

▲コースタイム▼

林道終点(1時間50分) 稜線(20分) 山 頂

▲地形図▼

20万1宮津 5万1熊川 2万5千1道敷

架かる橋を越え、草野川橋を渡ってすぐ「金峯岳キャンプ場」の案内に従って右折すれば、川を右に見て走るうちに、近江高山バス停に至る。高山橋を渡り、左折して狭い道を抜けると高山キャンプ場で、二俣橋の手前で一番右側の鳥越林道に入る。

鳥越林道は昭和47年に建設が始まり、平成10年に閉通したが、平成12年までに舗装されているのは道伏谷を横切る所までで、その先から鳥越峠までは石ころと溝で、荒れた路面のコースである。舗装部分では落石が多い。4WD車であれば問題ないが、普通乗用車の場合は慎重な運転が必要である。春先まで残雪があり、上の方は利用できなくなる。

筆者が利用したときは、林道が白谷を横切る鳥越橋(すぐ後に新九郎地蔵がある)の手前350m程度の場所に多量の落石があり、かろうじて通過することができたが、その後、二俣の入口では通行禁止の看板が立っていた。道の状態によっては利用できない場合のことも想定しておくべきであろう。

標高950mの駐車場に車を置き、中津尾コースで頂上をめざそう。階段を上

がり、小ピークを経て、連状の頭のあたりに出る。連状谷の源頭部は1045m付近で、そこも含めた1083m付近を頂とする広い範囲を連状の頭と呼んでいるようだ。西側の展望はあまりなく、東側で少し展望が開ける。登りが続くのでピークという感じがなく、そのまま登ると、1124mの小朝の頭に着く。このピークは鳥越峠からの景境にあたる。

ここからいったんくだり、1060mの鞍部に出て、再び登ると、1072mの小ピーク(大朝の頭)で、右手に林道方面への道標がある。舗装された浅又川林道からここに登ってくれば、マイカー利用での最短コースということになるの

だろう。くだると1057mの鞍部で、しばらく登ると大朝谷の源頭部にあたる1074m地点で、少し先にわずかに低い鞍部がある。このあたりにかつて大朝小屋(昭和56年倒壊)があったようだ。ここから急な登りになるが、右手の展望が開ける所があり、やがて、山頂に着く。東側の展望がよい。ここから白谷峠までは明瞭な道があり、往復するのもよい。

元の道を引き返し、駐車場まで戻る。次は、マイカー利用では歩かなかった、

(復又々峠)から地下水となって流れてきているという。

二俣橋の手前で鳥越林道の左側の舗装道に入る。関西電力の作業道で、軽自動車がかろうじて通れるほどの道幅しかなく、路肩にガードレールもないので、一般車は通行しないほうがよい。途中で左手に石祠と石碑があり、その下の流れを藤ヶ淵と呼ぶ。昔は藤の老木があったという。勘兵衛淵ともいい、ここに石を投じると大雨が降るといって竜神信仰が伝わる。関ヶ原の合戦で敗れ、伯父の赤田勘兵衛と共に足野谷にのがれてきた虎之助は、その家名再興の念やみがたく、慶長十二年(1607)6月20日、藤ヶ淵の竜神に祈念を込め、ついに淵に入り化身



藤ヶ淵権現と刻んだ石碑

したものといる。その伝説を調べた子孫、赤田盛三氏によって昭和24年に「藤ヶ淵」の石碑が建立されている。伝説は「近江高山の昔話」に詳しい。

道が右手の白谷に廻り込むと、左に発着所ダムへの林道を分ける(このあたり、道筋という)。右を進むと取水門があり、手前で左へ橋を渡る。ジグザグの急登で、右に堰堤を見る。浅又の薪炭を運ぶために、明治15年から四年かかって、白谷に沿う鳥越林道を牛車を通れる道幅に開削した恩人、山脇新九郎にちなんで呼ばれた新九郎地蔵はかつて、この白谷口にあった(伏木貞三「近江の峠」)。今では、林道の鳥越橋のそばに移されている。

やがて、鳥越林道と出会う。路肩に駐車可能である。登山口は左の方にある。コモリの頭は750mとした案内図が多いが、コモリ谷の源頭部は822m付近にあり、右手に植林地を見たあと、その上にある丸いピークである。残り時間が足りなければここで引き返そう。しばらく登ると、右手にトタン板の敷設している場所に着く。ここが連状小屋(昭和56年倒壊)跡である。880mのあたりで連状の頭よりかなり南になる。健脚であ

●新しいサービスステーション紹介●

丹波高原・八方尾根まで車7分
白馬村内全て迷わず
スノーシュー&歩くスキー専用

大人たちのペンション
白馬・ヴィヴァルディ

〒393-0331
長野県北安曇郡白馬村落合高原
電話 3261-72・7255
ホームページ
<http://www.valley20.jp/~vivaldi>

標高950mの駐車場(時間により、コモリの頭)より下の登山道を歩いてみよう。

JR長浜駅から11時45分発の近江高山行きのバスに乗り、終点で降りる(12時30分着)。8時50分発(9時38分着)もあるが、利用できる人は限られるだろう。最終便(日祝17時40分、平日17時45分)の時刻を確認して、5時間の行動時間で計画するようにしよう。

高山橋を渡り、左折。高山の集落では茅葺き屋根の民家が残り、白壁の土蔵も目立つ。右手の案内板を通ぎ、水力発電のバイブラインを横目にし、ほどなく白竜神社に着く。柱の大樹に宿するといふ竜神さんまつるために昭和前期に地主によって祠がつくられて、白竜神社となしたものといる。この霊水はカナ山

れば、950m地点まで往復してバス停に戻っても、若干の余裕がある。

高山キャンプ場を利用する場合などには、夫婦連までの散策が楽しめる。探索の後日、森林組合で問い合わせたとき、職員の方が先日、草刈りをしたと話されていた。おかげでやぶもなくなり、滝谷の林道(最後の急登では右をとるとよい)をたどって、夫婦滝に着くことができた。イラストのように仲良く並んではおらず、右手のかなり上の方に雄滝(約30m)、正面に水量の少ない雌滝(約15m)がある。

(平成12年7月20日・22日・27日歩く)

▲コースタイム▼

- 駐車場(50分) 小朝の頭(1時間10分)
 - 金峯岳(1時間) 小朝の頭(40分) 駐車場
 - 近江高山バス停(30分) 二俣橋(1時間10分)
 - 近江高山バス停(25分) コモリの頭(10分) 連状小屋跡(10分) 駐車場(1時間) 迫分(50分) 二俣橋(30分)
 - 近江高山バス停
 - 二俣橋(50分) 大朝滝(40分) 二俣橋
- △地形図▽
2万5千1:1近江川合・虎御前山

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽吉野山キャンペーン「吉野山まるごと体験ハイキング」7月1日(日)小雨決行(集合)吉野駅前10時〜10時30分(コース)吉野駅―如念輪寺―稚児の松地蔵―水分神社―勝手神社―金峯山寺蔵王堂(約3.5)参加自由・無料(拝観料等は別途、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775)3556、吉野山観光協会07463(2)1007)

▽涼みふれあいハイキング「青山高原の麓、夏の布引の滝散策」7月6日(日)雨天中止(集合)東青山駅前10時(コース)東青山駅―旧青山トンネル―布引滝―リベラルパーク―青山―東青山駅(約10)参加自由・無料(営業推進本部大阪ハイキング係06(6775)3556)

▽駅長お薦めフリーハイキング「吉野山あじさいと藤王堂とび星学」7月7日(日)雨天決行(荒天中止)(集合)吉野駅前9時30分〜10時30分(コース)吉野駅―如意輪寺―水分神社―花矢倉―蔵王堂―吉野駅(約10)*係員は同行しませんが参加自由・無料(拝観料は別途)、近鉄吉野神宮駅07463(2)2173

▽涼みふれあいハイキング「葛城高原 山野草観察ハイキング」7月8日(日)雨天中止(集合)ロープウェイ葛城山上駅前9時40分〜10時10分(コース)葛城山上駅―葛城天神社―自然研究路―葛城山山頂―新浅いの池(約3.5)参加自由・参加費300円、講師奈良植物学研究会委員瀬川貞之氏、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775)3556

▽駅長お薦めフリーハイキング「いにしへの御所を訪ねて」7月14日(日)雨天決行(荒天中止)(集合)御所駅前9時30分〜10時30分(コース)御所駅―円照寺―吉祥寺―孝安天皇太子近上殿―白鳥陵―野口神社―鴨部波神社―御所(約9)*係員は同行しませんが参加自由・無料(拝観料等は別途)、近鉄御所駅0745(62)2420

▽近鉄万歩ハイキング「恩智越えから 信貴山観音様寺へ」7月15日(日)雨天中止(集合)恩智駅前9時30分〜10時(コース)恩智駅―天王の森―恩智神社―信貴山観音様寺(厚沙門大)―奥の院―平群駅(約10)*参加自由・

無料(拝観料等は別途)、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775)3556

▽ほのほのツアー「夏の太台ヶ原日帰りの旅(東コース)」8月19日(日)雨天中止(集合)近鉄サビネット阿倍野駅前7時40分(コース)あべの橋駅(特急)吉野駅(バス)太台ヶ原駐車場―日出ヶ原―正木ヶ原―生石ヶ原―大輪ヶ原―シオカラ谷―大台ヶ原駐車場(バス)大和上市駅(電車)あべの橋駅(約9)定員120名(電話申込制)参加費大人5310円小人2910円、申込先あべの橋駅06(6623)6635、近鉄サビネット阿倍野駅前営業所06(6624)0026

▽歴史散歩「櫻枝」7月3日(日)小雨決行(集合)阪本大野駅10時(コース)大野駅―妙満寺―奥野立薬師―円通寺―権杖八幡宮―更兼寺―叡電京都市役所前駅(約4)参加自由・無料(拝観料等は別途)、叡山電鉄鉄道部075(78)5121

▽こうじゃくMtハイキング「足尾谷・昔子山」7月11日(日)雨天

中止(集合)JR堅田駅8時40分(コース)堅田駅(バス)足尾谷橋―ツボクリ谷―昔子山―寺谷山―合―寺谷橋―平(バス)堅田駅(約7.5)健脚回)電話申込制(1ヶ月前から)参加費2000円(バス代等)(申込先)江若交通本社077(573)2701

▽夕涼みハイキング「さわやか比叡山」7月28日(日)雨天中止(集合)阪本大野駅10時(コース)八幡遊園駅―(松尾坂)―浄利精舎跡―林道―鎮護国家の碑―比叡山頂駅(約5.5)参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(78)5121

▽こうじゃくMtハイキング「一峰街道・若狭上根来・百里ヶ岳」8月10日(日)雨天中止(集合)JR安曇川駅9時(コース)安曇川駅(バス)小浜市上根来―木地山新上―百里ヶ岳―シチケレ峠―百里新道―小入谷(バス)安曇川駅(約9.5)健脚回)電話申込制(1ヶ月前から)参加費3000円(バス代等)(申込先)江若交通本社077(573)2701

▽比叡山キャンペーンハイキング「たそがれ時の松尾城を歩こう」8月11日(日)小雨決行(集合)叡電八潮

遊園駅前15時30分〜16時(コース)八幡遊園駅―(松尾坂)―浄利精舎跡―林道―鎮護国家の碑―比叡山延暦寺―根本中堂(比叡山ライトアップ根本中堂参拝)(約5.5)参加自由・無料、京阪電鉄077(573)2702

▽自然観察「貴船の植物界外見」8月12日(日)雨天中止(集合)叡電貴船口駅10時(コース)貴船口駅―奥貴船橋付近(植物観察)―貴船渡宮(説明)―叡電貴船口駅(約5.5)参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(78)5121

▽比叡山遊線アタック「権現山・葉菜山」8月28日(日)小雨決行(集合)京阪電車出町柳駅コンコース9時〜10時(コース)出町柳駅(バス)平―花折峠分岐―アラキ峠―権現山―打ヶ原山―山頂駅(びわ湖アルプスゴンドラ)山頂駅(バス)JR比叡山(約6.5)*健脚回)参加自由・参加費大人2000円小人1000円(バス・ゴンドラ代含む)、京阪電鉄ハイキング担当06(6647)3702

▽こうじゃくMtハイキング「白倉岳」8月31日(日)雨天中止(集合)JR堅田駅8時40分(コース)堅田駅(バス)朽木村井馬樹子岳―白倉岳(北岳)―朽木樹生(バス)堅田駅(約10.5)健脚回)電話申込制(1ヶ月前から)参加費2500円(バス代等)(申込先)江若交通本社077(573)2701

▽京都市バス比叡山ドライブ「比叡山平口ハイキング」八潮の滝」7月24日(日)・26日(日)・8月1日(日)(雨天の場合は何れも翌日に延期)(集合)JR近江高島駅9時(コース)近江高島駅―ガリバー青少年旅行村―八潮の滝―オガサカ池―山頂(ロープウェイ・リフト)山頂駅(バス)JR比叡山(約3.5)健脚回)電話申込制(1ヶ月前から)参加費2000円(バス・ロープウェイ・リフト代含む)定員各1000名(申込先)比叡山ドライブウェイ事業課077(566)0516

▽京都北山三ノ角トレック第4回「富士山ハイキング」9月1日(日)・8日(日)小雨決行(大雨で中止の場合)9月22日(日)に実施(集合)京

阪電車出町柳駅コンコース8時〜8時30分(コース)出町柳駅(バス)足尾谷橋―足尾谷―昔子山三ノ角―寺谷―寺谷橋―平(バス)出町柳駅(約9.5)健脚回)電話申込制(1ヶ月前から)定員各300名、無料(バス代別途)(申込先)京都バス運輸部営業課075(77)7521・7522

▽神鉄ハイキング「六甲山と地獄谷西尾坂ハイキング」7月1日(日)雨天中止(集合)大池駅9時06分(コース)大池駅―地獄谷西尾坂―グイヤモンドポイント―ノースロード―記念碑台(ルルム祭)―六甲ヶ原―上上駅(約8.5)健脚回)参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521)0321

▽神鉄ハイキング「三木車井山とどうの神ハイキング」8月19日(日)雨天中止(集合)三木上の丸駅10時40分(コース)三木上の丸駅―弁慶の足跡―慈眼寺―八雲寺―車井山とどうの園(希望者のみ別入園)―恵比須駅(約8.5)健脚回)参加自由・無料、神鉄観光事業部077(521)0321

新たな感動幾年続く
 かりかりと脚水の音をふたつ掴み
 水のせんでへ板上の味
 3月11日 雨乞居
 歡を分け雪の斜面の直登に
 はつと一息マンサクの花
 たおやかな清水頭の雪原に
 はすむ想い出トレースの跡が
 3月20日 御池尾・奥の平
 天空の巨大空母は御池尾
 残雪の雪原葛西に歩いて
 雪原のつかいドリーネヒンズスキー
 スリル満点年を忘れて
 3月24日 静ヶ岳
 急登の残雪の深淵見上げれば
 ニシキマンサク雪空に映え
 静ヶ岳静寂の森静ノ池
 雪水をため雪を浮かべて
 4月1日 コロ谷から御池尾
 残雪の伊勢尾を攻めて御池尾
 光輝やく樹氷の中へ
 4月8日 花の霊仙山西園尾根
 雪解けを持って咲きたす福寿草
 豪華絢爛黄金の花
 渓谷はタンコウバイやマメサクラ
 ヤマルソウやヒトリシスカも
 4月15日 八重岳・白岩岳・花岡尾根
 残雪の金巻岳に白鳥に
 花の尾根にトレースを残し

雪原は雪で倒れたマンサクが
 小枝を出して足元に突き
 4月22日 サクラグチ・熊登ヶ峰
 山崩れて谷の若葉がはじ上がる
 冬枯れの山花をちりばめ
 (若野 明)
 登山口まで車で入り、3時間程
 で下山する予定が、12時間あまり
 も歩くはめになってしまった阿含
 利山。
 20年以上も前の話である。背丈
 を越すチシマザサに悩まされての
 三角点確認であった。別ルートで
 下山をはかったのだがコースをは
 ずし、波賀町側へくたるという大
 きなアルパイトをしてしまったの
 である。
 その後、何度か登ったが、少な
 くなってはいないものの、ササは健
 在であった。それが、4月の新ハ
 イの山行で5年ぶりの山頂に立っ
 てあ然とした。
 昔は苦行したササが枯れ、消え
 てしまっているのである。ササに
 花が咲くと枯れると言われている
 が、月日の経過を目のあたりにす
 ると、わが身辺に思いを馳せすに
 はおそれなくなってしまう。年
 のせいだけではないと思うのだが。

下山後、町役場へ足を通ひその
 むね伝えておいた。(須藤 明 稿)
 今夏の山行計画を立てるため、
 某山小屋に宛てた予約の電話を入れ
 たときのこと。
 日取りや予定人数を知らされた後
 「新ハイキングです」と団体名を
 告げると、電話の相手はにわかた
 び黙ってしまった。そして口調が
 明らかに変化し、「無理な要求は
 なさらないでしうね」との言葉
 が返ってきた。
 困惑した私が事情を尋ねたこと
 ら、以前、山小屋としては無理な
 要求を突き付けられ、対応に困っ
 たことがあったそうだ。聞けば、
 確かに私には驚くような内容で、
 「私たちはそんなことはありません
 」ときっぱり説明したのだが、
 「新ハイキング」という名の評判
 が必ずしも芳しいものではないとい
 う現実を教えられ、とてもさびし
 い思いがした。
 他のリーダーの話でも、新ハイ
 キングに対する苦情をときどき耳
 にするぞうだ。
 新ハイの例会は、常に数十名の
 集団行動であり、どうしても他の
 ハイカーや山の自然に与える影響

四季織りなそと森の高原のハイイク 上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー けやき通りと床の宿・日曜庄 温泉旅館 けやき山荘 〒390-0100 白川町 長野県白川町白川町役場観光課 026691-9312 ext.65	さわやかな信州 霧入原山 山吹の郷 湯田中温泉(霧入原) 日野 屋旅館 〒390-0400 湯田中温泉 高井郡山ノ内町湯田中温泉旅館 026691-3313 ext.78	標高2000m 山頂上の温泉 湯の丸高嶺自然温泉 ハイキングにXCSスキー 高 峰 温 泉 〒390-0400 湯田中温泉 湯田中温泉高嶺温泉 026671-2512 ext.000	ハイキングにノースキーに 志賀高原 石の湯ロッジ バス 熊の湯温泉平床下車 026691-3412 ext.1 東京本社・東京都新宿区新宿3 201-5(新光ビル2F) 関スホーツサービス 03-3354-1100 ext.11
--	---	---	---

は少なくないのだが、それだから
 こそ、傍若無人な集団にならな
 いうよう十分に心したいと考えてい
 る。

「新ハイキング」と名乗れば、
 穏やかな笑顔がこぼれてくる……
 そんなさわやかな団体でありたい
 と願っている。(若野 明 稿)

コミ問題は山でも難しい。最近
 の新聞紙上で、酸性雨・酸性霧と
 りもたらす悪い酸性雪なるものが
 問題となっていた。二十年、四十
 年前は生ゴミは溶けても自然に還
 ると言われていたが、現在では酸
 性干渉のためなかなか腐らないと
 いう。

コミといえは12年、15年はどの
 の一時期、私は一人で京都・愛宕
 山で年15回くらい以上のトレーニ
 ング山行をしていた。ただ歩くだ
 けではエネルギーの無駄づかいと
 思ひ、空缶などのゴミ拾いを始め
 た。1日でスーパリーのレジ袋三袋
 は拾えた。

ところがある日、ボスターで
 「10月10日愛宕山清掃ハイク」な
 る企画があることを知った。もう
 特別この手のイタズラは10年思
 とみて公表し後悔するが、「せつ

かく人がセツセと拾っているのに
 他人様に拾わせてなるものか？」
 と事前に愛宕山に入り、入念に清
 掃ハイクした。当日という騒ぎ
 になったのかは今となっては知る
 よしもない。

その後マナーが非常に向上して
 「なかなか拾えない」というになり
 愛宕山から足が遠のくようになっ
 た。

現在では恥ずかしさもあまりゴミ
 拾いはやめ、鹿鹿や北山のヤブで
 シカの角(通行手形)を採してい
 るが、「こちらのほうも」なかなか
 拾えない。(若野 明 稿)

地図ニュース336号(日本地
 図センター、2000年9月)に
 武内正氏が日本最低標高の山「天
 深山」と「蘇鉄山」についての記
 事を載せている。この中に、
 「日本山名総覧」に収録した山名
 やその読み方についても、故事来
 歴や他書を紹介して間違っている
 と指摘する著者がいる。これは、
 国土地理院が原則としている「現
 地現称土名」が周知されていない
 ことが原因と思われる。日本山名
 総覧の山名収録過程でも、現地現
 称土名にのっとって、現地で現在

呼ばれている名称を重視したので
 あって、故事来歴にはこだわらな
 かった」と述べている。
 筆者は、武内氏の著作を高く評
 価しているが、これを読んで、がっ
 かりしてしまった。つまり、簡単
 に言えば、市町村役場の職員によっ
 て地名調査書で報告された山名の
 表記・読み方をそのままとし、そ
 れ以外の故事来歴に基づいた山名
 は全く考慮するつもりがない、と
 いうことである。これならば、武
 内氏の行った作業は、国土地理院
 に提出された地名調査書のうち、山
 名に関する項目を全て公表すれば
 よいことであって、そのデータに
 相当するものは、武内氏の本より
 少し遅れて出された「数値地図2
 5000(地名・公共施設)」(C
 D-ROM版)が担っている。
 多くの筆者が故事来歴にこだわ
 るのは、山名が現在、かなり混乱
 していることにある。その混乱を
 つくっているのが、地名調査であ
 ることも明白である。五百沢村也
 「登山者のための地形図選集(山
 と溪谷村、昭和49年)」には「地形
 図にのせる地名は、必ず地名調査
 の上で市役所や役場が証明したも
 のでなければなりません。国土地

塩の道 千国街道
 百八十七体「熊倉原」
 ホテル
 白馬ブランシェ
 〒390-0400
 長野県北安曇郡白馬町いわたけ
 02661-7214 ext.52
 八ヶ岳山麓に緑走の中心地
 30年秋の節の完成全館開室
 木の香けつ新築完成全館開室
 オーレン小屋
 1泊2食付き 6000円
 〒390-0413 4月来、11月末開設
 茅野市塩平2272番 小正 兼次
 02661-7211 ext.279
 北八ヶ岳の登山基地、冬白スキー
 「R」茅野駅、北八ヶ岳登山口ま
 で送迎します。
 茅野市
 プチホテル カナール
 〒390-0400
 茅野市北山薬師林原平五平55
 13の1
 02661-6712 ext.58
 日本百名山の宿
 信州戸隠山
 森の宿めるへん
 高井郡山ノ内町山ノ内まで送迎
 クロカン・コースコース案内
 〒390-0410 0
 茅野市戸隠町清水原
 02661-2654 ext.0001

塩の道 千国街道 百八十七体「熊倉原」 ホテル 白馬ブランシェ 〒390-0400 長野県北安曇郡白馬町いわたけ 02661-7214 ext.52	八ヶ岳山麓に緑走の中心地 30年秋の節の完成全館開室 木の香けつ新築完成全館開室 オーレン小屋 1泊2食付き 6000円 〒390-0413 4月来、11月末開設 茅野市塩平2272番 小正 兼次 02661-7211 ext.279	北八ヶ岳の登山基地、冬白スキー 「R」茅野駅、北八ヶ岳登山口ま で送迎します。 茅野市 プチホテル カナール 〒390-0400 茅野市北山薬師林原平五平55 13の1 02661-6712 ext.58	日本百名山の宿 信州戸隠山 森の宿めるへん 高井郡山ノ内町山ノ内まで送迎 クロカン・コースコース案内 〒390-0410 0 茅野市戸隠町清水原 02661-2654 ext.0001
--	--	--	---

理解が勝手にのせるわけではないのです。「最初に地形図がつくられたときから、この地名調査の作成はそれぞれの市町村役場で行われてきました」「しかし、役場にその土地の地名に詳しい人がいるとは限りません」「いったん間違った名前が地図に記され、長い年月がたつと、それがなかなか直せなくなりますが」「地図に正しい地名があるのかわからない場合は、各市町村役場の人々が、地名調査を正確に作ってくれるか、わからないかにかかっています」とあり、地形図の地名の訂正は、市町村役場から、国土地理院まで、地名調査の記載の訂正が、はじめて可能となるのである(五百沢「最新地形図入門」山と溪谷社)。

現在、用いられている地名調査の多くは、2万5千分の1地形図が、空中写真測量によって前面改測された時に作成されており、昭和40年代のものが主体になっている。この時点で新たに記入された山名には、疑問のあるものが多い。故郷の点から、議論の対象となってきた。こういった点を考慮しない山名資料は、「市町村役場公認山名リスト」と

割り切って、使用することが適切である。

ところが、多くの読者が欲するのは、過去の文献を考慮した、山名の読み方、別称、俗名、山名の由来、由来等なのだから、ニーズが全く異なるといえるのである。筆者は、平成13年11月2日に、国土交通省国土地理院情報管理課へ、以前から気になっていた金峰アルプス登山道の誤り(本誌45号で指摘)と大尾山(前56号)、筑法ヶ岳(同57号)の山名の問題について、資料を提供し、「地形図に反映させる処置をします。次期修正時に調査後修正されます」との返信を得ている。

慶佐次盛一氏からは、大尾山(前56号)について、1985年10月、三千院登山土産物店の奥さん談として、「あの山は、子供の頃よく遊びに行った。正しい名前は知りませんが、私達は三の滝と呼んでいました」と、年賀状で知らせていただきました。

「登山・ハイキング バス時刻表」近畿版、2000年冬月号の山名を51の山の不備について述べた(本誌51号)ことがある。筆者の

手紙です。と考えたのか、2000年秋号で大きく削除されているのは、あきれてしまった。まあ、地図で目的の山がわかれば、不肖はしないのであるが、ニエースト「山名を多く掲載して参考になるが、第3版(1997年)は、田中山を甲山(本誌55号参照)、高野山を明神山、西坂山を大谷山(おかげで筆者も40号で引用したが誤りのようだ)、旭山を蔵谷川、とする等の疑問点があった。編集部あてに連絡したところ、検討するとの返信があり、最新版である第4版(2001年3月)では改善されている。市販の地図は発行部数も多いだけに影響も大きい。大尾山と七苦ヶ岳はそのままだ。地形図ではすでに矢野ヶ岳に修正されており、いずれ改善されていくだろう。正確な資料によって良心的な編集がなされることを願ってやまない。(栗田野郎)

山行計画 (7・8月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申し込み先にお知らせください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加者代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はご連絡ください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(実行日帰りの場合は2日になり1000円)を文出していただきます。

傷害保険料内訳は次の通りです。(安田火災海上保険会と契約)

死亡・後遺障害保険金額 1000万円

入院保険金 5000円

通院保険金 2500円

保険の対象は集合時からの解散時まで。事故があった場合は解散まで係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・も本以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー使用の山行。③沢・岩・水登はんを目的とした山行。④河川内での事故。⑤病状の場合(詳細は係まで)。

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

比良を歩く。

打見山から南比良峠

(一般向き)

期日 7月1日(日) 日帰り

集合 JR志賀駅8時40分

コース 志賀駅(バス)びわ湖パーク(コンドラ)打見山→クロトノハゲ→木戸峠→比良岳→南比良峠→深谷道→比良駅(解散)

費用 約1900円(参加者から)

地図 昭文社「比良山系」5万1比良山

係 栗田野郎

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで

涼しい避暑湖からの恩を受けて歩く(30号参照)。雨天中止

奈良・日張山(一般向き)

期日 7月1日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅北口6時30分/②近鉄奈良駅7時10分

コース 橿原駅(バス)宇賀志→青蓮寺→日張山→谷峠→岩瀬→花田野町→橿原駅(解散16時頃)

費用 約2200円(名古屋から)

日本唯一の女人禁制の山「大尾山」(百名山)の登山口。稲村ヶ丘女人コースもあり。温泉・名水の里。

旅館 紀の国屋 若八

1泊2食付 7,000円から

〒633-0143 1

奈良県生野郡天川村天川

0747476-1410 3029

九州の歴史・日本百名山

宮之浦岳に一番近い宿

屋久島宮城登山口

〒891-1433 1

鹿児島県薩摩郡久野町安房

099744-613021

御在所登山口

愛知山系合流歩きに

山好き仲間集の集まり

朝明茶屋

山小屋

〒510-1251

三重県三徳郡伊勢町草

059331933-1789

那岐山麓の絶景くは夏山の大山

二百名山の赤ノ山・土曜山などあり

三日月山 那岐山 のふもと

岡山県 那岐山荘

〒705-0130 7

岡山県岡田郡赤松町高田

0868-3614154

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要があるかもしれません。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなく記入してください。申し込みの返信案内は係員が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提としています。

(初心者向き) やさしいコース

(初級者) となたでも歩けます

(一般) ハイキングの標準コース

(中級) かなり経験者のコース

(やや難関) (建設的) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

新ハイキング関西まで
京都の尾崎峠(977m)へ。
暑い時なのでゆっくり行きましょ
う。雨天中止

平日水曜ハイイク42
京都西山・ボンボン山
(初級向き)

期日 7月11日(日) 日帰り
集合 JR高麗駅 8時00分
コース 高麗駅(バス) 中原回廊
場→大原野森林公園入口
→あかまつの元→りょう
女のE→ボンボン山→釈
迦寺→京青の森→立白橋
→奥海戸寺→高麗天満宮
→阪急長岡天満宮(解散
16時頃)

費用 約10000円(バス代)
地図 昭文社「京都西山」
係 ◎湯浅次男 ○青木一雄
申込み 〒569-1133
高槻市川西町1-18の20
湯浅次男まで
*定員45名まで

新しく出来る大原野森林公園
(一部完成)から登る。パノラマ
コースの1つ西の尾根に当たる。
雨天中止

三重の山7
海山・高丸山(一般向き)
期日 7月14日(日) 日帰り
集合 ①徳原客車場(国道42
号線沿い) 8時00分/②
海山町(道の駅海山) 9
時30分

コース 道の駅海山(金等)便ノ山・
極まき梅共衛の里→林道
→登山口→分岐尾根→高
丸山→分岐尾根→海山町
相賀→おわせドライブイ
ン(解散16時頃)

費用 1500円
地図 2方5千→引本浦・尾鷲
係 ◎尾崎英五 ○福垣逸夫
申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
福垣逸夫まで
*集合地を明記ください
*マイカー山行

室生・尼ヶ岳から大洞山
(一般向き)
期日 7月15日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅北口7時
30分/②近鉄名張駅8時
45分

コース 名張駅(バス)下太郎生
雨天決行

一富士一尾ヶ岳一
大洞山
期日 7月20日(日) 日帰り
集合 尾崎英五(尾崎英五)中太
郎生(バス)名張駅(解
散17時頃)

費用 約4700円(名古屋か
ら)

地図 2方5千→河原・俱利伽
山
係 ◎小山泉登 ○中村英雄
申込み 〒610-0121
尾崎市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合地を明記ください
大展望が魅力の室生の秀峰一山
を歩く。雨天中止

鈴鹿を歩く123
須谷川(沢歩き・健脚向き)
期日 7月20日(日) 日帰り
集合 尾崎421号線打尾尾心
ろせ酒店前9時00分

コース 尾崎→須谷川→岩の洞門
→鶴ヶヶ口登山車→杜茶
屋(解散)
装備 渓流シューズか地下タビ・
ワラジ必須
費用 交通費各自(*沢歩き山
行のため保険対象外・救
援対策費50円)

昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」
期日 7月25日(日) 日帰り
申込み 〒610-0121
尾崎市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

自然観察山行68
南アルプス
塩見岳・間ノ岳・北岳
(健脚向き)

期日 7月20日(日) 23日(日)
3泊4日
集合 <20日> JR岐阜駅8時
50分

コース <20日>岐阜駅(バス)
鳥谷林道車止地帯→登山
口→三伏峠小屋(泊)
<21日> 三伏峠小屋→塩
見岳→北岳山岳→安濃川
合流→熊ノ平小屋(泊)
<22日> 熊ノ平小屋→間
ノ岳→中白路→北岳山岳
→北岳→北岳山荘(泊)
<23日> 北岳山荘→八本
嶺のコーラ→大滝沢→上河

御在所岳の西尾根に1165m
程のピークがある。ここから眺め
る御在所岳はほとんどの方が未登
験でしょう。御在所岳への新た
なルートに挑みます。雨天中止

原(バス)北沢峠(バス)
戸台口(バス)高遠さく
らホテル(温泉)昼食・
バス)岐阜駅(解散)

費用 約40000円(岐阜駅
からバス・宿泊・保険代
等)

地図 昭文社「尾見・赤石・
聖岳」中巻・北岳」
係 ◎藤岡守康 ○斎野東彦
申込み 〒504-0898
各務原市藤原村南町1の
19の5 藤岡守康まで
*定員20名(6月30日ま
で)

南アルプス中央部の雄・尾見岳
と聖岳・北岳を結ぶ長大な尾根を
歩き、間ノ岳の花畑を羨望しむ。
雨天決行(ただしコース変更あり)

奥秩父・中沢信彦
(心や健脚向き)

期日 7月20日(日) 22日(日)
2泊3日
集合 <20日> JR大津駅8時
00分

コース <20日>大津駅(バス)
梓山(飯野)→マキノヨ
ノ頭(コスタン)→梓山・
白木尻峠(泊)

マキノヨノ頭は短峰。時間によっ
て刃の流まで。千曲川源流コース
はゆるい登りですが、戸越尾根は
ややきついで下りでロングコースに
なります。雨天決行

福井・ホノケ山と奥谷山
(一般向き)

期日 7月22日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口7時30分/②JR米原
駅北陸線ホーム9時00分
武生駅(タクシー)→瓜生
野→奥野々分岐→足谷山

費用 約33000円(バス・
宿泊代等) *20日・22日
の昼食は各自で

地図 昭文社「奥秩父2」
係 ◎妻鹿正子 ○岡田昇
申込み 〒610-0121
尾崎市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(会費優先)

黄草峠・ホノケ山→普
谷峠→瓜生野分岐→奥野々
→南谷峠(電車)→米原駅
(解散18時20分)

費用 約31000円(会費優先)
お使用・名古屋から

地図 2方5千→今庄
申込み 〒610-0121
尾崎市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合地を明記ください

鈴鹿山19
御在所岳・尾見岳(健脚向き)
期日 7月22日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅8時25
分

コース 湯の山温泉駅(車)朝明
一木の平峠→上水尾谷→
御在所岳西峰(飯峠)→
御在所岳→湯の山温泉
点→尾見峠→尾見峠→ア
ナ清水→朝明(車)湯の
山温泉駅(解散17時頃)

新ハイキング関西まで
北山の静かな峠歩き。後半の長い林道歩きは水が補給を十分に。雨天中止

三重、鶴枝ヶ岳(山線向き)
期日 7月29日(日) 日帰り
集合 JR関西線加太駅9時15分

コース 加太駅→袖ノ木峠→湯掛ヶ岳→574・741→湯掛ヶ岳(解散15時頃)
準備 コンプス・地図必須
費用 交通費各自(遠方の方は青春18きっぷを使用)
地図 2万5千→平松・楳本5万→徳島西部
係 ◎山本久雄
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

名阪間道から見える絶景。眼下に伊勢急坂。運が良ければ御嶽を見ながら、暑い夏の一日を過ごす。雨天中止
兵庫丹波・西ヶ岳から三岳
期日 7月29日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口7時30分
コース JR嵯峨駅(タクシー)→花沢→日本坂峠→清瀬峠→丸子→高十→朝霧岩→小野寺→安治川駅(電車)→名古屋駅(解散18時49分)
費用 約3000円(青春18きっぷお使用・名古屋から)
地図 2万5千→静岡西部・塚津

静岡・花沢山から清瀬峠
期日 8月12日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口7時30分
コース JR嵯峨駅(タクシー)→花沢→日本坂峠→清瀬峠→丸子→高十→朝霧岩→小野寺→安治川駅(電車)→名古屋駅(解散18時49分)
費用 約3000円(青春18きっぷお使用・名古屋から)
地図 2万5千→静岡西部・塚津

西中国山地の山
期日 8月13日(日) 15日(祝) 2泊3日
集合 (13日) 新大阪駅正西口

新ハイキング関西まで
北山の静かな峠歩き。後半の長い林道歩きは水が補給を十分に。雨天中止

集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②JR線山口駅10時30分
コース 藤山口駅(バス)→栗原口→西ヶ岳→三岳→大岳寺跡→火打岩(タクシー)→藤山口駅(解散)
費用 約4000円(青春18きっぷお使用・名古屋から)
地図 2万5千→宮田・村雲
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

自然観察山行68
湖北・伊吹山(一般向き)
期日 8月4日(日) 日帰り
集合 JR近江長岡駅8時15分
コース 近江長岡駅(タクシー)→たはバス)→ゴンドラのりば(ゴンドラ)→伊吹山三合目→伊吹山(往復)
費用 約3500円(近江長岡駅からタクシー・ゴンドラ・保険代等)
地図 昭文社「伊吹・伊吹」

観光バスのりば7時00分
期日 (13日) 新大阪駅(バス)→河内(バス)→スキー場→軒小屋→恐羅漢山→中山のゴルフ(バス)→国民宿舎「湯葉ロッジ」(泊)
コース (14日) ロッジ(バス)→湖原温泉→安曇野山→寂地山→寂地峠(バス)→湖原温泉(泊)
費用 約36000円(貸切バス・宿泊代等)
地図 2万5千→三段峠・安曇野山・羅漢山
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで
北山の静かな峠歩き。後半の長い林道歩きは水が補給を十分に。雨天中止

藤原
期日 8月5日(日) 日帰り
集合 国道421号線神崎橋広場8時30分
コース 広場(車)→神崎川林道終点→神崎川→ツメカリ谷→すだれの滝(往復)→神崎川→白滝谷→源流→登山道→神崎川→林道終点(解散)
費用 交通費各自(*沢歩き山行のため保険対象外・救助対策費50円)
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ丘」

湖北・積山岳(中級向き)
期日 8月14日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時35分/②JR米原駅北陣線ホーム8時30分
コース 水ノ木駅(タクシー)→白谷登山口→経ヶ流→五銖子ノ流→積山岳→黒越峠→観谷山合→杉野温泉(バス)→水ノ木駅(電車)
費用 約4000円(青春18きっぷお使用・名古屋から)
地図 2万5千→美濃川上・近江川合
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

自然観察山行70
期日 8月17日(日) 19日(祝) 2泊3日
集合 (17日) 新大阪駅正西口

新ハイキング関西まで
北山の静かな峠歩き。後半の長い林道歩きは水が補給を十分に。雨天中止

◎吉野 明 ○山田英二
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*マイカー山行
神崎川支流のツメカリ谷と白滝谷の沢を楽しむ。雨天中止
湖北・三回山から赤坂山
期日 8月5日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時35分/②JR湖西線マキノ駅10時30分
コース マキノ駅(タクシー)→黒河堤→三回山→鳴玉ノ禿→赤坂山→雲納庵→マキノ高原→マキノ駅(解散)
費用 約3500円(青春18きっぷお使用・名古屋から)
地図 2万5千→塚口
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

湖北・積山岳(中級向き)
期日 8月14日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時35分/②JR米原駅北陣線ホーム8時30分
コース 水ノ木駅(タクシー)→白谷登山口→経ヶ流→五銖子ノ流→積山岳→黒越峠→観谷山合→杉野温泉(バス)→水ノ木駅(電車)
費用 約4000円(青春18きっぷお使用・名古屋から)
地図 2万5千→美濃川上・近江川合
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

自然観察山行70
期日 8月17日(日) 19日(祝) 2泊3日
集合 (17日) 新大阪駅正西口

新ハイキング関西まで
北山の静かな峠歩き。後半の長い林道歩きは水が補給を十分に。雨天中止

＊現地へ、関西からは発行人バス「さわやか号」(大阪発:50・京都発:30・新徳前:6・45)9000円)が便利。申込みはアルビコ大阪予約センター(06-6346-2200)へ。
名古屋からは名鉄快行バス「サマーバル新徳前号」が運行される可能性あり。問合せは名鉄会館バス予約センター(052-5561-3731)へ。
現地前泊はワナ平小屋(050-7750-416268)が便利。
＊集合方法を明記ください。
雨天決行(コース変更あり)

福井・摩志山からの湯着山

(一般向き)
期日 8月19日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口7時30分/②JR米原駅北陸線ホーム9時00分
コース 今庄駅→登山口→蘆ヶ原跡→蘆ヶ原山→下の宮分敷→湯着山(八十八ヶ所弘法寺)→今庄駅(電車)米原駅(解放17時52分)
費用 約3000円(貸衣装はオプション・名古屋から)
地図 2万5千円合庄

方法も明記ください
＊定員10名(会費に限り)
中央アルプスの眺望台へ、標高差1300mを下下して私自身もチャレンジ。秋の足音を聞きにゆく。小雨決行

鈴鹿を歩く126
仙遊谷・赤坂谷
(赤坂谷・健脚向き)
期日 8月26日(日) 日帰り
集合 園田421号線御橋駅広場8時30分
コース 広場(車)→神崎川林道→仙遊谷→赤坂谷→仙遊→神崎川林道(解放)
費用 フラジ必用
交通費各自(バスは赤坂谷山行のため保険料以外・保険料別途追加)
地図 昭文社「新徳前・摩志山」
係 ◎昭文社 明 ○山田英雄
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
〒541-8111 新ハイキング大阪
＊定員20名(会費に限り)
昨年百回記念に歩いた仙遊谷・

係 ◎小山良春 ○中村英雄
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
＊集合方法を明記ください
城陽と寺田とフナ林がすばらしい山。雨天中止

平日水環ハイク43
比良・楊梅の流から釈迦岳
(やや健脚向き)

期日 8月22日(水) 日帰り
集合 JR北小松駅8時30分
コース 北小松駅→楊梅の流→深井→ヤケ山→ヤケオ山→釈迦岳→大津ワンゲル道→雄山山荘→近江舞子駅(解放16時頃)
費用 約1400円(京都から)
地図 昭文社「比良山系」
係 ◎湯浅次男 ○吉木一雄
申込み 〒569-1133 高槻市川西町1-16の20
湯浅次男まで
登りの距離がしつかりとある。残雪に負けずに「山」を歩こう。
雨天中止

京都北山歩き98
小野村割岳(一般向き)

赤坂谷の次ルートを楽しむ。
雨天中止

比良・蛇谷ヶ峰(一般向き)

期日 8月25日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時35分/②JR近江舞子駅9時55分
コース 近江舞子駅(タクシー)→湖→コトナ峠→蛇谷ヶ峰→猪の馬場→桑野橋(バス)→安曇川駅(解放)
費用 約3000円(貸衣装はオプション・名古屋から)
地図 2万5千円北小松・紫陸野
係 ◎小山良春 ○中村英雄
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
＊集合方法を明記ください
比良山系北の眺望の山。
雨天中止

北山まっつと歩き24
姫杉山から全面登山
期日 8月26日(日) 日帰り
集合 京釜線下鉄北大阪駅バスターミナル小出山行きの

期日 8月25日(日) 日帰り
集合 京釜線下鉄北小松駅バスターミナル3時00分
コース 出町柳駅(バス)→広河原→オバナ谷→広々里跡→大杉→小野村割岳→ワサ谷→下ノ町(バス)→出町柳駅(解放18時頃)
費用 約3500円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智徳
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
村田智徳まで
静かな尾根道を小野村割岳へ歩く。途中に杉の巨木を多く見る。
小雨決行

鈴鹿山20

作ノ峰・お金明神・羽鳥峰
期日 8月26日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅9時25分
コース 湯の山温泉駅(車)→朝明→坂の豆峠→タケ谷→愛知川→オン谷→ワケビ峠→作ノ峰→お金明神→お金明神→広沢→羽鳥峰→朝明(車)→湯の山温泉駅

りば(赤C3)7時50分
北大阪駅(バス)小出山
→シヤクまげ原根→焼杉山→梨嶽山→金冠山→江文神社→戸寺(解放15時30分頃・バス)京都

費用 約15000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎奥山繁三
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
雑木林のなか、木陰を歩く夏向きの里山コース。雨天中止

ファミリーハイク9
紀泉・檜尾山(一般向き)
期日 8月30日(水) 日帰り
集合 京北高池鉄道紀泉中央駅
南海バスのりば9時20分
和泉中央駅(バス)→開川
→河水の流→五つ辻→藤
初寺→蔵石→601号→
檜尾山(バス)→和泉中央
駅
費用 約2800円(南海難波
駅起点・交通費別途)
地図 昭文社「紀泉系」
係 ◎木村太郎 ○中村英雄
申込み 〒610-0121

(解放17時頃)
費用 5000円(車代)
地図 2万5千円御在所山
係 ◎山田明男 ○高原芳彦
申込み 〒503-0035 岐阜市海津津市瀬町松山60の19 山田明男まで
＊定員25名(会費に限り)
＊マイカー参加の方はその旨明記ください
お金明神は、まさに天狗の顔そのもの。ぜひ拝顔を。雨天中止

木曾・赤瀬山(健脚向き)
期日 8月26日(日) 日帰り
集合 JR中央本線須原駅7時00分
コース 須原駅→赤瀬山→須原駅(解放15時30分頃)
準備 コンパス・地図が必須
費用 約10000円(大阪・京都から交通費各自)
地図 2万5千円木曾須原5万1上松

係 ◎山本久雄
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
＊8月10日まで(福泊予約などの関係で)集合

週末ハイク34
キャンブ&ハイク
比良・八瀨の滝から武奈ヶ岳
(中級向き)
期日 9月1日(月)2日(火)
午後発一泊2日

集合 (1日)JR近江高島駅15時30分
コース (1日)近江高島駅(バス)→ガリバー旅行社(常設テント泊)
(2日)ガリバー旅行社→八瀨の滝→八雲ヶ原→武奈ヶ岳→福山越→大層峠→ガリバー旅行社(バス)→近江高島駅(解放)
費用 約6600円(バス・テント泊・飲食代等)

地図 昭文社「比良山系」
係 ◎野村忠彦 ○加藤英彦
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

虎尾川は70年ぶりの大雨とか。

梨ヶ野峠からかなりの段差のため
高尾山を断念。何とか天気はも
ち、翌日は残雪を踏んで高尾山の
山頂に到達。いずれも白当ての南
アの展望はだめだったが、哺乳動
物のフィールドラインを見つけた
り、樹木の観察を楽しんだ。

(参加者) 石坂孝子 岩田育士
近江孝子 岡本佳子 木村光江
佐藤浩治 田辺孝子 夏山孝子
平田雅夫 原田和子 鈴木裕己子
松尾孝子 山本直治 松本美代子
渡辺孝子 ○野野東彦
◎鷺見守蔵 (計17名)

丹波・白髪岳

3月25日(日) 雨のちくもり
J R古市駅集合8・30〜40〜仕山
11・10〜南尾根11・25〜33〜共同
アンテナ11・55〜岩場12・55〜白
髪岳13・00(昼食) 13・30〜松尾
山14・20〜30〜文保寺15・05〜15
〜藤山口駅16・00(解散)

雨でキヤンセル続出したが、白
髪岳に到着したころは上がりかけ
ていた。虚空蔵山がガスのなかか
ら現れた時は思わず感激した。文
保寺の石段をくだり山門を出ると
雨が上がった。

越前・権現山

3月31日(土) くもり一時あられ
J R大津駅集合8・00(バス) 登
山口11・00〜不動滝11・10〜前滝
山1・30(昼食) 12・10〜権現山13・
00〜藤原(入浴) 15・00(バス)
(バス) 温泉(入浴) 15・00(バス)
大津駅19・00(解散)

折からの雪景色にかすむ滝は露
玄であった。名残雪で冷えた体を
温泉であたためた。

(参加者) 田中幸子 砂原恵美子
山本直治 船越利明 船越みよ子
岩崎孝子 柳 礼子 安田文美江
小田孝子 野田 弘 武蔵美美子
中村敬香 三井純一 田中三恵子
本藤孟夫 佐藤信江 木下照子
岡 浩敏 岡 菊江 入江武史
岡 謙子 長沢佑美 吉原孝次
吉原浩夫 上田敏子 若本彩子
松尾孝子 小松志信 加納由紀子
中谷孝子 ○加藤元彦
◎鷺野東彦 (計25名)

湖西アルプス

3月26日(日) 晴れ
4月1日(日) 晴れ
J R石山駅集合8・50〜55(バス)
上関9・15〜新茂神社9・20〜
25 池間ヶ岳10・30〜45〜御仏河

(参加者) 鈴木敏彦 東山裕夫
沼田 章 中山正敏 中嶋日出男
小谷和子 中山三江 前田孝久子
塩原孝雄 藤原 邦 中尾美智子
中西玉枝 藤原 幸 辻利幸治
川中 保 荒木光雄 井藤孝孝子
堀 久子 長沢佑美 中上元子
辻 行子 森 精代 渡辺美代子
佐野信子 朝倉明己 中村美雄
○宮下淳一 ○小田直春(計26名)

阿蘇院峰・向山

3月25日(日) 小雨
J R米原駅集合8・30(車) 国道
編ヶ原分岐9・00(車) 林道往復
9・40(車) 佐目(谷口風穴前) 散
策10・30(車) 藤原10・50〜鉄
塔遊歩道経由・阿蘇院峰北の鉄塔
11・40〜阿蘇院峰の鉄塔11・55
(昼食) 12・30〜阿蘇院峰12・40
〜杉原峠12・50 杉13・30〜向山
14・00 杉峠14・20 向山峠15・
00 藤原15・30(車) 藤原駅16・
30(解散)

小雨継続のため、コースを大袖
に変更し、予定の高尾山・権現山・
杉原山に行かず、時間があれば行
くつもりだった阿蘇院峰と向山の
二山を歩いた。藤原ではセツパン
ソウ・アズマイチゲ・フクシユン

御湯岳の池を巡る自然探歩山行18

原11・15〜不動12・00〜15〜雄
ダム12・30(昼食) 13・10〜堂山
14・00〜10〜大神川河原15・00〜
アルプス登山口(バス) 石川15・
35(解散)

二つの山を結ぶコースは、渓谷・岩
場・岩盤ありで変化のあるコース
だった。天気にも恵まれ展望もす
ばらしく、大満足の日だった。

(参加者) 堀田孝子 鈴木恵美子
中村幸子 中尾和子 前田孝久子
西尾伊勢 西尾和子 小原みゆ子
馬籠忠男 山下恒三 高岡富美子
保正 正 松尾止香 吉村孝久江
辻村泰裕 藤本桂吉 宮村孝次郎
家人敏光 家人親子 西野加代子
森 昌好 片山克博 片山美代子
多野道一 多野孝子 松上菜代子
清水昭三 辻 孝子 中尾美智子
渡辺達郎 高田明子 岡本孝子
森田利子 鎌谷節枝 三井千鶴子
山岸謙雄 高田孝子 渡辺美代子
佐田次男 土合孝孝 岩本いすゞ
若本健一 若本彩子 川北直美子
後山美幸 山田ミサ 佐々木敏明
中尾 隆 横澤孝孝 望月千代子
渡井隆子 ○中村美穂
◎小山良春 (計53名)

ウキ、向山ではミスミソウの群落
とセリバオウレンが確認できた。
小林さんは今年初めての手形を授
かった。

(参加者) 吉村 昭 栗本敏夫
西村孝子 西村文男 瀬戸内和子
小松志信 本間 隆 加納由紀子
吉原孝次 中山正江 伊藤恵美子
大橋孝子 沢田義則 中谷孝子
西内正弘 山村昌男 山野吉保江
尾藤信吾 鈴木 浩 鈴木友子
佐治 登 佐治正光江 湯浅みゆ子
小林 実 ○鷺野東彦
◎山田明男 (計26名)

北山・地蔵山と三嶺山から星峰

3月27日(日) 晴れ
J R八木駅8・30(バス) 原9・
15〜25〜磐石山参道10神明峠分岐
10・20〜地蔵山(背向地蔵) 11・
10(昼食) 12・00 背見峠12・40
〜50上三嶺山13・25〜40 星峰14・
55〜15 10〜阿波園寺15・20 神
吉池西15・35〜50 越池口16・15
〜50(バス) 八木駅17・24(解
散)

朝に寒さに包まれて出発した
が、即ちなく快適な陽気になった。
落ち葉を踏み、木々の間から同團

御湯岳の池を巡る自然探歩山行18

4月1日(日) 晴れ
J R関ヶ原駅集合8・20〜30・三
岐野尻沢駅集合8・45(車) コグ
ルミ谷入口9・10〜30 長命水10・
05〜カクタリ峠10・40 幻池口・
10 丸山11・45 風池12・05(昼
食) 12・45 一オチコブテ13・00
〜丸池13・15 夕陽のテラス13・
30 鉛北谷14・00 タテ谷14・30
〜コグルミ谷分岐15・40 1コグル
ミ谷入口15・50〜16・00(解散)

まのうの朝の雲が山頂部で30分
も積もり、霧水もきれいで雪山に
覆戻りしていた。フクシユンウは
谷の途中で二株のみ開花を確認で
きた。それでも多くの雪で遊べた
ので、充実した日になった。

(参加者) 岩田育士 鈴木美智子
中井幸子 本間 隆 瀬戸内和子
春見重美 丹下由子 平井二三三
増尾孝子 湯浅味夫 湯浅みゆ子
南 二雄 南 一 枝 石井孝美子
北川孝子 木下明子 伊藤恵美子
平塚明美 武村千鶴 武蔵由美子
山村昌男 吉村 昭 今井まゆ子
栗本敏夫 奥村敏樹 佐古田文子
小林 裕 島尾忠吾 長谷川雅俊
鈴木 浩 鈴木友子 松本節子
原 孝子 原 光一 高岡安子

の山や眼下の田畑を眺めて歩いた。
北側から眺める地蔵山の大きさを
感じたりした。

*今回でリーダーを寺井氏に交代
します。4年間の皆様の御支援に
御礼申し上げます。(同上)

(参加者) 野田浩夫 前田和生子
藤本健雄 東山裕夫 野里マツ代
吉原孝次 中村和江 砂原美智子
小山 輝 木村 豊 東 美智子
湖田 京 中谷孝子 堀田孝子
本町 隆 本間孝子 松尾敏彦
若本彩子 谷 守 橋本みゆ子
木下明子 加藤明子 小松伊子
青木一雄 柳 照司 若本孝子
山田謙雄 藤原 純 飯島百合子
妹屋一正 菅生孝子 片 すみ子
長沢佑美 岩崎孝子 南 大須賀 實
山田孝子 山本京子 川原孝子
石原君子 中川芳子 川原孝子
松山みつ 辻 富子 渡野孝久
小出文子 湯見孝見 成川みさお
高木 晋 白根孝子 榎本念三
大森正美 松本史雄 宮村孝次郎
安良陽子 奥山豊三 光川一美子
風見陽子 細井初子 山盛加代子
美村孝治 平田洋美 久世美穂子
中山八恵子 蓮井洋子 中尾美智子
田原八恵子 ○中村英雄
◎寺井恒夫 ○川上久堅(計29名)

高尾山から水井山・大尾山

4月7日(日) 晴れ
J R京都駅集合8・20〜44(バス)
登山口バス停9・50〜55 津井江、
00〜10 橋本山11・20 水井山11・
35〜40 津原山好地点11・50(昼
食) 12・50 仰木峠13・05 大尾
山14・35〜40 音無の滝15・25
30(解散)

エフシやタンコウバイが咲き始
めた山道を登ると、権高山から仰
木峠にかけてアサビが満開だった。
少し長目の経路も、好天気でゆと
りをもつてのんびりと歩くことが
できた。

(参加者) 占原慎廣 太平 輝
大平孝子 船越利明 船越みよ子
中村敬香 吉木一雄 砂原恵美子
岡本佳子 奈良邦子 大久保和子
有本信子 北川史枝 秋岡博
若本彩子 山本直子 高岡富美子
佐田次男 山口啓弘 中尾美智子
藤澤陽子 森 禮佳 竹内孝子
則定保夫 小林 桂 ○加藤元彦
◎鷺野東彦 (計27名)

湖北・山本山から眺ぐ

4月8日 晴れ
JR長良川集合9・15(タクシ)
山本9・45-朝日山神社10・00-
山本10・35-45-徳島・広島12・
20(昼食)13・00-丸山三所13・
20・25-腰と岳14・05-20-大石
山15・02-12-JR長良川集合15・40
(バス)
(参加者) 堀田輝子 小極きぬ子
下村啓子 下村啓子 岸 すみ子
平田輝美 清水明三 道 惠美子
基田由美 今藤慶子 松上美代子
岩水健一 岩本彩子 六戸喜久江
止 富子 島田京子 野々山 寛
木村富江 鈴木 庸 名倉マサ子
佐野富江 東 美智子
渡辺美枝子 岡本美子
中尾美智子 小路由利子
○中村英雄 ◎小出良春(計2名)

花の雲山西南風坂

(鈴鹿を歩く115)
4月8日 晴れ
寺院山集合同9・30-あけん原8・
45-宝冠の森9・40-霞降10・15
(参加者) 後藤康幸 西村文男
吉村 昭 吉村孝次 武藤由美子
福岡 章 湯浅康夫 奥野太一郎
北村 正 北村 梢 石田由由美
栗本健夫 小林 仁 佐田文子
栗山隆夫 吉岡 仁 安田良則
森本 隆 森本孝子 高津智美
原 光一 原 幸子 高原芳彦
松田輝子 平塚明美 武村千鶴
磯部 純 西内弘弘 落合ひろ子
池田隆一 谷 守 山野志保江
池田繁美 櫻田勝利 細木美史子
水戸鉄治 谷 久雄 伊藤久久男
河辺政男 今岡民代 小林 実
○山田豊二 ◎岩野 明(計2名)

近江原野台

1-近江原野台11・15-南盛台11・
30-近江原野台11・35(昼食)
12・30-雲山山12・50-雲山13・
05-岩ノ峰13・20-林道14・25-
行者谷14・55-奥ノ原15・50-
雲山山17・00(解散)
西南風の急登ではスハマソウ
の花。南麓からは福寿草の花園、
一面に咲いた菜の花は驚きだっ
た。既製の斜面ではヒップスキー
を楽しみ、夜更谷におりるとマメ
ザクラ・ダンコウバイ・ヤマリリ
ソウ・ヒトリソウなどが、早春の
花菜花の連続するすばらしい山行
となった。
(参加者) 後藤康幸 西村文男
吉村 昭 吉村孝次 武藤由美子
福岡 章 湯浅康夫 奥野太一郎
北村 正 北村 梢 石田由由美
栗本健夫 小林 仁 佐田文子
栗山隆夫 吉岡 仁 安田良則
森本 隆 森本孝子 高津智美
原 光一 原 幸子 高原芳彦
松田輝子 平塚明美 武村千鶴
磯部 純 西内弘弘 落合ひろ子
池田隆一 谷 守 山野志保江
池田繁美 櫻田勝利 細木美史子
水戸鉄治 谷 久雄 伊藤久久男
河辺政男 今岡民代 小林 実
○山田豊二 ◎岩野 明(計2名)

入江武史 安倉止勝

4月14日(土)15日(日) 1泊2日
静岡の山・長者ヶ岳・天子ヶ岳
4月14日(土)15日(日) 1泊2日
(参加者) 三浦弘幸 中西啓明
野口 修 石浜倫子 田中まゆ子
大西幸孝 大西千鶴 小田朝子
中山正敏 岡 浩弘 岡 兼江
木下照子 木村太郎 岡田恵美子
寺野正江 渡藤 隆 田中三恵子
寺田久広 三宮 明 熊木美雄
○岡田 昇 ◎美穂美子(計2名)

三浦中部・湯本山から眺ぐ

4月15日 晴れ
松原敏9・20(タクシ) 森林公
園9・45-湯本谷10・05-10-勢
井分岐11・25-樹坂山口13・35(昼
食)12・20-湯本谷12・47-56-

近江原野台

近江原野台11・15-南盛台11・
30-近江原野台11・35(昼食)
12・30-雲山山12・50-雲山13・
05-岩ノ峰13・20-林道14・25-
行者谷14・55-奥ノ原15・50-
雲山山17・00(解散)
西南風の急登ではスハマソウ
の花。南麓からは福寿草の花園、
一面に咲いた菜の花は驚きだっ
た。既製の斜面ではヒップスキー
を楽しみ、夜更谷におりるとマメ
ザクラ・ダンコウバイ・ヤマリリ
ソウ・ヒトリソウなどが、早春の
花菜花の連続するすばらしい山行
となった。
(参加者) 後藤康幸 西村文男
吉村 昭 吉村孝次 武藤由美子
福岡 章 湯浅康夫 奥野太一郎
北村 正 北村 梢 石田由由美
栗本健夫 小林 仁 佐田文子
栗山隆夫 吉岡 仁 安田良則
森本 隆 森本孝子 高津智美
原 光一 原 幸子 高原芳彦
松田輝子 平塚明美 武村千鶴
磯部 純 西内弘弘 落合ひろ子
池田隆一 谷 守 山野志保江
池田繁美 櫻田勝利 細木美史子
水戸鉄治 谷 久雄 伊藤久久男
河辺政男 今岡民代 小林 実
○山田豊二 ◎岩野 明(計2名)

丹波・とんがり山

4月8日 晴れ
JR吉市駅集合9・10-33-井根
口池10・30-45-薬師堂10・55-
妙見石11・00-10-とんがり山
11・54(昼食)13・08-13-30
145-西寺山14・41-55-林道跡
16・01-下野原16・20-25-上
野沢17・17(解散)
21世紀最初の地図読み山行は初
めて人が13名、係は資料作りでた
いへんだ。とんがり山から西
寺山までは順調だったが、下りで
踏み跡がなくなり、最後は猛烈な
やぶ漕ぎを強いられた。
(参加者) 宮下淳一 向井宏美
向井順子 村上孝代 藤藤 幸
木全正秀 松原敏子 中谷孝子
保田 正 杉原辰良 前田一代
山本清子 岡本孝子 西田美津子
人見正信 河野 弘 徳水知代子
橋田久子 瀧田雄之 ○中村 登
◎桜元一彦 (計2名)

千谷山から常盤寺

4月8日 晴れ
JR京都駅八条口集合8・30-35
(バス) 豊瀬谷10・20-千谷山道
(参加者) 永尾信子 前川和博子
本下朝子 藤原 邦 岡田豊子
中尾美智子 石井美英子
○滝田輝子 ◎小出良春(計2名)

近江原野台

近江原野台9・25(タクシ) 滝
上庄屋9・45-10・00-三方山
11・20-旧取場12・15(昼食)13・
00-笹ヶ岳14・10-25-もみじ峠
15・20-滝上庄屋16・15-近江
原野台16・55-17・03(湯車) 大
原沢17・26(解散)
サクラが満開の長者、5種のス
ミレが咲き始める。林道をたどり
やらかなる身吹き山の肌をタムシ
バとアカヤシオの彩りを味わい、
笹ヶ岳の道でカタクリに出会っ
た。
(参加者) 浅田敏男 東 公子
稲本芳雄 岩原由子 岡田直良
木村光江 小林 性 荻野美紀雄
中谷孝子 夏山登子 三宮喜久江
平田輝美 西村正春 西村八重子
湖田輝子 松岡慶子 砂原美子
松田和生 村田紀生 藤岡美智子
山藤英夫 山藤 隆 船本隆巳子
山本京治 渡辺明子 野々山 寛
○吉田育士 ◎藤原美康(計2名)

三浦中部・湯本山から眺ぐ

4月15日 晴れ
松原敏9・20(タクシ) 森林公
園9・45-湯本谷10・05-10-勢
井分岐11・25-樹坂山口13・35(昼
食)12・20-湯本谷12・47-56-

近江原野台

近江原野台11・15-南盛台11・
30-近江原野台11・35(昼食)
12・30-雲山山12・50-雲山13・
05-岩ノ峰13・20-林道14・25-
行者谷14・55-奥ノ原15・50-
雲山山17・00(解散)
西南風の急登ではスハマソウ
の花。南麓からは福寿草の花園、
一面に咲いた菜の花は驚きだっ
た。既製の斜面ではヒップスキー
を楽しみ、夜更谷におりるとマメ
ザクラ・ダンコウバイ・ヤマリリ
ソウ・ヒトリソウなどが、早春の
花菜花の連続するすばらしい山行
となった。
(参加者) 後藤康幸 西村文男
吉村 昭 吉村孝次 武藤由美子
福岡 章 湯浅康夫 奥野太一郎
北村 正 北村 梢 石田由由美
栗本健夫 小林 仁 佐田文子
栗山隆夫 吉岡 仁 安田良則
森本 隆 森本孝子 高津智美
原 光一 原 幸子 高原芳彦
松田輝子 平塚明美 武村千鶴
磯部 純 西内弘弘 落合ひろ子
池田隆一 谷 守 山野志保江
池田繁美 櫻田勝利 細木美史子
水戸鉄治 谷 久雄 伊藤久久男
河辺政男 今岡民代 小林 実
○山田豊二 ◎岩野 明(計2名)

三浦中部・湯本山から眺ぐ

4月15日 晴れ
松原敏9・20(タクシ) 森林公
園9・45-湯本谷10・05-10-勢
井分岐11・25-樹坂山口13・35(昼
食)12・20-湯本谷12・47-56-

湖北・三重岳

4月15日 晴れ
JR近江今津駅集合8・40-45
(バス) ビラアスト今津8・20-
半池9・30-娘女湖9・45-天狗
岩休憩舎9・50-河内谷分岐休憩
舎10・30-40-尾根坂付き10・45
17-8-2-妙手前広場12・00(昼食)
12・30-13-三重岳13・50-14・20-
河内谷分岐休憩舎16・30-45-ビ
ラアスト今津17・50-18・00(バ
ス) 近江今津18・30(解散)

三浦中部・湯本山から眺ぐ

4月15日 晴れ
松原敏9・20(タクシ) 森林公
園9・45-湯本谷10・05-10-勢
井分岐11・25-樹坂山口13・35(昼
食)12・20-湯本谷12・47-56-

近江原野台

近江原野台11・15-南盛台11・
30-近江原野台11・35(昼食)
12・30-雲山山12・50-雲山13・
05-岩ノ峰13・20-林道14・25-
行者谷14・55-奥ノ原15・50-
雲山山17・00(解散)
西南風の急登ではスハマソウ
の花。南麓からは福寿草の花園、
一面に咲いた菜の花は驚きだっ
た。既製の斜面ではヒップスキー
を楽しみ、夜更谷におりるとマメ
ザクラ・ダンコウバイ・ヤマリリ
ソウ・ヒトリソウなどが、早春の
花菜花の連続するすばらしい山行
となった。
(参加者) 後藤康幸 西村文男
吉村 昭 吉村孝次 武藤由美子
福岡 章 湯浅康夫 奥野太一郎
北村 正 北村 梢 石田由由美
栗本健夫 小林 仁 佐田文子
栗山隆夫 吉岡 仁 安田良則
森本 隆 森本孝子 高津智美
原 光一 原 幸子 高原芳彦
松田輝子 平塚明美 武村千鶴
磯部 純 西内弘弘 落合ひろ子
池田隆一 谷 守 山野志保江
池田繁美 櫻田勝利 細木美史子
水戸鉄治 谷 久雄 伊藤久久男
河辺政男 今岡民代 小林 実
○山田豊二 ◎岩野 明(計2名)

三浦中部・湯本山から眺ぐ

4月15日 晴れ
松原敏9・20(タクシ) 森林公
園9・45-湯本谷10・05-10-勢
井分岐11・25-樹坂山口13・35(昼
食)12・20-湯本谷12・47-56-

近江原野台

近江原野台11・15-南盛台11・
30-近江原野台11・35(昼食)
12・30-雲山山12・50-雲山13・
05-岩ノ峰13・20-林道14・25-
行者谷14・55-奥ノ原15・50-
雲山山17・00(解散)
西南風の急登ではスハマソウ
の花。南麓からは福寿草の花園、
一面に咲いた菜の花は驚きだっ
た。既製の斜面ではヒップスキー
を楽しみ、夜更谷におりるとマメ
ザクラ・ダンコウバイ・ヤマリリ
ソウ・ヒトリソウなどが、早春の
花菜花の連続するすばらしい山行
となった。
(参加者) 後藤康幸 西村文男
吉村 昭 吉村孝次 武藤由美子
福岡 章 湯浅康夫 奥野太一郎
北村 正 北村 梢 石田由由美
栗本健夫 小林 仁 佐田文子
栗山隆夫 吉岡 仁 安田良則
森本 隆 森本孝子 高津智美
原 光一 原 幸子 高原芳彦
松田輝子 平塚明美 武村千鶴
磯部 純 西内弘弘 落合ひろ子
池田隆一 谷 守 山野志保江
池田繁美 櫻田勝利 細木美史子
水戸鉄治 谷 久雄 伊藤久久男
河辺政男 今岡民代 小林 実
○山田豊二 ◎岩野 明(計2名)

三浦中部・湯本山から眺ぐ

4月15日 晴れ
松原敏9・20(タクシ) 森林公
園9・45-湯本谷10・05-10-勢
井分岐11・25-樹坂山口13・35(昼
食)12・20-湯本谷12・47-56-

三浦中部・湯本山から眺ぐ

4月15日 晴れ
松原敏9・20(タクシ) 森林公
園9・45-湯本谷10・05-10-勢
井分岐11・25-樹坂山口13・35(昼
食)12・20-湯本谷12・47-56-

近江原野台

近江原野台11・15-南盛台11・
30-近江原野台11・35(昼食)
12・30-雲山山12・50-雲山13・
05-岩ノ峰13・20-林道14・25-
行者谷14・55-奥ノ原15・50-
雲山山17・00(解散)
西南風の急登ではスハマソウ
の花。南麓からは福寿草の花園、
一面に咲いた菜の花は驚きだっ
た。既製の斜面ではヒップスキー
を楽しみ、夜更谷におりるとマメ
ザクラ・ダンコウバイ・ヤマリリ
ソウ・ヒトリソウなどが、早春の
花菜花の連続するすばらしい山行
となった。
(参加者) 後藤康幸 西村文男
吉村 昭 吉村孝次 武藤由美子
福岡 章 湯浅康夫 奥野太一郎
北村 正 北村 梢 石田由由美
栗本健夫 小林 仁 佐田文子
栗山隆夫 吉岡 仁 安田良則
森本 隆 森本孝子 高津智美
原 光一 原 幸子 高原芳彦
松田輝子 平塚明美 武村千鶴
磯部 純 西内弘弘 落合ひろ子
池田隆一 谷 守 山野志保江
池田繁美 櫻田勝利 細木美史子
水戸鉄治 谷 久雄 伊藤久久男
河辺政男 今岡民代 小林 実
○山田豊二 ◎岩野 明(計2名)

三浦中部・湯本山から眺ぐ

4月15日 晴れ
松原敏9・20(タクシ) 森林公
園9・45-湯本谷10・05-10-勢
井分岐11・25-樹坂山口13・35(昼
食)12・20-湯本谷12・47-56-

近江原野台

近江原野台11・15-南盛台11・
30-近江原野台11・35(昼食)
12・30-雲山山12・50-雲山13・
05-岩ノ峰13・20-林道14・25-
行者谷14・55-奥ノ原15・50-
雲山山17・00(解散)
西南風の急登ではスハマソウ
の花。南麓からは福寿草の花園、
一面に咲いた菜の花は驚きだっ
た。既製の斜面ではヒップスキー
を楽しみ、夜更谷におりるとマメ
ザクラ・ダンコウバイ・ヤマリリ
ソウ・ヒトリソウなどが、早春の
花菜花の連続するすばらしい山行
となった。
(参加者) 後藤康幸 西村文男
吉村 昭 吉村孝次 武藤由美子
福岡 章 湯浅康夫 奥野太一郎
北村 正 北村 梢 石田由由美
栗本健夫 小林 仁 佐田文子
栗山隆夫 吉岡 仁 安田良則
森本 隆 森本孝子 高津智美
原 光一 原 幸子 高原芳彦
松田輝子 平塚明美 武村千鶴
磯部 純 西内弘弘 落合ひろ子
池田隆一 谷 守 山野志保江
池田繁美 櫻田勝利 細木美史子
水戸鉄治 谷 久雄 伊藤久久男
河辺政男 今岡民代 小林 実
○山田豊二 ◎岩野 明(計2名)

三浦中部・湯本山から眺ぐ

4月15日 晴れ
松原敏9・20(タクシ) 森林公
園9・45-湯本谷10・05-10-勢
井分岐11・25-樹坂山口13・35(昼
食)12・20-湯本谷12・47-56-

近江原野台

近江原野台11・15-南盛台11・
30-近江原野台11・35(昼食)
12・30-雲山山12・50-雲山13・
05-岩ノ峰13・20-林道14・25-
行者谷14・55-奥ノ原15・50-
雲山山17・00(解散)
西南風の急登ではスハマソウ
の花。南麓からは福寿草の花園、
一面に咲いた菜の花は驚きだっ
た。既製の斜面ではヒップスキー
を楽しみ、夜更谷におりるとマメ
ザクラ・ダンコウバイ・ヤマリリ
ソウ・ヒトリソウなどが、早春の
花菜花の連続するすばらしい山行
となった。
(参加者) 後藤康幸 西村文男
吉村 昭 吉村孝次 武藤由美子
福岡 章 湯浅康夫 奥野太一郎
北村 正 北村 梢 石田由由美
栗本健夫 小林 仁 佐田文子
栗山隆夫 吉岡 仁 安田良則
森本 隆 森本孝子 高津智美
原 光一 原 幸子 高原芳彦
松田輝子 平塚明美 武村千鶴
磯部 純 西内弘弘 落合ひろ子
池田隆一 谷 守 山野志保江
池田繁美 櫻田勝利 細木美史子
水戸鉄治 谷 久雄 伊藤久久男
河辺政男 今岡民代 小林 実
○山田豊二 ◎岩野 明(計2名)

九州最後の山・九重連峰を歩く
4月29日(昨夜)5月3日(朝朝)
5月6日(船中2泊)

〈集合地〉(六甲アイランド)
港集会所・00〜50(フェリー泊)
〈5日〉小樽 大分港6・00〜10(バス) 牧戸峠8・10〜45(バス) 久住山9・15(尾山山分岐)10・00(久住山分岐)10・30〜50(久住山)10・50(御池)11・50〜12・00(東下流)12・15(法華院温泉)13・55(泊)
〈1日〉霧雨 法華院温泉7・55(大船山)8・10(段原)9・15(30)大船山9・45(55)段原10・10(55)北大船山10・20(大戸越)10・50(55)平谷谷11・20(40)大戸越12・00(坊がつる)12・40(法華院温泉)13・00(泊)
〈2日〉雨 法華院温泉8・30(スガモリ)9・20(保山)9・30(55)12・保山10・30(35)スガモリ峠11・10(20)長者原12・30(昼食)13・20(バス) 明ばん温泉・湯の里14・30(公池)16・10(バス) 大分港16・40(18)・40(フェリー泊)
〈3日〉 神戸港8・55(解散) 登山1日目 2日目とも雨模様で全く眺望がなく、宿に早く入っ

新ハイキングクラブ(関西) 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。
この雑誌は記行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、情報誌が健康な身体をつくり、自然のなかに歩く喜びをともに広めましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に30年間好評のうちに活動してきました。関西は平成3年発足で10年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。
会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいましょう。
リーダー(旅)はすべて無償の奉仕で、各自で印税を高い代金を払い、宿泊料もすべてワリカンです。
会費には番号「新ハイキング関西の山」をお送りします。
四季の自然に触れながら歩き

て温泉と箱根会を楽しんだ。平治岳では湯開のボケとピンクに開花したわずかな数のネリノマツツジを見る事ができた。3日目は雲が切れて大船山方面が姿を見せて天候回復の期待をもたせたが、三保山頂でまた雨が降り出し、下山するまで雨具から解放されない山行だった。
〔参加者〕秋田桐郎 船越みよ子 船越利明 石田賢一 安田文美江 占部信哉 森 瑞代 青木一雄 山藤 隆 小林 柱 中川光郎 奈良種子 堀田輝子 光川三葉子 川白徹也 川島勝美 小坂さゆり 吉本泰之 山田幸子 ◎狩野東彦 (計20名)

徳島山・三區岳(鈴鹿山山16)
4月30日(雨) 小雨のちくもり JR関ヶ原駅集合8・20(30)三岐西野尻駅集合8・45(20)鞍掛トンネル東口集合9・35(20)鞍掛視路9・40(尾根の鉄塔)10・15(尾根山)10・30(尾立坂)11・00(三國峠)11・25(二國岳)11・35(昼食)12・10(尾根山)13・00(尾根の鉄塔)14・00(中野電力)14・30(解放) 立尾所14・30(白石公園)15・00(30)(解散)

朝の雨で参加者は半分になった。カタクリ・イワカガミ・イワウチワ・シヤクナゲ・ミツバツツジ・オオカメノキ等の花に迎えられる。三區分くらいの花見山行となった。時間が早かったので園遊も65号線まで尾根を歩いてくだった。
〔参加者〕湯澤果夫 栗本敏夫 山村誠男 島田信吾 伊藤忠美子 春見新美 宮田信子 落合ひろ子 鈴木 浩 鈴木友子 伊藤孝久男 小林隆子 佐治光江 ◎西原芳彦 ◎山田明男 (計15名)

四国(山)・石鎚山から瓶ヶ森
5月2日(昨夜)6日(朝朝)
4泊5日(船中2泊)
〈2日〉大阪南港集合7・40(22)・50(フェリー泊)
〈3日〉小雨 東予港6・10(30)バス(石鎚山)7・00(クエイ)7・15(40)30(ブウエイ)山上釈7・50(40)30(成沢)9・00(夜明け)すぐ上の広場10・40(昼食)11・10(上水屋分岐)11・30(40)石鎚山山頂12・15(50)上水屋分岐13・00(国民宿舎)13・14(45)(泊)
〈4日〉晴れ 宿舎8・00(1)上きこい峠9・30(40)伊吹山10・10

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員登録料4463番から4510番まで
〔千葉〕 村井 詩 佐久間哲夫
〔京都〕 森藤紀子 佐々木三子代
〔愛知〕 佐々木三子代
〔奈良〕 大山 治 鈴木 浩 鈴木友子 佐治光江 小林隆子
〔三浦〕 高橋妙子 奥村美知代
〔滋賀〕 矢田 肇 矢山妙子
〔大阪〕 浅田明美 浅田芳太郎 八木幸三郎
〔京都〕 小野真子 上林真実 磯野重治 宮崎紀正 中原真穂子 岸本久美 藤野隆一 川地八十郎 山本志美 山本悦子 曾根ひろ子 仲野信子
〔大阪〕 多田孝子 本多輝男 前田一代 和田俊章 北山真枝子 北川孝子 田所真由子
〔兵庫〕 安田孝子 梅澤直哉 坂本公徳 徳田早樹 徳田利孝子 上野孝子 窪田正樹 眞田孝子 遠井友子 八木四郎 (但名)

訂正とお詫び

58号(初夏)12ページ上段6行目「包帯」は「包帯」が正しい。同行日(13行目)「ガマの包帯」とは交差のこと。「は」ガマの包帯とは、「ガマの生肌」のこと。「」が正しい。
58号(初夏)35ページ下段の写真題「……上土見平を望む」は「……上土見平を望む」が正しい。29ページの付近路図の中の「方花荘」は「方花荘」が正しい。「方花荘」は「方花荘」が正しい。11ページ中段(参考)21ページからの「シリーズ初の『風景の山旅』(1986年発行)同」があり、「は」シリーズ初の『風景の山旅』(1987年発行)同、さらに『続々風景の山旅』(1995年発行)同「あり」が正しい。
58号(初夏)90ページ下段20行目「尾根山」は「黒崎山」が正しい。(編集者)